●船員ノ健康檢査標準周知方ニ關スル件

（大正十二年十二月四日）
（衞第六〇七一號）

衞生課長ヨリ郡市醫師會長宛

本件ニ付遞信省管船局長ヨリ別紙ノ通リ商來此趣キヲ以テ周知方衞生局長ヨリ通知有之候ニ付テハ御部內各當業者周知方御取計相成度此段及御通知候也

寫

第二回及第三回ノ國際勞働總會ニ於テ採擇セラレタル條約案ノ趣旨ヲ參酌シテ制定セラレタル船員ノ最抵年齡及健康證明書ニ關スル法令ハ來ル十二月十五日ヨリ實施セラレ爾後十八歲未滿ノ船員ハ健康證明書所持ノ必要有之候處右ニ關スル醫師ノ爲スヘキ健康檢查及其ノ作成スヘキ健康證明書ハ別紙添付ノ大正十二年遞信省令第九十六號別表健康檢查標準ニ依ルヲ要スル義ニ有之候ニ付テハ右檢查標準全國醫師ニ周知方配意相煩度

（大正十二年十一月二十二日）
海第五三九二號

管船局長ヨリ衞生局長宛

健康檢查合格標準

檢查項目	合格標準
一、視力	萬國視力表ヲ五米突ノ距離ニ於テ一眼ハ〇、三號他眼ハ〇、二號ヲ明視シ得ルモノ
二、聽力	一尺ノ距離ニ於テ兩耳共ニ普通ノ談話ヲ聽取シ得ルモノ
三、體格	甚シキ身體ノ薄弱著シキ胸廓發育ノ不良、畸形、四肢、運動障害其ノ他船舶內勞働ニ堪エ

四、疾病	ストー認メラルルモノニ非ラサルモノ 肺、肋膜及心臟ノ疾患精神異常、脚氣竝各種傳染性疾患ヲ有セサルモノ

備考

一、全項目ヲ通シ合格標準以下ノモノアルトキハ不合格トス

二、合格セルモノニ附與スル健康證明書ニハ被檢者ノ氏名本籍及生年月日檢查ノ年月日竝醫師ノ氏名及住所ヲ記載シタル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

尙本件ハ大正十二年十一月二十日官報三千三百七十四號ヲ御參照相成レハ詳細判明ス

●船員ノ健康證明ニ關スル件

（大正十三年七月二十六日）
（衞第四二二四號移牒）

警察部長ヨリ各郡市長宛

別紙ノ通リ衞生局長ヨリ通牒有之參考迄ニ及移牒候也

衞醫第四五〇號
大正十三年七月二十一日

衞生局長ヨリ知事宛

昨年十一月三十日衞醫第四五〇號ヲ以テ船員ノ健康檢查標準周知方ニ關シ及通牒置候處當該法律（大正十二年三月三十日法律第三十五號）ハ年少海員保護ノ精神ヲ以テ制定セラレ同法第六條ニハ戶籍事務ニ付テハ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得ル旨ノ規定モ有之次第ニ候處近來此等海員ノ健康證明ニ際シ不廉ナル料金ヲ徵收スル醫師アル趣遺憾ノ次第ニ被存候間立法ノ趣旨ニ鑑ミ可成低廉ナル料金ニテ證明ヲ與フル樣（管內醫師ニ御通達相成度）

第十章　種痘、痘苗及血清

●種痘法

（明治四十二年四月十四日）
（法律第三十五號）

第一條　種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　第一期　出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

二　第二期　數ヘ歳十歳但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

第二條　保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ

第三條　左ニ揭クル者ハ未成年ノ生徒、院生若ハ之ニ準スヘキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

一　學校、育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長、院長其ノ他首長

二　教育、監薄又ハ傭使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者

前項各號ニ揭クル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス

第四條　新ニ保護者トナリ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

者ヲシテ六月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

前項ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル市ニ屆出ツヘシ

未成年者ヲ傭使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシメサル場合ト雖前二項ノ規定ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ

第六條　市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

第七條　疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得

前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ市町村長ハ其ノ證ヲ交付スヘシ

第八條　市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者ヲ戸籍吏ニ通知シ戸籍吏ハ戸籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戸籍法第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條　市町村長ハ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條　種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證跡不明ナル者ノ定期外ニ受ケタル種痘ハ第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外其ノ定期種痘ト看做ス

第十一條　第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其ノ期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ

市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ニ種痘濟證ヲ交付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ痘漿ヲ採收スルコトヲ得

第十二條　醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證ヲ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ種痘證ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ

第十三條　醫師ハ其ノ診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキハ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ

第十四條　當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受クヘキ者ノ範圍及期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得

臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十六條　醫師虚偽ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セスシテ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　左ニ揭クル者ハ科料ニ處ス

一　第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者

二　保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者

第十八條　第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十九條　官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第二條第一項及第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十條　本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戸主、戸主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

附　則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ヘ歳七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモ其ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依ル第一期ノ種痘、數ヘ歳八歳以後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

第七編　衞生　第十章　種痘、痘苗及血清

●種痘法施行規則

大正八年八月内務省令第一〇號改正
（明治四十二年十二月二十一日
内務省令第二十六號）

第一條　市町村長區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ市町村長ニ準スヘキモノヲ含ム、以下之ニ倣フ　ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ現住人中左記各號ニ該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

一　前年中出生ノ者

二　數ヘ歳十歳ノ者

三　前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者

地方長官（東京府ハ警視總監、以下之ニ倣フ）ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラス種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ得

本條ノ指定ハ之ヲ公告スヘシ

第二條　市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スヘシ

第三條　保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成年者ヲシテ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所ニ於テ種痘ヲ受ケシムヘシ

第四條　市町村長ハ痘瘡、猩紅熱、實布垤利亞（格魯布ヲ含ム）、丹毒、麻疹、百日咳ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シ又ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フヘシ

第五條　種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ事故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ經過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ

第六條　種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ遲クモ次回ノ種痘施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スヘシ

前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第七條　檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第八條　種痘濟證、種痘證及種痘猶豫證ハ附錄樣式ニ據ルヘシ

第九條　左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘濟證交付後又ハ屆出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地ノ戸籍吏ニ通知スヘシ

一　第一期種痘善感シタル者

二　第一期第二回ノ種痘不善感ナル者

三　第一期種痘施行前痘瘡ヲ經過シタル者

第十條　市町村長ハ戸籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條ニ依ル符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者カ本籍地外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第十一條　種痘法第十二條第二項ノ屆出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明書ヲ得テ現住地ノ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ屆出ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條　種痘法第十四條ニ依リ警察官吏又ハ市町村吏員ノ請求アル場合ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルコトヲ證明スル者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ提示スルコトヲ要セス

一　痘瘡經過證

二　種痘猶豫證

三　小學校、之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ

四　第一期種痘ニ付テハ種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入アル戸籍謄本又ハ抄本

五　市町村長ノ證明書

六　種痘又ハ痘瘡ノ瘢痕但シ第二期種痘ニ付テハ其ノ證跡

附　則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十三年一月一日ヨリ施行）

様　式

用紙赤色紙

第一號（第一期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ）

第一期種痘濟證

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年　月種痘（第　回）善感　顆

年　月　日

住所　道府縣郡市區町村某男女

何　某

年　月　生

注意（此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

用紙赤色紙

第二號（第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ）

第一期種痘濟證

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年　月種痘（第二回）不善感

年　月　日

住所　道府縣郡市區町村某男女

何　某

年　月　生

注意（此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

用紙青色紙

第三號（第二期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ）

第二期種痘濟證

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年　月種痘（第　回）善感　顆

年　月　日

住所　道府縣郡市區町村某男女

何　某

年　月　生

注意（此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

用紙青色紙

第四號（第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ）

第二期種痘濟證

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年　月種痘（第二回）不善感

年　月　日

住所　道府縣郡市區町村某男女

何　某

年　月　生

第二期種痘濟證

年 月種痘(第二回)不善感

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年 月 日

注意(此證ハ滿二十歲ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十四以下ノ科料ニ處セラルヘシ)

用紙白紙

第五號 (第一期又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第 期第一回種痘濟證

年 月種痘 不善感

右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

年 月 日

住所 道府縣郡市區町村某男女

何 某

年 月 生

道府縣郡

市町村長 何 某印

道府縣郡

市町村長 何 某印

注意(此證ハ更ニ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十四以下ノ科料ニ處セラルヘシ)

第六號 (第一期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘證

年 月種痘(第 回)善感 顆

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年 月 日

住所 道府縣郡市區町村某男女

何 某

年 月 生

道府縣郡市區町村

醫師 何 某印

注意(此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十四以下ノ科料ニ處セラルヘシ)

第七號 (第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘證

年 月種痘(第二回)不善感

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年 月 日

住所 道府縣郡市區町村某男女

何 某

年 月 生

年　月　日

道府縣郡市區町村

警　師　何　某㊞

注意（此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

第八號（第二期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ）

第二期種痘證

年　月種痘（第　回）善感　顚

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年　月　日

住所　道府縣郡市區町村

何　某　男女　年　月　生

注意（此證ハ滿二十歲ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

第九號（第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ）

第二期種痘證

年　月種痘（第二回）不善感

道府縣郡市區町村

警　師　何　某㊞

住所　道府縣郡市區町村某男女

何　某　年　月　生

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年　月　日

道府縣郡市區町村

警　師　何　某㊞

注意（此證ハ滿二十歲ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

第十號（第一期第一回又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ）

第　期第一回種痘證

年　月種痘（第一回）不善感

右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

年　月　日

道府縣郡市區町村

警　師　何　某㊞

注意（此證ハ更ニ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

用紙白紙

第十一號

第　期種痘猶豫證

住所　道府縣郡市區町村某男女

何　某

右者（何々病）ノ爲種痘法第七條ニ依リ（治癒ニ至ル年月）迄種痘ヲ猶豫スル但シ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ前記ノ疾病治癒事故消滅シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ事故消滅シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ期間經過

年　月　日

道府縣郡
市町村長　何　某　印

注意（此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

（明治四十二年十二月二十一日
内務省告示第百七十九號）

●種痘施術心得

第一條　種痘ニ要スル痘苗ハ牛痘苗ヲ用フヘシ

第二條　痘苗ハ冷暗所氷室、地下室ニ貯藏シ製造所ノ指定シタル期間内ニ之ヲ使用スヘシ
又ハ深井内等ニ貯藏シ製造所ノ指定シタル期間内ニ之ヲ使用スヘシ

第三條　痘苗ノ接種量ハ製造所ノ指定ニ從フヘシ痘苗ハ之ヲ稀釋スヘカラス

第四條　痘苗使用ノ際ハ其ノ内容ヲ乳鉢上ニ出シ能ク之ヲ攪拌混和スヘシ

第五條　痘苗接種ノ部位ハ上膊ノ伸側ヲ可トス
接種ニ臨ミテハ先ツ局所ヲ「アルコホル」又ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ消毒シ次ニ滅菌シタル「ガーゼ」又ハ脱脂綿ヲ以テ丁寧ニ之ヲ拭淨スヘシ

第六條　種痘ノ場所ハ相當廣濶ニシテ清潔ナル場所ヲ選ヒ其ノ換氣、採光、煖室ニ注意スヘシ

第七條　施術者ハ成ルヘク上衣ヲ著シ且豫メ手指ヲ消毒スヘシ

第八條　滑澤及種痘針ハ使用ニ先チ「アルコホル」又ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ之ヲ消毒シ次ニ滅菌シタル「ガーゼ」ヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ但シ適當ナル他ノ消毒方法ニ依ルモ妨ナシ

第九條　接種ノ方法ハ切種式ニ依ルヘシ即チ局部ノ皮膚ヲ緊張シ相當量ノ痘苗ヲ塗布シタル後切種用種痘針ヲ以テ其ノ部ニ淺キ十字切（長サ一分乃至二分）若ハ單線切（長サ約三分）ヲ施シ更ニ種痘針ノ平面ヲ以テ痘苗ヲ擦入スヘシ
切種ニ際シテハ成ルヘク出血セサル樣注意スヘシ僅ニ紅痕ヲ呈スルヲ以テ適度トス

第十條　接種數ハ第一期種痘ニ在リテハ右上膊四切乃至六切、第二期種痘其ノ他ニ在リテハ左上膊六切トシ各切ノ距離ハ五分以上ナルヲ要ス但シ必要アルトキハ他側又ハ他ノ部位接種スルモ妨ナシ

第十一條　施術者ハ受痘者ノ健康狀態ニ注意シ左ノ各號ニ該當スル者ハ成ルヘク種痘ヲ猶豫スヘシ但シ第四號ヲ除ク外痘痕流行ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　出生後九十日未滿ノ者
二　著シク營養障害ニ陷レル者
三　蔓延性皮膚病ニ罹リ居ル者
四　熱性病又ハ重症疾病ニ罹リ居ル者

第十二條　檢診ノ場合ニ於テ注意スヘキ要項左ノ如シ
一　定型痘疱二顆以上發痘シタルモノヲ善感トス但シ第二期種痘ノ小結節又ハ水泡ヲ生シタルモノモ亦善感トス
二　接種ノ痕跡消失シタルモノ、不正ナル膿疱ヲ生シタルモノ、潰瘍ニ陷リ若ハ痂皮ヲ結ヒタルモノ又ハ第一期種痘ニ在リテ發痘一顆ナルモノヲ不善感トス

第十三條　施術者又ハ當該吏員ハ受痘者又ハ其ノ保護者ニ對シ種痘後注意スヘキ事項ヲ指示スヘシ

●市町村種痘事務整理順序

（明治四十三年三月九日訓令甲第八號）

沿革　大正三年二月訓令甲第三號、一五年六月同第三四號改正

〔郡役所〕警察署〔警察分署〕
市役所　町村役場

第一、種痘期日ノ指定及公種痘施行ノ期間

第一條　市町村長ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ前年中出生ノ者、數ヘ歳十歳ノ者及前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者其ノ他種痘ヲ行フ必要アル者（第十條第三號乃至第五號該當ノモノ）ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

第二條　市町村長ハ受痘者ノ豫定員數ニ應シ（醫師一人一日ノ種痘人器凡二百人以内ト算スヘシ）公種痘施行ノ期間及其ノ場所ヲ定メ種痘期日ノ指定ト共ニ豫メ之ヲ公告スヘシ

前項ノ種痘期日ハ公種痘（市町村ニ於テ施行スル種痘ヲ謂フ以下倣之）施行期間ノ最終日トスヘシ但シ市町村内ノ大字等ニ依リ種痘期日ヲ異ニスルヲ妨ケス

市町村長ハ前項公告ノ外種痘簿及學齡簿等ニ依リ種痘定期ニ在ル者其ノ他種痘ヲ行フ必要アル者ヲ調査シ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ種痘期日ノ指定、公種痘施行ノ期間及其ノ場所ヲ漏ナク通知スヘシ

第三條　種痘法施行規則第四條ノ患者アル家ノ受痘者ニ付テハ公種痘施行ノ日時又ハ場所ヲ別ニ定メ之ヲ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ通知スヘシ

第二、公種痘施行ノ準備

第四條　種痘ハ市町村醫ヲシテ之ヲ施行セシメ又ハ相當技能アル醫師ニ之ヲ囑託スヘシ但シ數町村協議シテ巡回種痘ヲ囑託スルコトヲ得

第五條　市町村ハ痘苗ノ外種痘ニ要スル器械藥品ヲ準備スヘシ其ノ品目概ネ左ノ如シ

一　切種用痘針
二　漿盤
三　滅菌「ガーゼ」及脫脂綿、同上容器
四　「アルコール」又ハ「クレゾール」水若ハ其ノ他ノ消毒藥液
五　「ペトリー」氏小皿及硝子製圓筒（「コップ」ノ類）

前項品目ノ數量ハ種痘人員ニ應シ醫師ノ意見ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第六條　市町村ハ種痘ヲ行フヘキ人員（受痘者ハ第一期及第二期ヲ合シテ人口千人ニ付毎年五十人内外ヲ普通トス）ニ應シ痘苗具數ヲ豫算シ發送期日ヲ指定シテ一箇月以前ニ傳染病研究所ニ請求スヘシ

第七條　種痘施行ノ場所ハ受痘者ノ集合ニ便利ナル地ニ於テ給常廣濶ニシテ可成清潔ナル箇所ヲ擇定スヘシ授業ヲ妨ケサル限リハ小學校等ヲ種痘所ニ充ツルコトヲ得

前項ノ種痘所ハ地域廣濶ナル市町村ニ於テハ數箇所ニ設置スルコトヲ得

第八條　種痘所ニハ受痘者控室及施術室ヲ區別シ各室トモ豫メ濕拭掃除ヲ行ヒ又換氣採光ニ注意シ寒冷ナル日ニアリテハ相當暖室ノ設備ヲ爲スヘシ

第三、種痘簿ノ編製

第九條　種痘簿ハ其ノ年施行スル公種痘ノ用ニ供シ併テ其ノ年ニ於ケル公私種痘ノ成績ヲ明ニスル目的ヲ以テ編製スルモノトス但シ市ニアリテハ次年ノ種痘簿作製マテ之ヲ用ユヘシ

第十條　市町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ別記雛形ノ第一期及第二期種痘簿ヲ編製スヘシ

一　戸籍濕、身分登記簿及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調査シ前年中既ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ之ヲ第一期種痘ニ登載スルコト但寄留等ノ屆出ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ登載スルコト

二　學齡簿ニ就キ數ヘ歳十歳ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ之ヲ第二期種痘簿ニ登載スルコト但シ學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ登載スルコト

三　戸籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタルトキハ他市區町村ニ轉居シタル者ヲ除キ之ヲ第一期種痘簿ニ登載スルコト

四　前年種痘ヲ猶豫シタル者及前年第一囘種痘不善感ナル者其ノ他前年ノ種痘簿ニ登載ノ者ニシテ前年中ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了セサルトキハ之ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

五　前各號ノ外學校、育兒院、製造所等ノ首長、警察官吏又ハ衞生組合長ノ通報種痘法第四條第二項ノ屆出其ノ他種痘法第十四條ニ依レル調査等ニ依リ種痘ヲ忌リタル者（種痘ヲ受ケタル證跡不明ナル者ヲ含ム以下同シ）ヲ第一期種痘簿ニ登載スルコト

第十一條　市町村長ハ種痘簿編製後種痘ノ指定期日迄ニ前條ニ該當スル者其ノ市町村內ニ來住シタルトキハ遲滯ナク種痘簿ニ登載スヘシ

第十二條　市町村長ハ前二條ノ外常ニ種痘ヲ忌リタル者ヲ調査シ之ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ年內ニ種痘ヲ完了セシメ難シト認ムル者ニ就テハ其ノ通報書、屆書、調査書等ヲ一括保存シ翌年ノ種痘簿ニ登載スヘシ

第十三條　市町村長ハ種痘簿ニ登載ノ者種痘ノ指定期日迄ニ死亡シ又ハ他市區町村ニ轉住シ若ハ一年以上居所不明ナルトキ又ハ痘瘡ヲ經過シタル爲メ種痘ヲ要セサルトキハ其ノ事由ヲ常該欄內ニ記シ氏名ノ欄ヲ朱線ニテ抹消スヘシ

前項ノ外種痘簿記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ（既ニ種痘ヲ完了シタル者ニ付テノ異動ヲ除ク）遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第十四條　市町村長ハ公種痘ヲ施行シタルトキ及種痘法第十二條第二項私種痘ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度遲滯ナク種痘ノ月日成績等ヲ種痘簿當該欄內ニ記入シ種痘ヲ猶豫シタル者ニ付テハ備考欄內ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

其ノ年出生ノ者第一期種痘ヲ完了シ又ハ數ヘ歳八歳九歳ノ者第二期種痘ヲ完了シタルトキハ之ヲ登載スヘシ

第二十七條ニ依リ種痘施行ノ場合ニ於テ其ノ年內出生者ノ種痘ノ月日成績等ハ別ニ種痘簿ヲ調製シ之ニ登載整理スヘシ

種痘簿編製前（一月一日ヨリ種痘簿編成ニ至ル間）私種痘ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ屆書（口頭屆出ナレハ控書ヲ作リ）ヲ保存シ種痘簿編成ノ際之ヲ登載スヘシ

第十五條　種痘簿ノ記入順序ハ受痘者ノ多數ナル市町村ニ於テハ町名、字名若ハ番地ニ依リ適當ニ區別シ又ハ氏名ノ「イロハ」順ニ記入スル等捜索ニ便ナラシムヘシ

種痘定期ニ在ル者及種痘ヲ忌リタル者ニ付テハ各別ニ種痘簿ヲ調製スヘシ

第十六條　市町村吏員ハ種痘所ニ臨ミ種痘事務ニ從事スヘシ

種痘所ニハ種痘簿ヲ配置シ種痘ノ月日、成績等ヲ記入スヘシ

第十七條　正當ノ事由ニ依リ種痘所ニ出頭スルコト能ハサル受痘者ニ對シテハ其ノ住所ニ就キ種痘ヲ施行スル等便宜ノ方法ヲ講スヘシ

第十八條　種痘所ニハ檢診期日及種痘後注意事項ヲ掲示シ且之ヲ覺書トシ保護者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ交付スヘシ其ノ注意スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一　清潔ナル襦袢ノ類ヲ着用セシムコト

二　感冒ノ豫防ニ注意シ種痘後數日間ハ腰湯ノ類ハ妨ケナキモ可成全身浴ヲ禁スルコト

三　接種ノ部位ハ摩擦掻爬又ハ汚染セサル樣注意スルコト

四　接種部附近ニ腺腫ヲ生シタルトキ、發熱高キトキ又ハ潰瘍ヲ生スルノ傾アルトキハ醫師ノ診察ヲ受クルコト

五　指定セラレタル檢診期日ニハ相違ナク檢診所ニ出頭スヘキコト但シ止ヲ得サル事由アルトキハ其ノ當日マテニ事由ヲ具シ屆出ツルコト

六　種痘濟證ハ大切ニ保存スヘキコト

本條注意事項ノ揭示及覺書ニハ判リ易キ樣平易ナル文意ノ振リ假名ヲ附スヘシ

第十九條　檢診ハ種痘後第六日乃至八日ニ種痘所ニ於テ醫師之ヲ行ヒ市町村吏員ハ其ノ事務ニ從事スヘシ

第二十條　檢診ノ當日正當ノ事由ニ依リ出頭スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ住所ニ就キ檢診ヲ行ヒ又ハ最寄醫師ノ檢診ヲ受ケシメ其ノ種痘證ヲ提示シ又ハ其ノ寫ヲ添ヘ口頭若ハ書面ヲ以テ屆出ヲ爲サシムヘシ

第二十一條　種痘濟證ハ檢診ノ當日之ヲ交付スヘシ

第二十二條　市町村長ハ學校、育兒院、製造所其ノ他多數ノ兒童ヲ集合セシムル場所ノ首長ニ協議シ各自ニ醫師ヲシテ種痘及檢診ヲ行ハシメ又ハ兒童ノ來集スヘキ種痘所及日時等ヲ打合ハセ種痘及檢診ヲ行フ等機宜ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十三條　市町村長ハ便宜衞生組合長等ヲシテ組合內ノ種痘未了者ヲ調査セシメ其ノ保護者等ニ對シ指定期日マテニ種痘ヲ受クヘキコトヲ戒告セシメ又ハ其ノ種痘所ニ來集スヘキモノハ可成之ヲ引率出頭セシムヘシ但シ兒童ノ保護者等ニシテ兒童ヲ種痘所ニ出頭セシメ難キ事由アルモノアルトキハ其ノ氏名住所等ヲ通報セシメ第十七條ニ依リ種痘ヲ施行スヘシ

第二十四條　衞生組合ニ於テ種痘ヲ施行シタルトキハ便宜組合長ヲシテ保護者等ニ代リ施術醫師ノ證明ヲ得種痘法第十二條第二項私種痘ノ屆出ヲ爲サシムヘシ

第二十五條　市町村長ハ種痘簿ニ依リ指定期日マテニ種痘ヲ行ハサル者、種痘猶豫期間ヲ經過シタル者其ノ他種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ適當ト認ムル期日ヲ限リ種痘ヲ催告スヘシ

前項期日マテニ種痘ヲ完了セサルトキハ種痘法施行規則第六條ニ依リ遲クモ次回ノ公種痘施行期ニ於テ更ニ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ適當ト認ムル期日ヲ指定スヘシ

前項期日マテニ尙故ナク種痘ヲ行ハサルモノアルトキハ市町村長ハ警察官吏ト協議シ其ノ居所等ニ於テ種痘ヲ強制施行スヘシ

第二十六條　受痘者多數ナル町村ニ於テハ第二條ニ依ルノ外十月ヨリ十二月ニ至ル間ニ於テ再ヒ公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ前條第一項ニ該當スル者種痘定期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スヘシ

第二十七條　市ニ於テハ前各條ニ據ルノ外隔月（八月九月ヲ除ク）一回以上公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ豫メ之ヲ公告シ出生後九十日ヲ經タル者其ノ他種痘定期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスルモノニ種痘ヲ施行スヘシ

第二十八條　市町村長ハ公種痘施行ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ日傭稼人勞働者等ノ居住地ニ醫師及吏員ヲ派遣シ其ノ件所ニ就キ種痘及檢診ヲ施行スル等適宜ノ方法ヲ講スヘシ

第六、種痘ニ關スル通知記入

第二十九條　市町村長ハ戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ他市區町村ニ轉居シタル者アルトキハ速ニ之ヲ轉居先ノ市區町村長ニ轉報スヘシ

第三十條　市町村長ハ公種痘ヲ施行シ又ハ種痘法第十二條第十二項私種痘ノ屆出ヲ受ケタルトキハ第一期種痘ヲ完了シタル者（善感シタル者及不善感ナルモノニ限ル）ヲ速ニ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スヘシ第一期種痘前痘瘡ヲ經過シタル者アルトキ亦同シ

第三十一條　市町村長ハ學齡簿編製ノ際之ニ種痘ニ關スル事項（第何期種痘完了、第何期第一回、不善感、痘瘡經過、各其年月）ヲ記入スヘシ

前條ノ場合ニ於テ學齡兒童ナルトキハ其ノ第一期種痘ナルトキハ第二期種痘前痘瘡ヲ經過シタル者アルトキ亦同シ

第三十二條　市町村長ハ小學校及之ニ類スル各學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ可成種痘ニ關スル事項（定期種痘完了又ハ痘瘡經過）ヲ記入セシムル樣校長又ハ主長ト協議スヘシ

第三十三條　種痘濟證ハ保存ニ便ナラシムル爲厚キ西洋紙ニテ調製シ其ノ大サハ縱五寸五分橫四寸五分ト爲スヘシ

第三十四條　市町村ニ於テハ醫師ノ交付スヘキ種痘證用紙ヲ種痘濟證用紙ニ準シテ調製シ置キ醫師ノ請求アルトキハ無償

ニテ之ヲ交付スヘシ私種痘届用紙モ亦之ニ準シ醫師ニ交付シ置キ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ代リ届出ヲ爲サシムヘシ

第三十五條　市町村長ハ種痘施行ヲ公告シタルトキハ速ニ其ノ施行期間、場所竝各種痘所ニ於ケル種痘施行ノ區域ヲ警察官署ニ通報シ且知事ニ報告スヘシ

第三十六條　市町村長ハ其ノ年内ニ施行シタル種痘成績ヲ左記樣式ニ據リ翌年一月末日迄ニ知事ニ報告スヘシ

（用紙美濃紙）

明治　年第　期種痘簿

氏名	生年月日	住所及保護者等ノ氏名	種痘發痘月日	顆數	善感	不善感	公私種痘	種痘ヲ行ハサル理由	備考

何々　市役所
　　町村役場

附　則

第三十七條　種痘簿編製ノ期日ハ明治四十三年ニ限リ三月末日迄トス

（用紙美濃紙）

第（一）（二）期種痘成績表　大正　年　〔郡〕〔市〕役所　町〔村〕役場

郡市町村名		公種痘 善感人員	公種痘 不善感人員	公種痘 檢診未了人員	公種痘 計	私種痘 善感人員	私種痘 不善感人員	私種痘 計	未種痘人員
何市	第一回								
	第二回								
何町	第一回								
	第二回								
何村	第一回								
	第二回								
合計	第一回								
	第二回								

一　本表ニハ定期種痘（種痘法第一條第二項及同第十條ニ依リ定期種痘ト看做スヘキモノヲ含ム）ノ成績ヲ記入スルモノトス

　定期外ニ屬スルモノハ之ヲ本表ニ記入スヘカラス

二　第一期ト第二期トハ各別表ニ調査シ市町村ニ於テ施行シタル種痘ハ之ヲ公種痘欄ニ其他ハ總テ之レヲ私種痘欄ニ記入ス可シ

三　第一回欄ニハ其定期第一回ノ種痘成績ヲ記入シ第二回欄ニハ前年若ハ其年第一回ノ種痘不善感ナリシ爲メ更ニ種痘ヲ行ヒタル者未タ檢診ヲ了シ第二回欄ニハ第一回ノ種痘檢診未了人員ノ第一回欄ニハ其定期第一回ノ種痘ヲ行ヒタル者未タ檢診ヲ了セサルモノヲ記入スヘシ

四　檢診未了人員ノ第一回欄ニハ其定期第一回ノ種痘ヲ行ヒタルモ未タ其檢診ヲ了セサルモノヲ記入スヘシ

五　未種痘人員ハ種痘濟又ハ種痘票ニ登載セラレタル要種痘者中其定期種痘ヲ受ケサルモノ若ハ受ケタルコト不明ナルモノヲ記入（第一回關）スヘシ

●傳染病研究所痘苗、血清等販賣規程

（大正四年九月十四日文部省令第十三號）

沿革　大正五年三月文令第七號、六月第一二號、七年五月第九號、八年八月第二八號、一二月第三八號、九年一二月第三六號、第三七號、一〇年八月第三五號、一二月第四七號、一一年五月第二一號、一二年六月第二六號、一三年五月第一三號、九月第一九號、一四年六月第三一號改正

第一條　傳染病研究所ニ於テ製造販賣スル痘苗、血清等ハ左ノ各種トス

痘苗
「ダフテリア」血清
「ダフテリア」抗毒素
破傷風血清
腸窒扶斯血清
赤痢血清（多價）
虎列剌血清
「ペスト」血清
飯匙蛇毒血清
連鎖球菌血清
流行性腦脊髓膜炎菌血清
肺炎雙球菌血清
「インフルエンザ」菌肺炎雙球菌混合血清
健康馬血清
黄疸出血性スピロヘータ血清（ワイル氏病病原血清）
「ツベルクリン」舍
丹毒連鎖球菌「ワクチン」
腸窒扶斯「ワクチン」
「パラチフス」A菌「ワクチン」
「パラチフス」B菌「ワクチン」
「パラチフス」菌混合「ワクチン」
腸窒扶斯「パラチフス」菌混合「ワクチン」
赤痢「ワクチン」
虎列剌「ワクチン」
「ペスト」「ワクチン」
「インフルエンザ」菌肺炎雙球菌混合「ワクチン」
黄疸出血性「スピロヘータ」「ワクチン」（ワイル氏病豫防液）
百日咳菌「ワクチン」
痲菌「ワクチン」
狂犬病「ワクチン」
犬體用狂犬病「ワクチン」（豫防液）

腸窒扶斯診斷液
「パラチフス」A型診斷液
「パラチフス」B型診斷液
毒素診斷液

第二條　前條ノ痘苗、血清等ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ傳染病研究所ニ請求スヘシ但シ痘苗ナ除クノ外血清等ノ賣渡ヲ受クルコトヲ得ル者ハ官衙、公署、公共團體、醫師、藥劑師又ハ藥種商ニ限ル

第三條　外國ヨリ痘苗、血清等ノ請求アリタルトキハ本邦ノ供給ニ妨ナキ場合ニ限リ之ニ應スルモノトス

第四條　痘苗、血清等ノ定價ハ左ノ如シ但シ本邦及支那ニ限リ運送賃ヲ要セス

痘苗	一具（五人分）	金七錢
「ザフテリア」血清		
液體「ザフテリア」血清		
第一號	一壜（五〇〇免疫單位）	金四十五錢
第二號	一壜（一、〇〇〇免疫單位）	金九十錢
第三號	一壜（一、五〇〇免疫單位）	金一圓三十五錢
第四號	一壜（三、〇〇〇免疫單位）	金二圓七十錢
第五號	一壜（五、〇〇〇免疫單位）	金四圓五十錢
乾燥「ザフテリア」血清	一壜（五、〇〇〇免疫單位）	金四圓五十錢
「ザフテリア」抗毒素		

甲種		
第一號	一壜（二、〇〇〇立方センチメートル）（三、〇〇〇免疫單位）	金七圓五十錢
第二號	一壜（三、〇〇〇立方センチメートル）（四、五〇〇免疫單位）	金十一圓廿五錢
第三號	一壜（四、〇〇〇立方センチメートル）（六、〇〇〇免疫單位）	金十五圓
乙種		
第一號	一壜（三、〇〇〇立方センチメートル）（三、〇〇〇免疫單位）	金六圓
第二號	一壜（四、五〇〇立方センチメートル）（四、五〇〇免疫單位）	金九圓
第三號	一壜（六、〇〇〇立方センチメートル）（六、〇〇〇免疫單位）	金十二圓
丙種		
第一號	一壜（四、〇〇〇立方センチメートル）（三、二〇〇免疫單位）	金四圓五十錢
第二號	一壜（六、〇〇〇立方センチメートル）（四、八〇〇免疫單位）	金六圓七十五錢
第三號	一壜（八、〇〇〇立方センチメートル）（六、四〇〇免疫單位）	金九圓
破傷風血清		
液體破傷風血清		
第一號	一壜（一〇〇免疫單位）	金一圓
第二號	一壜（四〇〇免疫單位）	金四圓
乾燥破傷風血清	一壜（一、〇〇〇免疫單位）	金十圓

腸窒扶私血清	一瓲（二〇、〇立方センチメートル）	金一圓六十錢
赤痢血清（多價）		
第一號	一瓲（一〇、〇立方センチメートル）	金八十錢
第二號	一瓲（二〇、〇立方センチメートル）	金一圓六十錢
虎列剌血清	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金三圓六十錢
「ペスト」血清	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金三圓六十錢
飯匙蛇毒血清	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金三圓六十錢
第一號	一瓲（二〇、〇立方センチメートル）	金二圓
第二號	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金三圓六十錢
流行性腦脊髓膜炎菌血清	一瓲（二五、〇立方センチメートル）	金一圓八十錢
肺炎雙球菌血清	一瓲（二〇、〇立方センチメートル）	金一圓八十錢
「インフルエンザ」菌肺炎雙球菌混合血清	一瓲（二〇、〇立方センチメートル）	金一圓八十錢
健康馬血清	一瓲（二五、〇立方センチメートル）	金八十錢
黄疸出血性スピロヘータ（ワイル氏病病原血清）	一瓲（二〇、〇立方センチメートル）	金二圓五十錢
「ツベルクリン」舊	一瓲（三、〇立方センチメートル）	金一圓八十錢
丹毒連鎖球菌「ワクチン」	一瓲（五、〇立方センチメートル）	金八十錢

腸窒扶私「ワクチン」	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金一圓
「パラチフス」A菌「ワクチン」	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金一圓
「パラチフス」B菌「ワクチン」	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金一圓
「パラチフス」菌混合「ワクチン」	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金一圓
腸窒扶私「パラチフス」菌混合「ワクチン」	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金一圓
赤痢「ワクチン」	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金一圓
虎列剌「ワクチン」	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金一圓
「ペスト」「ワクチン」	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金一圓
「インフエンザ」菌肺炎雙球菌混合「ワクチン」	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金一圓五十錢
黄疸出血性「スピロヘータ＝ワクチン」『ワイル氏病豫防液』	一瓲（四〇、〇立方センチメートル）	金二圓
百日咳菌「ワクチン」		
第一號	一瓲（五、〇立方センチメートル）	金五十錢
第二號	一瓲（一〇、〇立方センチメートル）	金八十錢
痲菌「ワクチン」		
第一號	一瓲（五、〇立方センチメートル）	金五十錢
第二號	一瓲（二〇、〇立方センチメートル）	金一圓五十錢

狂犬病「ワクチン」一人分　金五圓
犬體用狂犬病「ワクチン」（豫防液）
第一號　一瓦（五、〇立方センチメートル）　金七十錢
一瓦（二五〇、〇立方センチメートル）　金三十圓
第二號　一瓦（二〇、〇立方センチメートル）　金七十五錢
腸窒扶私診斷液　一瓦（二〇、〇立方センチメートル）　金七十五錢
「パラチフス」A型診斷液　一瓦（二〇、〇立方センチメートル）　金七十五錢
「パラチフス」B型診斷液　一瓦（一〇、〇立方センチメートル）　金三圓
儀毒診斷液

一時ニ多量ノ痘苗、血清等ノ賣渡ヲ請求スル者ニ對シテハ便宜數具又ハ數瓦ヲ取纏メタル容器ヲ以テ賣渡スコトヲ得

第五條　市町村（之ニ準スヘキモノヲ含ム）ニ於テ施行スル種痘ニ要スル痘苗ノ代價ハ前條定價ノ二割ヲ減スヘシ

業劑師（現ニ業品營業ヲ爲スモノ）業種商ニ賣渡ス場合ニハ痘苗、血清等ヲ通シテ前條定價ノ半額トス

傳染病研究所長ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ特約販賣人ニ指定シタル業劑師（現ニ業品營業ヲ爲ス者）業種商ニ賣渡ス場合ニハ痘苗、血清等ヲ通シ前條定價ノ二割迄ヲ減スルコトヲ得但シ前年度ニ於テ賣渡シタル定價ノ總額一萬圓以上ノ者ニ對シテハ一萬圓毎ニ一分ヲ減シ三割五分迄ヲ減スルコトヲ得

傳染病研究所長ハ左ノ場合ニ限リ血清等ノ定價ヲ減シ之ヲ賣渡スコトヲ得

一　傳染病研究所ニ於テ其ノ效用ヲ周知セシムル爲血清等ノ應用ヲ希望スルトキハ定價ノ五割減

二　道、府、縣、郡、市町村（之ニ準スヘキモノヲ含ム）衛生組合、衛生會又ハ醫師會ニ於テ血清等ヲ購入シ無代價又ハ購入代價以內ヲ以テ愚家ニ供給スルトキハ定價ノ二割減

第六條　痘苗、血清等ノ代價ハ現金ヲ以テ納付スヘシ但シ電報爲替、郵便爲替、郵便爲替手形ヲ以テ送金スルコトヲ得

代金ヲ代金引換郵便ニ依リ送付スル場合ニ於テハ代金ト共ニ取立金送達料ヲ送付スヘシ

第七條　痘苗、血清等賣渡請求數量ニ對シ納付ノ代價ニ過不足アルトキハ代價相當ノ數量ヲ送付スルモノトス但シ一具若ハ一瓦ノ代價ニ充タサル端數ハ切捨トス

附　則

本令ハ大正四年九月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年內務省令第十六號傳染病研究所痘苗血清類賣捌規則ハ之ヲ廢止ス

大正三年九月二十日ヨリ本令施行ノ日ノ前日マテノ間ノ試驗日付アル血清等ノ賣渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ殘品ノ引換ヲ請求スルモノニハ其ノ舊定價ニ相當スルマテ新定價ニ依リ算出シタル數量ヲ交付スヘシ但シ一瓦ノ定價ニ充タサル端數ハ切捨トス

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日內ニ其ノ殘品ヲ傳染病研究所ニ請付スヘシ

傳染病研究所ハ前項ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日內ニ於テ一回又ハ數回ニ其ノ代品ヲ交付スヘシ

●血清ノ引換ニ關スル件

（大正九年十二月七日　衛第一二送九三六號通牒）

警察部長ヨリ各郡市長、各警察署長
縣醫師會長宛

傳染病研究所痘苗血清等販賣規程ニヨリ賣渡ノ血清ニシテ其ノ使用前效力持續期間經過シタルモノ引換ニ關シ別紙ノ通リ文部內務兩次官ヨリ通知相成候條御主管ニ係ル各方面ヘ移牒徹底相煩度依命及通知候也

大正四年九月文部省令第十三號傳染病研究所痘苗血清等販賣規程ニ依リ賣渡ス血清ニシテ本年十一月二十九日以後ノ請求ニ係ルモノニ付テハ其ノ使用前效力持續期間（檢定又ハ試驗月日以後一ケ年）ヲ經過シタルモノハ請求ニ依リ同所ヲシテ左ノ方法ヲ以テ其引換ニ應セシムルコトト相成タルニ付御承知相成度

（大正九年十一月二十九日發專第一六七號通牒）

文部次官、內務次官ヨリ知事宛

追テ明治四十三年五月衞發第三五八號內務省衞生局長通牒ハ自然消滅ノ議ト御承知相成度

一　市町村其他ノ公共團體ニ賣渡タル左記血清ニ付テハ無料ニテ引換ユルコト

一　液体ヂフテリア血清

一　液体破傷風血清

一　腸窒扶私血清

一　赤痢血清

一　虎列剌血清

一　ペスト血清

一　飯匙蛇毒血清

一　連鎖球菌血清

二　前項以外ノ者ニ賣渡タル液体ヂフテリア血清及液体破傷風血清ニ付テハ引換請求ノ爲送付シタル當該血清合計代價二分ノ一ニ相當スル數量ヲ以テ引換ユルコト但シ一壜ノ最低ノ定價ニ充タサル端數ヲ生スルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツルコト

三　效力持續期間經過後二ケ月ヲ過キ若ハ封緘其ノ他外裝ニ異狀アルモノハ前各項ニ依ルノ限ニ非サルコト

四　引換ニ要スル運送賃其ノ他ノ費用ハ請求者ノ負擔トスルコト

●痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

（明治三十六年六月二十四日內務省令第五號）

沿革　大正三年一二月內務省令第二七號改正

第一條　痘苗、血清其ノ他細菌學的豫防治療品ヲ製造又ハ輸入若ハ移入シテ販賣セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シテ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　製造所ノ名稱及位置

二　製造品ノ種類、製造ノ方法、有效期限、販賣價格

三　製造所ノ建物畜舍ノ構造、敷地ノ坪數及圖面

四　所長及主任技術者ノ氏名履歷

前項ノ認可ヲ受ケタル後前各號ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ更ニ認可ヲ受クヘシ

第二條　地方長官ハ必要ト認ムルトキハ本則ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第三條　本則施行ノ際痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ製造スルモノハ本則施行ノ日ヨリ四箇月以內ニ本則ニ據リ認可ヲ受クヘシ

第四條　本則ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條　本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス

第六條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●「ヂフテリア」血清竝其ノ製品製劑及破傷風血清

竝其ノ製品製劑檢定規程

（大正四年十月十三日
内務省令第十二號）

第一條　「ヂフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ其ノ製品、製劑ヲ製造又ハ輸入移入シテ販賣セムトスル者ハ其ノ製造品、輸入品又ハ移入品ノ發賣前本令ノ規定ニ依リ檢定ヲ受クヘシ

第二條　「ヂフテリヤ」血清若ハ其ノ製品、製劑ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ製造者、輸入者又ハ移入者ノ氏名、血清又ハ其ノ製品、製劑ノ種類及其ノ數量、表記スヘキ一立方「センチメートル」（乾燥狀ノモノニ在リテハ一「グラム」）ノ免疫單位數、試驗年月日、血清又ハ其ノ製品、製劑番號及販賣スヘキ小分豫定壜數ヲ具シ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ倣フ）ヲ經テ傳染病研究所ニ出願スヘシ

第三條　檢定ヲ受ケムトスル血清又ハ其ノ製品、製劑ハ封印ヲ爲スニ適當ナル容器ニ收メ血清又ハ其ノ製品、製劑ノ種類其ノ數量、一立方「センチメートル」（乾燥狀ノモノニ在リテハ一「グラム」）中ノ免疫單位數、試驗年月日及血清又ハ其ノ製品、製劑番號ヲ記入シタル標紙ヲ貼付スヘシ

第四條　地方長官第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ當該吏員ヲ派遣シテ其ノ監視ノ下ニ出願者ヲシテ前條ノ容器中ヨリ血清又ハ其ノ製品、製劑番號毎ニ左記數量ノ試驗品ヲ採取セシメ其ノ容器ニハ出願者名、血清又ハ其ノ製品、製劑ノ種類、一立方「センチメートル」（乾燥狀ノモノニ在リテハ一「グラム」）中ノ免疫單位數、試驗年月日及血清又ハ其ノ製品、製劑番號ヲ記入シタル標紙ヲ貼付セシムヘシ

一　液體「ヂフテリア」血清又ハ其ノ製品、製劑ハ三十立方「センチメートル」

二　液體破傷風血清又ハ其ノ製品、製劑ハ十五立方「センチメートル」

三　乾燥狀ノモノハ三「グラム」

當該吏員ハ前條ノ容器及試驗品容器ニ封印ヲ爲スヘシ

第五條　地方長官ハ直ニ前條ノ試驗品ヲ願書ト共ニ傳染病研究所ニ送付スヘシ

第六條　第四條ノ數量ニテ檢定上不足ヲ生シタルトキハ傳染病研究所ハ其ノ所要數量ヲ地方長官ニ通知スヘシ
地方長官ハ第四條及第五條ノ手續ニ準シ前項數量ノ試驗品ヲ直ニ傳染病研究所ニ送付スヘシ

第七條　傳染病研究所試驗品ヲ受理シタルトキハ藥局方ニ記載スルモノニ付テハ其ノ所定ニ適合スルヤ否ヤヲ、藥局方ニ記載セサルモノニ付テハ左ノ事項ヲ遲滯ナク檢定スヘシ

一　出願者ノ申告セル表記スヘキ免疫單位數ヲ有スルコト

二　血清ノ製品、製劑（乾燥狀ノモノニ在リテハ其ノ一分ヲ十分ノ石炭酸水石炭酸一分ヲ滅菌水二百分ニ溶解シタルモノニ溶解シタルモノ）ヲ寒天培養基ニ好氣性及嫌氣性培養ヲ行ヒ無菌ナルコト

三　「ヂフテリア」血清ノ製品、製劑（乾燥狀ノモノニ在リテハ其ノ一分ヲ十分ノ滅菌水中ニ溶解シタルモノ）十立方「センチメートル」ヲ約二百五十「グラム」ノ體重ヲ有スル「モルモット」ノ皮下ニ注射シ之ヲ致死セシメサルコト

四　血清ノ製品、製劑（乾燥狀ノモノニ在リテハ其ノ一分ヲ十分ノ滅菌水中ニ溶解シタルモノ）ノ蛋白質含有量ハ「キールダール」法ニ依リ百分中十分以下ナルコト

免疫單位ノ算出法ハ「ヂフテリア」血清ノ製品、製劑ニ在リテハ「ベーリング」法ニ依ル

第八條　傳染病研究所檢定ヲ了シタルトキハ速ニ其ノ成績ヲ當該地方長官ニ通知シ合格品ニ對シテハ其ノ小分豫定壜數ニ應シ別記雛形ノ檢定證ヲ送付スヘシ

第九條　地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ出願者ニ通知シ當該吏員ヲシテ第四條ニ依リ施シタル封印ヲ解カシメ合格品ニ付テハ其ノ監視ノ下ニ小分セシメ檢定證ヲ以テ其ノ容器又ハ被包ヲ封緘セシムヘシ
不合格品ニ付テハ藥品營業竝藥品取扱規則第三十八條ノ二ニ依リ處分スヘシ

第十條　檢定證ニ過不足ヲ生シタル場合ニ於テハ出願者ハ地方長官ヲ經テ傳染病研究所ニ之ヲ返納又ハ請求スヘシ

第十一條　出願者檢定ノ結果ニ對シ不服アルトキハ理由ヲ詳具シ地方長官ヲ經テ再檢定ヲ傳染病研究所ニ請求スルコトヲ得

再檢定ニ付テハ本令ノ規定ヲ準用ス

第十二條　傳染病研究所ハ「ヂフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ其ノ製品、製劑ノ製造者、輸入者又ハ移入者ニ對シ無償又ハ有償ニテ「ヂフテリア」又ハ破傷風標準血清若クハ標準毒素ヲ交付ス

第十三條　檢定ヲ出願スル者ハ血清又ハ其ノ製品、製劑ハ金拾五圓

一　「ヂフテリア」血清又ハ其ノ製品、製劑ハ金八圓

二　破傷風血清又ハ其ノ製品、製劑ハ金八圓

第十四條　第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　「ヂフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ其ノ製品、製劑ヲ製造又ハ輸入、移入シテ販賣スル者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

「ヂフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ其ノ製品、製劑ヲ製造又ハ輸入、移入シテ販賣スル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記雛形）

長　一寸三分

幅　八分五厘

●「ヂフテリア」又ハ破傷風標準血清若ハ標準毒素ノ交付ニ關スル件

（大正四年十月三十日内務省告示第六十七號）

大正四年十月内務省令第十二號「ヂフテリア」血清竝其ノ製品、製劑及破傷風血清竝其ノ製品、製劑檢定規程第十二條ニ依ル「ヂフテリア」又ハ破傷風標準血清若ハ標準毒素ノ交付ニ關スル件左ノ通定ム

一　傳染病研究所ハ「ヂフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ標準毒素ヲ無償ニテ交付ス

者ニ對シ毎年一回「ヂフテリア」又ハ破傷風標準血清若ハ標準毒素ノ交付ヲ受ケタル者ハ其ノ製品、製劑ノ製造者、輸入者又ハ移入者ニ對シ其ノ交付ヲ受ケタル年ノ翌年ニ於テ「ヂフテリア」又ハ破傷風標準血清若ハ標準毒素ノ交付ヲ受ケタル數ノ十分ノ一ヲ有償ニテ交付ス

二　前項ノ場合ヲ除クノ外「ヂフテリア」又ハ破傷風標準血清若ハ標準毒素ノ交付ハ有償トス其ノ料金左ノ如シ

一　「ヂフテリア」標準血清　一壜

金拾圓

一	破傷風標準血清	一瓶	金七圓
一	「ヂフテリア」標準毒素	百立方「センチメートル」(100 ccm.)	金貳拾圓
一	破傷風標準毒素	一「グラム」(1 gm.)	金貳拾圓

第十一章　癩豫防

●癩豫防ニ關スル件

（明治四十年三月十九日）
（法律第十一號）

沿革　大正五年三月法律第二一號改正

第一條　醫師癩患者ヲ診斷シタルトキハ患者及家人ニ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示シ且三日以內ニ行政官廳ニ屆出ヘシ其ノ轉歸ノ場合及死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ

第二條　癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他豫防方法ヲ行フヘシ

第二條　癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノハ行政官廳ニ於テ命令ノ定ムル所ニ從ヒ療養所ニ入ラシメ之ヲ救護スヘシ但シ適當ト認ムルトキハ扶養義務者ヲシテ患者ヲ引取ラシムヘシ

必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市町村長（市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ者）ヲシテ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコトヲ得

第四條　主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ其ノ道府縣內ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲必要ナル療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

前項療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣ハ私立ノ療養所ヲ以テ第一項ノ療養所ニ代用セシムルコトヲ得

第四條ノ二　前條ノ療養所ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被救護者ニ對シ必要ナル懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

第五條　救護ニ要スル費用ハ被救護者ノ負擔トシ被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

第三條ノ場合ニ於テ之カ爲要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徵方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　扶養義務者ニ對スル患者引取ノ命令及費用辨償ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ費用ノ辨償ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七條　左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス但シ東京府下伊豆七島小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス

一　被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル救護費

二　檢診ニ關スル諸費

三　其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費

第四條第一項ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四條第三項ノ場合ニ於テ關係道府縣ハ私立ノ療養所ニ對シ必要ナル補助ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ前項ノ例ニ依ル

第八條　國庫ハ前條道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條　行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ疑アル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得

癩ト診斷セラレタル者又ハ其ノ扶養義務者ハ行政官廳ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ求ムルコトヲ得

行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ扶養義務者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得

第十條　醫師第一條ノ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　第二條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除クノ外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年八月五日勅令第二百八十四號ヲ以テ明治四十二年四月一日ヨリ施行）

●癩豫防ニ關スル件施行規則

（明治四十年七月二十日内務省令第十九號）

沿革　明治四三年六月内務省令第二四號、大正五年六月同第六號改正

第一條　明治四十年法律第十一號第一條ノ屆出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

癩患ヲ診斷シタル醫師ハ故ナク其ノ事實ヲ漏泄スルコトヲ得ス

第二條　癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其ノ旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍、住所、氏名及病況竝扶養義務者ノ住所、氏名等ヲ具シ地方官長ニ報告スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經タル上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第三條　前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條　明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ内務大臣ノ指定シタル設立地ノ地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

當該地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置ヲ定ムヘシ

第五條　明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對スル命令條件ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條ノ二　療養所ノ長ハ被救護者ニ對シ左ノ懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

一　譴責

二　三十日以內ノ謹愼

三　七日以內常食量二分ノ一マテノ減食

四　三十日以內ノ監禁

前項第三號ノ處分ハ第二號又ハ第四號ノ處分ト併科スルコトヲ得

第一項第四號ノ監禁ニ付テハ情狀ニ依リ管理者タル地方長官又ハ代用療養所所在地地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ期間ヲ二箇月マテ延長スルコトヲ得

第五條ノ三　前條ノ外懲戒又ハ檢束ニ關シ必要ナル細則ハ管理者タル地方長官又ハ代用療養所所在地地方長官ノ認可ヲ經テ療養所ノ長之ヲ定ム

第六條　明治四十年法律第十一號第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署之ヲ行フ

警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ扶養義務者ハ發病以來ノ症候、經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得

檢診ノ爲病院其ノ他ノ場所ニ滯留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳之ヲ行フ

第八條　行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノヲ除ク外行政官廳ノ職權ハ警察官署之ヲ行フ

療養所ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體ハ之ヲ火葬スルコトヲ得

第九條　第二條及第六條ノ地方長官ノ職權其ノ他癩豫防上警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市京都市及大阪市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩豫防ニ關スル件同施行規則執行手續

（明治四十二年三月三十一日岐阜縣訓令甲第十七號）

第一條　癩患者ニ關スル診斷ハ臨床上ノ症候顯著ナルモノノ外ハ成ルヘク細菌檢査ヲ行ハシムヘシ

第二條　一時救護ヲ要スル癩患者アルトキハ其ノ患者所在地ニ於テ患者ヲ一時收容スルニ足ルヘキ適當ナル家屋ヲ選ミ若シ之レナキトキハ臨時小屋掛ヲナシ患者ヲ救護スヘシ

警察官署ニ於テ救護上必要ト認ムルトキハ當該被救護者ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ノ引渡ヲ受ケタル市町村長ハ第一項ニ準シ救護スヘシ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニシテ一時救護ヲ要スル場合亦同シ

第三條　施行規則第二條ニ據ル警察官署ノ報告書ニハ主治醫若ハ檢診醫ノ診斷書（細菌檢査ヲ經タルモノハ其ノ成績書トモ）ヲ添ヘ且扶養義務者ノ資產能力患者ヲ引取ラシムルニ適當ナリヤ否ヤノ意見ヲ附スヘシ

第四條　警察官署ハ前條救護中ノ患者ニ對シ知事ヨリ癩療養所ヘ送致スルニハ左記ノ書類ヲ添フヘシ

一　癩患者ヲ送致スルニハ左記ノ書類ヲ添フヘシ

送致書（第一樣式）
身分調書（第二樣式）

二 患者ノ送致ハ汽車ノ便ナキ地方ニ於テハ各警察官署ノ遷傳ニ付シ鐵道停車場所在地ノ警察官署ハ癘療養所ニ直送スルモノトス

三 患者ノ病況ニ依リ歩行ニ堪ヘス其ノ他自用ヲ辨シ難キモノハ必要ニ應シ舟車擔架等ヲ用ヒ又ハ看護人ヲ付スルコトヲ得

四 送致途中患者ノ宿泊ハ第二條第一項ニ準シ豫メ沿道ノ警察官署ト協議スヘシ

五 患者輸送具ニ對シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外發送地警察官署ニ於テ使用後之ヲ消毒シ其ノ消毒ヲ爲シ難キ場合ニ限リ發送地警察官署ノ通知ニ依リ到著地警察官署ニ於テ之ヲ消毒スヘシ他ノ消毒ヲ要スルモノニ付亦同シ

第五條 警察官署ニハ難患者名簿（第三樣式）ヲ備ヘ祕密ニ取扱フヘシ

第六條 當該吏員ハ故ナク癩患者ニ關スル事實ヲ漏泄スルコトヲ得ス

第七條 救護費ニ關スル取扱手續ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第八條 本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○第一號樣式

送致書

書類目錄	患者氏名

右貴院ヘ入院ヲ要スルモノト認メ候條及送致候也

明治 年 月 日

外島保養院御中

岐阜縣 警察署

發送遷傳官署名及主任官吏認印	發送到着日時	患者送致ノ方法	患者身體ノ狀況	宿泊ノ場所	備考

○第二樣式

癩患者身分調書

本籍 身分	
職業 氏名 年齡	
住所	
出生地	
父母ノ名及其存否	
病況	
扶養義務者住所氏名	
來歷	

○第三樣式

本籍 身分	參考事項
職業 氏名 年齡	
住所	
出生地	
父母ノ名及其存否	
扶養義務者ノ住所氏名及其ノ義務ヲ盡ス能力ノ有無	

醫師氏名 屆出及檢 診年月日	診斷方法	病歷並ニ病況ノ大要	豫防消毒指示事項	備考

●癩豫防ニ關スル件

（明治四十二年三月三十一日 告諭第一號）

癩ハ古來遺傳病ト見做サレタリト雖モ病菌ノ發見ニ依リ其ノ傳染病ナルコトヲ確認セラレタルモノニシテ其ノ病毒ハ常ニ患者ノ鼻汁唾液及ヒ潰瘍部ノ膿汁中ニ饒多ニ排泄セラレ之ニ接觸スルカ若此等ニ汚染セル物件ヲ介シテ病毒ヲ他ニ傳播スルヲ常トス然レトモ其ノ發病經過甚タ緩漫ニシテ毫モ世人ノ注意ヲ惹起スルニ至ラサルカ爲メ隱蔽ノ裡益々流毒ヲ擅ニシ最近ノ統計ニヨレハ全國ノ患者實ニ三萬七千餘ノ多キニ達ス今ニシテ之ヲ防遏スルニアラサレハ禍害ノ及フ處測ルヘカラス茲ヲ以テ政府ハ明治四十年三月本病豫防ニ關スル法律ヲ發布セラレ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノハ之ヲ公設ノ療養所ヘ隔離シ其ノ他ハ各自ニ於テ療養其ノ他豫防方法ヲ行ハシメ以テ本病ノ蔓延ヲ防止シ漸次之カ根絶ヲ企圖スルニ至レリ然レトモ本病ノ經過ハ甚タ緩漫ニシテ長年月ニ亘ルカ爲メ一般公衆ニシテ自衛ノ途ヲ講セス又患者竝ニ家人チシテ公德ヲ重ンセルニアラサレハ到底之カ防遏ヲ望ムベカラス依テ左ニ豫防上必要ナル事項ヲ列擧シ各自其ノ據ル處ヲ知ラシメムトス患者ハ之ニヨリ公德ヲ重ンシ安シテ療養ノ途ニ就クヘク家人竝ニ一般公衆ハ之ニヨリ相警戒シテ自衛ノ法ヲ講シ兩々相俟チテ本病豫防ノ目的ヲ貫徹スルニ努ムヘシ

豫防消毒方法

一 患者ノ居室ハ成ルヘク別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
二 患者ノ衣類、寢具其ノ他日用器具等ハ特ニ專用ノモノヲ備ヘ他ト混同セサル樣注意スルコト
三 患者ノ常用衣類、敷布、寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト
四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト
六 病毒ニ汚染シタル繃帶、手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患家ノ紙屑襤褸等ハ燒却スルコト
七 患者ハ成ルヘク外出ヲ避ケ已ムヲ得ス外出セントスルトキハ清潔ナル衣服ヲ着用シ又潰瘍アルモノハ其ノ繃帶ヲ更ム

ルコト

八 患者ハ成ルヘク他トノ交通ヲ避ケ理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乘合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト

九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食器具(金屬陶器類ヲ除ク)玩具ノ調製又ハ其ノ販賣其他病毒傳播ノ虞アル業ニ從事セサルコト

十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用貸與又ハ授與セサルコト

十一 患者ノ使用シタル衣類、寢具、器具ハ勿論家人常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚洗ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用授與移轉又ハ遺棄セサルコト

十二 患者ノ一時滯留シタル場合ニ於テモ其ノ占居シタル室竝ニ其ノ使用シタル衣類、寢具、器具等ニ對シテモ亦前二號ヲ適用スルコト

十三 看護等ノ爲メ常ニ患者ニ近接シ又ハ病毒汚染物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又成ルヘク上衣ヲ着用シ時々之ヲ消毒スルコト

十四 癩患者ノ死体ハ消毒ヲ行ヒタル後成ルヘク之ヲ火葬スルコト

十五 消毒方法ハ明治三十年內務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルコト

●癩患者ノ救護ニ要スル費用ノ支辨、追徵及負擔ニ關スル件

(明治四十年七月十日勅令第二百六十二號)

第一條 明治四十年法律第十一號第三條ニ依リ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ノ一時救護ニ要スル費用ハ必要アルトキハ救護地道府縣ニ於テ之ヲ繰替支辨スヘシ

市町村長ニ於テ一時救護ヲ爲ス場合ニ要スル費用ハ必要アルトキハ市町村ニ於テ繰替支辨スヘシ

第二條 前條ニ依リ繰替支辨シタル費用ハ被救護者ニ、被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ニ其ノ辨償ヲ求ムヘシ此ノ場合ニ於テ必要アルトキハ義務者ノ住所地若ハ所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ其ノ徵收ヲ委託スルコトヲ得辨償金ノ徵收ニ關シテハ府縣稅徵收ノ例ニ依ル

市町村ニ於テ繰替支辨シタル費用ニシテ前二項ニ依リ辨償ヲ得サルモノハ救護地道府縣ニ其ノ辨償ヲ求ムヘシ

第三條 一時救護ニ要シタル費用ニシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ救護地道府縣ノ負擔トス

第四條 療養所ニ於ケル救護費ニシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ被救護者ノ本籍地、本籍地ナキカ又ハ不明ナルトキハ救護地ノ屬スル療養所設置區域內道府縣ノ負擔トス療養所ニ送致スル費用ニ付亦同シ

第五條 癩患者死亡シタルトキハ救護ノ費用ハ其ノ遺留ノ金錢又ハ有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍足ラサル場合ニ於テ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ遺留物件ヲ賣却シテ之ニ充ツルコトヲ得

第六條 本令ニ依リ道府縣ニ於テ繰替支辨シ又ハ負擔スヘキ費用ハ沖繩縣及東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於テハ國庫ノ支辨トス

第七條 本令ニ於テ市町村又ハ市町村長ト稱スルハ市制町村制ヲ施行セサル地ノ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル癩患者ノ取扱ニ關スル件

（明治四十年九月十四日）
（勅令二百九十四號）

海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル船舶ニ癩患者アル場合ニ於テ其ノ患者外國人ナルトキハ地方長官ハ其ノ上陸ヲ禁止スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由アリト認ムルトキハ條件ヲ附シテ一時上陸ヲ許可スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●明治四十年法律第十一號第八條ニ依ル國庫補助ノ件

（明治四十年八月五日）
（勅令第二百八十五號）

明治四十年法律第十一號ニ依ル道府縣ノ支出精算額ニ對シ國庫ハ同法第八條ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ補助ス但シ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金等アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

一　療養所創設費、擴張費及之ニ伴フ初度調辨費　二分ノ一
二　被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル無籍者又ハ本籍不明者ノ救護費　六分ノ一
三　其ノ他ノ諸費　二分ノ一
四　私立ノ代用療養所ノ創設費、擴張費及之ニ伴フ初度調辨費ニ對スル補助費　二分ノ一
五　私立ノ代用療養所ニ對スル其ノ他ノ補助費　六分ノ一

附　則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩患者ノ一時救護其他ノ費用取扱ニ關スル件

（明治四十二年六月九日）
（岐阜縣訓令甲第二十五號）

沿革　明治四二年八月縣訓甲第四〇號改正

第一條　癩患者ノ檢診費、一時救護費及救護中死亡シタルモノト取扱ニ關スル費用ハ左ノ限度ニ從ヒ處理スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ此制限ニ據ル能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　醫師診察料　一回五拾錢以内次回以後貳拾錢以内
一　同診斷書料　一回拾錢以内
一　同手術料　實費
一　同旅費日當　内國旅費規則ニ依リ四等旅費ヲ給ス
一　藥價　一日七錢以内
一　療養ニ關スル必要品費　實費

但シ醫師ニ於テ必要ト認メ給與ヲ命シタル場合ニ限ル

一　消毒藥價　一人五拾錢以内
一　食料（一晝夜三食）　一食金四錢以内
一　看護人　（晝貳拾錢夜貳拾五錢以内）

但シ醫師ニ於テ必要ト認メタル場合ニ限ル

一　死體番人　一人（晝貳拾五錢夜參拾錢以内）

但ノ人家遠隔ノ地ハ夜間ニ限リ二人ヲ附スルコトヲ得

一　被服料　（夏七拾五錢冬壹圓五拾錢以内）

一借家料　一日貳拾錢以內
一小屋掛料　金壹圓五拾錢以內
但シ宿スヘキ家屋ナキ場合ニ限ル
一寢具損料　一壹夜參錢以內
一薪炭油費　實費
但シ病症ニ依リ特ニ之ヲ要スル場合ニ限ル
一入院料　下等實費
一埋火葬費（人夫賃其他一切ヲ含ム）　貳圓以內
一公告料　一新聞一回實費

第二條　患者ノ同伴者若ハ同居者ノ一時救護費ハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三條　警察官署ニ於テ一時救護中死亡シタル者ノ遺留ノ金錢又ハ有價證券若ハ物品ハ消毒濟ノ上新聞又ハ揭示場等ニ公告セシ事項及年月日ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ便宜ノ方法ニ依リ當廳ニ送付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第四條ノ規定ニ準シ諸費計算書及仕譯書ヲ調製進達スヘシ

第四條　市町村ニ於テ繰替支辨シタル費用ニシテ當廳ニ辨償ヲ求ムルトキハ明治三十二年七月岐阜縣訓令第百二十八號行旅病人及行旅死亡人取扱手續第二條第三條ニ準シ處理スヘシ

第五條　癩豫防ニ關スル法律施行規則第八條ノ場合ニ於テ法令其ノ他本規定ニ明文ナキ事項ニ付テハ行旅病人及行旅死亡人取扱手續第五條第六條ノ規定ヲ準用ス

第六條　患者送致ニ要スル費用ハ左ノ限度ニ從ヒ處理スヘシ
患者送致費　中食一回金五錢以內汽車賃、船賃、宿泊料ハ各末等、人力車賃ハ規定ノ通附添人ニ日當ハ一日五拾錢以內汽車、汽船、宿泊料、人力車賃等ハ患者ニ同シ
以上ノ外特ニ費用ノ支出ヲ要スルトキ又ハ限度ヲ超過スルトキハ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クルモノトス

前項ノ費用ハ諸遙巡査ニ於テ請求書（成ルヘク正當領收人ノ領收證書ヲ添ヘ）及別記書式ノ計算書ヲ作リ所屬警察官署長ノ證印ヲ受ケ當廳ヲ經由第三區府縣立外島保養院長ニ請求スヘシ

第七條　本訓令ニ規定ナキモノハ明治三十四年十月岐阜縣令第四十號岐阜縣會計規則及同年十月岐阜縣訓令第五十五條岐阜縣會計細則ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

（書式）

計　算　書

○一金何程
但シ癩患者何某ヲ何郡市何町村ヨリ第三區療養所ヘ「ニ要シタル諸費」左記內譯ノ通

內

金何程　人力車雇賃別紙第二號ノ通
金何程　汽車賃別紙第三號ノ通
金何程　宿泊料及晝食料別紙第四號ノ通
金何程　何々別紙第三號ノ通
金何程　附添人ニ要シタル諸費

内

金何程　　給料第何號ノ通
金何程　　何々（以下患者ニ要シタル諸費ニ準ス）
右相違無之候也

年　月　日

岐阜縣警察署勤務
送致者　官　氏　名

第三區府縣立外島保養院長宛

●癩患者療養所設置區域

（沿革）明治四三年三月內務省令第一號改正

道府縣ハ左ノ區域ニ依リ其ノ區域內ニ於ケル癩患者ヲ入ラシムル爲必要ナル療養所ヲ設置スヘシ

第一區域
東京府（伊豆七島、小笠原島ヲ除ク）　神奈川縣　新潟縣　埼玉縣　群馬縣　千葉縣　茨城縣　栃木縣
愛知縣　靜岡縣　山梨縣　長野縣

第二區域
北海道　宮城縣　巖手縣　青森縣　福島縣　山形縣　秋田縣

第三區域
京都府　大阪府　兵庫縣　奈良縣　三重縣　岐阜縣　滋賀縣　福井縣　石川縣
富山縣　鳥取縣　和歌山縣

（明治四十年七月二十二日內務省令第二十號）

第四區域
島根縣　岡山縣　廣島縣　山口縣　德島縣　香川縣　愛媛縣　高知縣

第五區域
長崎縣　福岡縣　大分縣　佐賀縣　熊本縣　宮崎縣　鹿兒島縣　沖繩縣

前項療養所ノ設立地ハ第一區域ニ在リテハ東京府下第二區域ニ在リテハ青森縣下第三區域ニ在リテハ大阪府下第四區域ニ在リテハ香川縣下第五區域ニ在リテハ熊本縣下トス

附　則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩患者ノ視察取締方ニ關スル件

（大正十五年四月二十日衛視第二四號）

警察部長ヨリ各警察（分）署長宛

癩病ト診定セラレタル患者ハ從來其署名簿ニ登載シ常ニ之レヲ整理相成居候處未診定ニ係ル疑似患者有之ヘク思料セラレ候ニ付テハ自今之レカ診定ノ都合モ有之候ニ付疑似患者發見ノ場合ハ名簿中ヲ區分シ疑似ヲ明記登載ノ上相當視察相成度此段及通牒候也

第十二章　結核豫防

●結核豫防法

（大正八年三月二十七日）
（法律第二十六號）

第一條　本法ニ於テ結核ト稱スルハ肺結核又ハ喉頭結核ニシテ病毒傳播ノ危險アルモノヲ謂フ

第二條　醫師結核患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ患者ノ場合ニ在リテハ患者又ハ其ノ居住ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者、死體ノ場合ニ在リテハ死體所在ノ場所ノ管理ヲ爲ス者又ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命令ノ定ムル所ニ依リ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

前項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ

第三條　行政官廳ハ結核患者又ハ其ノ死者アリタル場所ニ付家屋物件ノ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ施行シ又ハ其ノ施行ヲ患者又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命スルコトヲ得

第四條　行政官廳ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一　業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ從事スル者又ハ病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所ニ於テ職業ニ從事スル者ニ對シ健康診斷ヲ施行スルコト

二　結核患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ從事スルヲ禁止スルコト

三　學校、病院、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルヘキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ結核豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト

四　古著、古蒲團、古本、紙屑、襤褸、飮食物其ノ他ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲ爲サシメ又ハ其ノ物件ノ廢棄ヲ爲スコト

地方長官ニ於テ前項ノ規定ニ依リ健康診斷ヲ施行シ又ハ物件ノ廢棄ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第五條　地方長官ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ採光、換氣其ノ他ノ關係ニ於テ衞生上不良ナル建物ノ使用ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ因リ生シタル損害ニ對シテハ地方長官必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付ス補償金ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第六條　主務大臣ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノヲ收容セシムル爲人口五萬以上ノ市又ハ特ニ必要ト認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シテ結核療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第七條　地方長官ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノ及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル入所ノ費用ノ負擔及徵收ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依リ結核療養所ヲ設置スル公共團體又ハ公益法人ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第九條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依ラスシテ結核療養所ヲ設置スル公共團體又ハ公益法人ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體ノ支出スル經費ノ二分ノ一以內ヲ補助スルコトヲ得

第十條　結核療養所ヲ設置スル公共團體ニシテ第八條又ハ前條ノ規定ニ依ル補助ヲ受クルモノハ他ノ公共團體ノ委託アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ途ナキ結核患者ヲ其ノ結核療養所ニ收容スヘシ

第十一條　北海道地方費又ハ府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第四條第一項第二號ノ規定ニ依ル入所ニ因リ生活スルコト能ハサル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補給スヘシ

第十二條　國庫ハ第四條第二項、第五條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ四分ノ一ヲ補助ス

第十三條　官廳、公署、官立公立ノ學校病院製造所等ニ於テハ其ノ長ハ第四條第一項第三號第四號及第五條第一項ノ規定ニ準シ結核豫防ニ關スル事項ヲ施行スヘシ

第十四條　第二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十五條　第四條第一項又ハ第五條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　大正八年十月勅令第四百四十九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行

大正三年法律第十六號ハ之ヲ廢止ス

大正三年法律第十六號ニ依リ設置ヲ命シタル肺結核療養所ハ本法ニ依リ設置ヲ命シタル結核療養所ト看做ス

●結核豫防法施行令

（大正八年十月二十三日勅令第四百五十號）

第一條　結核豫防法第五條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ因リ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者又ハ使用者ニシテ同條第二項ノ補償金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ制限又ハ禁止アリタル日ヨリ六十日內ニ地方長官ニ交付ヲ申請スヘシ

第二條　補償金ノ額ハ建物ノ使用ノ制限又ハ禁止ニ因リ通常生スヘキ損害ヲ限度トシ地方長官ニ於テ三人以上ノ評價人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定ス

第三條　地方長官前條ノ規定ニ依リ補償金ノ額ヲ決定シタルトキハ之ヲ建物ノ所有者及使用者ニ通知シ且建物所在地ノ市町村長ヲシテ建物ノ所在地及補償金ノ額ヲ所有者及使用者ヲ除クノ外建物ニ關シ權利ヲ有スル者ニ通知セシメ且相當ノ期間公告セシムヘシ但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ス

第四條　前條ノ規定ニ依ル公告期間ヲ經過シタルトキハ地方長官ハ速ニ補償金ヲ交付スヘシ但シ公告期間內ニ建物ニ關シ

權利ヲ有スル者ヨリ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シテ其ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

第五條　結核豫防法第七條ノ規定ニ依ル入所ノ費用ハ結核療養所ヲ設置スル公共團體ノ負擔トス

第六條　結核療養所ノ管理者ハ前條ノ規定ニ拘ラス本人ヨリ入所ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

本人ヨリ徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ入所ノ費用ノ徵收ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第一項ノ入所ノ費用ニシテ指定ノ期間內ニ納付ナキモノニ付テハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第七條　結核豫防法第七條ノ規定ニ依リ入所セシメラレタル結核患者入所中死亡シタルトキハ遺留財產ヲ以テ入所ノ費用ノ全部又ハ一部ニ充ツルコトヲ得

第八條　結核療養所ノ創設費及擴張費竝之ニ伴フ初度調辨費ハ左ノ區分ニ依ル

一　結核豫防法第八條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ左ノ區分ニ依ル

二　其ノ他ノ諸費ハ支出額ノ四分ノ一

第九條　結核豫防法第九條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ左ノ區分ニ依ル

一　結核療養所ノ創設費及擴張費竝之ニ伴フ初度調辨費ハ支出額ノ二分ノ一

二　其ノ他ノ諸費ハ支出額ノ四分ノ一

第十條　前二條ニ於テ支出額トハ事業ニ伴フ收入、國庫以外ノ補助金又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ但シ他ノ公共團體ヨリ受ケタル委託患者收容料ノ額ハ之ヲ控除セス

前項ノ支出精算額ノ算出ニ付テハ公益法人ノ場合ニ於テハ寄附金ノ額ヲ控除セサルコトヲ得

第十一條　結核豫防法第十條ノ規定ニ依リ收容スヘキ委託患者ノ數ハ結核療養所ノ豫定收容人員ノ十分ノ一以內トス但シ內務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

委託患者ヲ收容シタル公共團體ハ患者ノ收容ヲ委託シタル公共團體ニ對シ委託患者收容料ヲ請求スルコトヲ得

委託患者收容料ノ額ハ患者ヲ收容スル公共團體ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十二條　收容シタル委託患者死亡シタルトキハ受託公共團體ハ其ノ旨ヲ委託公共團體ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル公共團體ハ死亡者ノ相續人、扶養義務者又ハ家族ヲシテ直ニ其ノ死體ヲ引取ラシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ死體ヲ引取ルヘキ者引取ヲ爲ササルトキ又ハ死體ノ引取人ナキトキハ委託公共團體ニ於テ其ノ死體ヲ引取ルヘシ此ノ場合ニ於ケル費用ハ其ノ公共團體ノ負擔トス

第十三條　結核豫防法第十一條ノ規定ニ依リ生活費ノ補給ヲ受クヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　從業ヲ禁止セラレタル者

二　從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ之ト同一ノ家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

三　前號ニ揭クル者ヲ除クノ外從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ニ依リ扶養ヲ受クヘキ者ニシテ從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

第十四條　生活費ノ補給ハ生活費ノ補給ヲ受ケムトスル者ノ申請ニ依リ地方長官ニ於テ其ノ許否ヲ決定ス

第十五條　生活費ノ補給ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　生活費補給ノ程度、方法、期間、廢止及停止ニ關スル事項ハ地方長官ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十七條　結核豫防法第五條第二項ノ補償金ノ額ノ決定ニ對シ不服アル建物ノ所有者又ハ使用者ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ、同法第十一條ノ規定ニ依ル生活費補給ノ申請ヲ拒マレタル者又ハ其ノ生活費ノ補給ヲ廢止若ハ停止セラレタル者ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十八條　本令中市町村長トアルハ市制第六條ノ市ニ在リテハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ者トス

附　則

本令ハ結核豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正八年十一月一日ヨリ施行）

大正四年勅令第百二號ハ之ヲ廢止ス

●結核豫防法施行規則

（大正八年十月二十三日内務省令第二十號）

改正　大正一二年二月内務省令第五號

第一條　結核豫防法第二條第一項ノ規定ニ依リ醫師ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ハ左ノ各號及第六條ノ規定ニ準據スヘシ

一　唾痰ハ唾壺、布片、紙片又ハ下水、便池其ノ他病毒傳播ノ危險ナキ場所ノ外ニ咯出セサルコト

二　唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後之ヲ便池ニ投棄シ唾痰ノ附著シタル布片、紙片ハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト

三　咳嗽、噴嚏ノ際ハ成ルヘク布片、紙片等ニテ口鼻ヲ覆フコト

四　患者ノ食器、手拭、寢具等ハ專用トシ衣服、寢具ハ時々日光ニ曝スコト

五　患者ノ居室ハ採光換氣ニ注意シ掃除ハ濕布ヲ以テ拭淨スル等塵埃ノ飛散ヲ防クコト

六　患者ノ常用シタル衣服、寢具、書籍其ノ他ノ物件ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシメムトスルトキハ消毒スルコト

七　患者居室又ハ住家ヲ轉シタルトキハ其ノ使用シタル居室、衣服、寢具、書籍其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルコト

八　患者死亡シタルトキハ其ノ使用シタル居室、衣服、寢具、書籍、理店、理髮店、湯屋其ノ他地方長官ノ指定シタル多衆ノ集合スル場所又ハ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニハ液體ヲ入レタル適當數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

第二條　學校、病院、製造所又ハ鐵道電車船舶自動車馬車等ノ發着待合所、劇場、寄席、活動寫眞館、旅店、下宿屋、料

警察署長又ハ警察分署長ハ前項ノ規定ニ依リ配置シタル唾壺適當ナラス又ハ其ノ箇數十分ナラスト認ムルトキハ期日ヲ

指定シテ其ノ變更又ハ增置ヲ命スルコトヲ得

唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ投棄スルコトヲ得ス

第三條　前條ノ場所ニ於テハ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコトヲ得ス

第四條　地方長官ノ指定シタル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ揭クル事項ヲ遵守スヘシ

一　營業ノ用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

二　前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト

三　結核患者若ハ其ノ疑アル患者ノ宿泊シタル室又ハ使用シタル物件ヲ他人ニ使用セシメムトスルトキハ消毒スルコト

前項ノ規定ハ前項以外ノ旅店及下宿屋、貸座敷其ノ他ノ場所ニシテ地方長官ノ指定シタルモノニ之ヲ準用ス

第五條　病院其ノ他患者ヲ收容スル場所ニ於テハ左ニ揭クル事項ヲ遵守スヘシ

一　結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト

二　結核患者ヲ收容シタル病室ニハ消毒スルニ非サレハ他ノ患者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

三　結核病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

第六條　第二條第四條第五條ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ大正十一年九月内務省令第二十四號ニ依ルヘシ但シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ鹽酸加石碳酸水（防腐用石炭酸五分鹽酸一分水九十四分）ヲ使用スヘシ

第七條　結核豫防法第六條ノ規定ニ依リ療養所ノ設置ヲ命セラレタル公共團體ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置、設計及其ノ收容人員ヲ定ムヘシ其ノ變更ニ付亦同シ

第八條　結核豫防法第三條行政官廳ノ職務ハ警察署長又ハ警察分署長、同法第四條行政官廳ノ職務ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ

結核豫防法結核豫防法施行令及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附　則

本令ハ結核豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正八年十一月一日ヨリ施行）

●結核豫防法施行細則

（大正九年五月十九日岐阜縣令第三十八號）

沿革　大正一一年一二月縣令第五四號改正

第一條　醫師結核豫防法（以下法ト稱ス）第二條第一項ニ依リ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示セムトスルトキハ結核豫防法施行規則（以下規則ト稱ス）第一條ノ規定事項ヲ列記セル書面ヲ以テ爲スヘシ

醫師前項ノ指示ヲ爲シタルトキハ患者又ハ死者ノ本籍居住若ハ死體所在ノ場所肺喉頭結核ノ別、男女別、職業、氏名、年齡ヲ簿册ニ記載シ置キ當該官吏ノ求メアルトキハ之ヲ提出スヘシ

第二條　左ノ各號該當者ニ對シ法第四條第一項第一號ノ健康診斷ヲ施行スルコトアルヘシ

一　看護婦、鍼術灸術按摩術業者

二　藝妓、酌婦、娼妓

三　旅人宿、下宿屋、木賃宿、料理屋、飮食店、貸座敷業者及其ノ從業者

四　質屋、古物商、屑物商、理髮業、裁縫職、貸本屋、貸布團業、貸衣裳業及其ノ從業者

五　劇場、寄席、觀物場內ノ從業者ニシテ直接客ニ接スル者

六　菓子、鮨、煮染、肉、乳其ノ他飮食物ノ製造又ハ販賣ニ直接從事スル者

七　箸、楊枝、折箱ニ類スルモノノ製造又ハ販賣ニ直接從事スル者

八　醫業用ノ電車、馬車、自動車ノ乘務員

九　前各號ノ外知事ニ於テ健康診斷ヲ必要ト認ムル者

第三條　警察官署長ニ必要ト認ムルトキ前條各號ノ該當者若ハ該當者タラムトスル者ニ對シ醫師ノ健康診斷書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四條　本則第二條各號ノ該當者ニシテ結核患者ナルトキハ法第四條第一項第二號ニ依リ其ノ從業ヲ禁止スルコトアルヘシ

第五條　唾壺ノ配置スヘキ場所トシテ規則第二條第一項ニ揭クルモノノ外左ノ通指定ス

貸座敷、飮食店、勸工場、觀物場、遊技場、取引所、銀行、會社、圖書館、教會堂、說教所、工場ノ寄宿舍、保育所、育兒院、醫師ノ患者控所、病舍

第六條　規則第二條第一項ニ定ムル所ノ唾壺ハ釉藥ヲ施セル陶磁器製ノモノヲ使用シ常ニ掃除スヘシ

第七條　規則第四條第一項ニ依リ鑛泉場ノ地域ヲ左ノ通指定ス

吉城郡上宮村大字平湯及大字神坂字蒲田

第八條　前條ノ指定地域外ニ在ル旅人宿、下宿屋、貸座敷、貸布團業者ハ規則第四條第一項第一號第二號及左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　寢具ノ白布竝貸浴衣ノ類ハ常ニ淸潔ナラシムルコト

第九條　結核豫防法施行令（以下施行令ト稱ス）第一條ノ補償金交付ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ所有者ト使用者トヲ別ニスル場合ハ連署スヘシ

一　申請者ノ住所、氏名及建物所有者又ハ使用者ノ別

二　損害額

三　制限又ハ禁止セラレタル建物ノ種類、構造、坪數

四　所有者及使用者以外建物ニ關シ權利ヲ有スル者ノ住所、氏名及權利ノ種類

前項ノ損害額ニ對シテハ明細書ヲ添付スヘシ

第十條　施行令第十四條ノ生活費補給ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　生活費ノ補給ヲ受クルニアラサレハ生活シ能ハサル事由

二　同一ノ家ニ在ル者ノ數、各自ノ職業、收入ノ狀況

三　從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ノ扶養ヲ受クヘキ者ノ氏名
四　本人及同一ノ家ニ在ル者ノ納稅額竝各自ノ動產、不動產ノ見積價額

前項ノ申請書ニハ最近ノ戸籍謄本ヲ添付スヘシ

第十一條　前二條ノ申請ハ警察官署ヲ經由スヘシ

第十二條　施行令第十一條第三項ノ認可申請書ハ警察官署ヲ經由スヘシ

第十三條　施行令第十六條ニ依ル生活補給ノ程度、方法、期間、廢止及停止ニ關スル事項ハ別ニ定メ告示ス

附　則

第十四條　本則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

（大正九年五月十九日訓令甲第三十四號）

●結核豫防法施行手續

沿革　大正一一年一二月訓令甲第五五號改正

第一條　警察官署ハ每月一回以上結核豫防法施行細則（以下細則ト稱ス）第一條ニ依リ指示シタル患死者ヲ取調別記第一號樣式ノ簿册ニ登載シ且每年一、四、七、十月前三箇月分ノ患死者數ヲ同第二號樣式ニ依リ製表シ十五日限知事ニ報告スヘシ

第二條　警察官署ハ結核豫防法（以下法ト稱ス）第二條第二項ノ該當者ニ就キ必要ニ應シ視察ヲ爲シ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指導スヘシ

第三條　警察官署法第三條ニ依リ消毒其ノ他ノ豫防方法ニ施行シ又ハ之ヲ命スル場合ハ結核豫防法施行規則（以下規則ト稱ス）第一條ニ準據スヘシ

郡役所　警察署　警察分署　市役所
町村役場

第四條　細則第二條ノ健康診斷ノ施行ヲ必要ト認ムルトキハ施行ノ日時、方法、地域、業態、人員ヲ豫定シ適宜ノ方法ニ依リ知事ニ申請スヘシ

第五條　警察官署前條健康診斷施行ノ結果患者ヲ發見シタルトキハ別記第三號樣式ノ簿册ニ登載シ且其ノ施行後十五日內ニ同第四號樣式ノ結果表ヲ調製シ知事ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ細則第三條ノ場合ニ準用ス但シ結果表中ノ第一表ハ報告ヲ要セス

第六條　警察官署細則第五條ノ從業禁止ヲ必要ト認ムルトキハ左ノ各號ヲ調製シ知事ニ具申スヘシ

一　患者ノ居住地、戸主非戸主ノ別、非戸主ナルトキハ戸主名及其ノ續柄、雇人ナルトキハ主家ノ氏名、職業、男女別氏名、生年月日
二　診斷醫師ノ氏名、診斷ノ年月日
三　從業停止ヲ必要トスル事由

前項具申ニハ醫師ノ診斷書ヲ徵收添附スヘシ

第七條　警察官署法第四條第一項第四號竝同第五條第一項ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ事由ヲ具シテ知事ニ申請スヘシ

第八條　警察官署法第七條第一項ニ依リ結核療養所ニ入所セシムルノ必要アリト認ムル者アルトキハ事由ヲ具シテ知事ニ申請スヘシ

第九條　市町村、警察官署法第十條ニ定ムル療養ノ途ナキ結核患者ヲ發見シタルトキハ事實ヲ調查シ知事ニ報告スヘシ

第十條　警察官署ハ規則第二條第一項ニ定ムル唾壺及同第四條ノ設備其ノ他ニ關シ必要ニ應シ臨檢視察ヲ爲スヘシ

第十一條　警察官署細則第九條第十條及第十二條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調查シ意見ヲ添ヘ進達スヘシ

第十二條　警察官署ハ前年中ニ於ケル取締ノ成績ヲ別記第五號樣式ニ依リ每年一月末日限知事ニ報告スヘシ

附　則

第十三條　本手續ハ細則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式（用紙美濃紙））

甲號結核患死者名簿

肺結核又ハ喉頭結核ノ別	患者又ハ死者ノ別	居住又ハ所在ノ場所	男女別	職業	氏名	年齢	本籍地	診斷シタル年月日	診斷醫ノ氏名	備考

（注意）

一 肺結核又ハ喉頭結核ノ別ハ肺又ハ喉頭ト記スヘシ

二 患者又ハ死者ノ別ハ單ニ患又ハ死ト略記スヘシ

（第二號樣式（用紙半紙））

結核患死者第一表

（大正何年自何月至何月分）

肺結核又ハ喉頭結核ノ外	男女ノ別	患者數	死者數	計	患死者ノ居住又ハ所在ノ場所數	備考
肺	男					
	女					
喉頭	男					
	女					
計	男					
	女					

警察官署名印

（注意）

一 患死者名簿ニ依リ調査スヘシ第二、第三表亦同シ

二 患死者ノ居住又ハ所在ノ場所數ハ患死者ノ發生カ散在的ナリヤ否ヤヲ知ラムカ爲トス

三 故ニ例ヘハ一場所ニシテ三人ノ患死者ヲ出シタル場合ノ如キハ患死者ノ居住又ハ所在ノ場所數ハ一トセサルヘカラス

結核患死者第二表

（大正何年自何月至何月分）

警察官署名印

職業別	肺結核						喉頭結核						計					
	患者		死者		計		患者		死者		計		患者		死者		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

計

備考
一 何々
二 何々

（注意）
一 患死者數ハ第一表ト符合スヘキモノトス

結核患死者第三表

（大正何年自何月至何月分）

警察官署名印

年齡別	肺結核 患者 男	肺結核 患者 女	肺結核 死者 男	肺結核 死者 女	肺結核 計 男	肺結核 計 女	喉頭結核 患者 男	喉頭結核 患者 女	喉頭結核 死者 男	喉頭結核 死者 女	喉頭結核 計 男	喉頭結核 計 女	計 患者 男	計 患者 女	計 死者 男	計 死者 女	計 計 男	計 計 女
十歲未滿																		
二十歲未滿																		
三十歲未滿																		
四十歲未滿																		
五十歲未滿																		
五十歲以上																		

計

備考
一 何々
二 何々

（注意）
一 患死者數ハ第二表ト符合スヘキモノトス

（第三號樣式）（用紙美濃紙）

乙號 結核患者名簿

肺結核又ハ喉頭結核ノ別	居住ノ場所	男女ノ別	職業	氏名 年齡	本籍地	健康診斷施行ノ年月日	備考

（注意）
一 肺結核又ハ喉頭結核ノ別ハ單ニ肺又ハ喉頭ト略記シテ可ナリ

二　居住ノ場所ハ例ヘハ何村何大字何番地誰方ト云フカ如ク詳記スヘシ
三　健康診斷施行ノ年月日ハ太正何年自何月何日至何月何日施行ト記載スヘシ
四　兼業ノ者ニ付テハ結核ノ誘因ヲ爲ス者ト思料セラルル職業ヲ判別シテ記載スヘシ
五　年齡ハ常何歲ト記載スヘシ
六　本籍地ナシテ居住ノ場所ト同一ナルトキハ「第三欄ニ同シ」ト略記シテ可ナリ
七　本手續第五條第二項ニ依ル者ニ付テハ備考欄ニ「健康診斷書ニ依ル者」ト記載スヘシ
八　本注意ハ必ス名簿ノ冒頭ニ表示シ置クヘシ

○第四號樣式（用紙半紙）

結核健康診斷結果第一表

（大正何年自何月何日至何月何日施行ノ分）

健康診斷施行豫定人員	上欄ノ內 健康診斷ヲ受ケタル者			患者 健康者			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計

警察官署名印

備考
一　何々
二　何々

（注意）
一　健康診斷施行ノ方法ヲ必ス備考欄ニ附記スヘシ
二　本手續第一條後段ニ依リ報告スヘキ者ハ除外スヘシ

結核健康診斷結果第二表

（大正何年自何月何日至何月何日施行ノ分）

職業別	肺結核患者			喉頭結核患者			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計

警察官署名印

備考
一　何々
二　何々

（注意）
一　本手續第一條後段ニ依リ報告スヘキ者ヲ除外スヘシ
二　患者數ハ第一表ト符合スヘキモノトス但シ本手續第五條第二項ニ依ル者ノ場合ハ此ノ限ニアラス
三　本手續第五條第二項ニ依ル者ノ場合ハ備考欄ニ「健康診斷書ヲ提出セシメタル者」ト記載スヘシ

結核健康診斷書結果第三表

（大正何年自何月何日至何月何日施行ノ分）

年齢別	肺結核患者			喉頭結核患者		
	男	女	計	男	女	計
十歳未滿						
二十歳未滿						
三十歳未滿						
四十歳未滿						
五十歳未滿						
五十歳以上						
計						

備考

一　何々

二　何々

（注意）

一　本手續第一條後段ニ依リ報告スヘキ者ハ除外スヘシ

二　患者數ハ第二表ト符合スヘキモノトス

警察官署名印

三　本手續第五條第二項ニ依ル者ノ場合ハ備考欄ニ「健康診斷書ヲ提出セシメタル者」ト記載スヘシ

（第五號樣式（用紙半紙））

結核豫防成績表

（大正何年中）

違反事項	處罰					
	罰金			科料		
	說諭	合計	罰	說諭	合計	罰
法第二條第一項ニ違反シタル者						
同前第二項ニ違反シタル者						
同第三條ノ命令ニ違反シタル者						
健康診斷ヲ忌避シタル者						
從業禁止ノ命令ニ違反シタル者						
唾壺ニ關スル違反者						
法第四條第一項第四號ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者						
同第五條第一項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者						
指定鑛泉場ニ於ケル設備其ノ他ノ違反						
細則第八條ニ違反シタル者						
計						

警察官署名印

備考
一　何　々
二　何　々
（注意）
一　本表ノ數字ハ凡テ件數ヲ記載スヘシ
二　一人ニシテ數件ノ違反アリタル場合ハ主タル一件ヲ墨書シ他ハ何レモ朱書スヘシ
三　起訴猶豫ノ類ハ說諭件數欄内ニ朱書スヘシ

●結核豫防法ニ依ル生活補給規定

（大正十年三月三十一日告示第百二十一號）

第一條　生活費補給ノ申請書ハ別紙第一號樣式ニ據ルヘシ
第二條　結核豫防法施行令第十三條ニ該當スル者ニ補給スル生活費ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ給與ス
一　施行令第一項第一號該當者ハ一人一日金四拾五錢以内
一　同第一項第二號第三號該當者ハ一人一日金參拾錢以内
二人以上ナルトキハ一人ヲ增ス毎ニ金貳拾錢以内トス
一　年齡十歲未滿ノ者ハ前各項ノ半額トス
一　前記計算ニ依リ一家族ノ受クヘキ總額カ一日金壹圓ヲ超過スルトキハ之ヲ金壹圓ニ定ム
第三條　生活費補給ノ方法ハ從業禁止又ハ結核療養所入所ノ翌日ヨリ起算シ一ケ月分ヲ取纏メ翌月五日迄ニ別紙第二號樣式ニ依リ請求書ヲ作製シ所轄警察官署ヲ經由縣廳ニ差出スヘシ
初給及廢止ノ月ハ其ノ月分ヲ取纏メ翌月三日迄ニ前項ニ據リ差出スヘシ
第四條　生活費ノ補給ヲ受クルモノ自活ノ途ヲ得又ハ他人ノ扶助ヲ受クルニ至リタルトキハ其狀況ニ依リ補給ノ程度ヲ減少シ若ハ補給ノ全部ヲ停止スルコトアルヘシ
第五條　從業ヲ禁止セラレタル者又ハ結核療養所ニ入所セシメタル者ニシテ逃走死亡其ノ他ノ事由ニ依リ生活費補給ノ必用ナシト認メタルトキハ其ノ事由ノ生シタル日ヨリ補給ヲ廢止ス
第六條　從業ヲ禁止セラレタル者又ハ結核療養所ニ入所セシメラレタル者以外ノ補給ヲ受クルモノニシテ逃走死亡其ノ他ノ事由ノ生シタル日ヨリ其ノ者ニ對スル補給ヲ停止シ又ハ廢止ス

○第一號樣式

生活費補給申請書

岐阜縣何郡何市何町村字何何番地
戶主（又ハ戶主某何男ノ類）職業　氏名

右ハ大正何年何月何日結核豫防法第四條第一項第二號（又ハ同法第七條第一項）ニ依リ從業禁止（又ハ何結核療養所ニ入所ヲ命セラレ候ニ付生活ノ途ヲ失シ（生活不能ノ事實ヲ詳具シ）候間同法施行令第十四條ニ依リ相當生活費補給相成度戶籍謄本（此ノ謄本ハ次回ヨリハ省略スルモ妨ケナシ但異動アリタルトキハ更ニ添附スヘシ）竝ニ別紙家族調書相添ヘ此段申請候也

右　氏　名印

岐阜縣知事宛

何郡市町村字番地
戶主（又ハ戶主トノ續柄）職業

家族調書

一年月日何結核療養所ニ入所ヲ命セラル
從業禁止ヲ命セラル

一何年月日ヨリ何々病ニ罹リ今尚病褥中
ニアリ別紙醫師診斷書ノ通

一老　衰
一療　疾
一幼　兒

計何名
內
滿十歲以上何名
十歲未滿何名

○第二號樣式

一金何圓何拾錢　請求書

內譯

患者　氏　名　生年月日
妻　氏　名　生年月月
父　氏　名　生年月日
母　氏　名　生年月日
長男　氏　名　生年月日

金何程　大正何年　月　日ヨリ何日分滿十歲以上何人分
金何程　同　月　日マテ　何日分十歲未滿何人分

右大正年月日岐阜縣指令衞第何號御許可ノ生活費補給金御下渡相成度此段請求候也

年　月　日

住所
氏名　印

岐阜縣知事宛

●肺結核豫防ニ關スル件

（明治三十七年二月十七日）
（岐阜縣告諭第一號）

結核ハ傳染病ニシテ多クハ慢性ノ經過ヲ取リ世人ノ注意ヲ惹クコト虎列刺、「ペスト」ノ如クナラスト雖モ全國各地ニ蔓延シ年々多數ノ國民ヲ侵シ國家ニ慘害ヲ及ホスモノ蓋シ其ノ比ナカルヘシ最近ノ調査ニ依レハ明治三十二年中結核ニ原因シタル死亡者ハ約七萬ニシテ而テ都市ニ於テ最モ多ク死亡總數ノ平均六分ノ一ヲ占メ又全國ニ於テ生產能力ヲ有スル年齡ニ在リテハ其ノ死亡數中六分ノ一餘ニ相當セリ加之近年ニ至リ本病患者增加ノ傾向アルヲ以テ今般內務省令第一號ヲ以テ結核諸病中其ノ大部分ヲ占メ從テ傳染蔓延ノ危害最モ大ナル肺結核ノ豫防ニ關シ先ツ緊急必要ナル取締規則ヲ制定發布セラルルニ至レリ就テハ該省令ノ適用ヲ受クヘキモノノ外一般箇人ニ於テモ左記各項ニ遵由シ之カ實行ニ努メ該病ノ傳染蔓延ヲ防止セムコトニ注意スヘシ

一　肺結核病毒ノ蔓延ハ主トシテ患者ノ咯痰ニ因ルモノナレハ肺結核又ハ其ノ疑アル患者アル家ニ於テハ患者用トシテ磁製若ハ硝子製有蓋唾壺（少量ノ消毒液又ハ水ヲ入レ置キ）ヲ備ヘ唾壺內ノ唾痰ハ便所又ハ下水溝ニ投棄スルニ先ツテ消毒ヲ行フコト

唾痰ヲ消毒スルニハ其ノ同量以上ノ石炭酸水（二十倍）（結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分）ヲ加ヘ能ク攪拌シ一時間以上放置スル

コト

二　肺結核患者ノ衣服、寢具其ノ他患者ノ咯痰ニ汚染シタル物品ハ時々消毒ヲ行フコト

三　肺結核患者ノ居住シタル室、其ノ使用シタル衣服、寢具、飮食器具其ノ他ノ物品ハ病毒傳播ノ危險最モ大ナルヲ以テ相當ノ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用セシメサルコト

四　呼吸器ニ異狀アルモノ、病後衰弱シタルモノ、體質虛弱ナルモノ又ハ小兒ノ如キハ容易ニ結核病毒ニ感染スルノ虞アルヲ以テ肺結核又ハ其ノ疑アル患者ニハ可成近接スルヲ避クルコト

五　病院ニアラスト雖モ患者ヲ收容スヘキ設備ヲ爲シタル場所（學校、工場附屬ノ病室等）ニ在リテハ內務省令第一號第四條ニ準シ相當ノ施設ヲ爲スコト

六　塵埃中ニハ屢々結核菌ヲ含有セル塵埃ト雖モ呼吸器ヲ害シ肺結核ノ誘因トナルモノナレハ學校、工場其ノ他多人數集合スル建物ニ於テハ濕雜巾ヲ用キル等可成塵埃ノ飛散セサル方法ヲ用キテ掃除ヲ行フコト

●肺結核豫防ニ關スル件

（大正三年九月十六日　岐阜縣訓令甲第三十六號）

郡役所　市役所　警察署　警察分署　町村役場

結核ハ社會三大病ノ一ニシテ其ノ慘毒ヲ流スコト最モ甚シキ傳染性庶民病ナリ而ルニ本病ノ多クハ慢性ノ經過ヲ取ルカ故ニ世人ノ注意ヲ惹クコト虎列剌「ペスト」ノ如ク甚シカラスト雖其ノ人命ヲ危フシ生產力ヲ阻害スルノ程度ニ至リテハ蓋シ其ノ比ヲ見サルヘシ本邦ニ於ケル最近一箇年ノ結核死亡數ハ約十萬人ニ近ク而モ十五歲乃至三十五歲ノ少壯者全死亡ノ三分ノ一ハ實ニ結核病ニ因ス今本縣ニ於ケル結核病傳播ノ趨勢ヲ觀察スルニ明治三十七年ハ肺結核死者千五百三十二名ナリシカ四十三年ニ至リテハ千八百十名ニ上昇シ漸次增加ノ趨勢ヲ呈スルハ寔ニ痛心ニ堪ヘサルナリ今ニシテ之カ豫防ヲ怠諸ニ附シ去ランカ竟ニ如何ナル慘害ヲ釀スニ至ルヤモ知ル可ラス抑モ本病撲滅ノ如キ素ヨリ一朝夕ニ其ノ效ヲ期スルコト能ハサルハ勿論ナルモ其ノ病原及傳染要約モ明瞭トナレル今日豫防方法ノ適確ナルニ於テハ之カ目的ヲ達シ得ヘキ事確實ニシテ既ニ歐米諸國ノ實證スル所ナリ而シテ結核豫防ノ方法タル從來一定ノ法規アリテ之ヲ勵行スルハ勿論ナリト雖單ニ其ノ一方ノミニテハ之ヲ撲滅スルコト殆ント難シ必スヤ他方ニ於テ結核ニ關スル智識ノ普及竝國民體力ノ增進ヲ圖ルト共ニ患者ノ早期診斷法當ナル療養患家及死者ノ消毒等ヲ實施スルコト最モ肝要ナリトス而シテ之カ實行ハ必スヤ官民相互ノ協力ニ俟タサルヘカラス局ニ當ル者宜シク此主旨ヲ體シ地方ノ狀況ニ鑑ミ適切ノ方策ヲ講シ以テ最善ノ效果ヲ收ムルニ努ムヘシ

●結核健康診斷及トラホーム檢診成績表ニ關スル件

（大正十三年一月九日　衞第三九八七號通牒）

結核豫防法第四條第一項第一號ニ依ル健康診斷及トラホーム豫防法第四條第一項第一號ニ依ル檢診ニ關スル成績ハ別紙樣式ニ依リ十二年以降其前半分ヲ翌年一月十日限リ報告相成度及通牒候也

一表

結核健康診斷成績表　自大正何年一月一日　至仝　年十二月三十一日

種別	性別	健康診斷ヲ受ケタル人員	患者ト決定セラレタル人員	從業禁止ヲ命シタル人員	備考
男					
女					
計					

大正八年十月二十四日以後衞第三二〇號衞生局長依命通牒第三項ノ甲ノ一

		計			病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所ニ於テ殘業ニ從事スルモノ			〃 甲ノ四			〃 甲ノ三			〃 甲ノ二		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計

第二表

トラホーム檢診成績表

自大正何年一月一日
至大正何年十二月三十一日

種別	性別	檢診ヲ受ケタル人員	患者ト決定セラレタル人員				從業停止ヲ命シタル人員	備考
			重症	輕症	疑症	計		
接客業者	男							
	女							
	計							
工場從業者	男							
	女							
	計							
壯丁	男							
	女							
	計							
其他	男							
	女							

	計			
	計	男	女	計

備考

一　翌年徴兵適令ニ達セムトスル者又ハ徴集延期者ニ對シ現年徴兵適令者ト同樣又ハ特別ニ豫防檢診ヲ施行セラルル向ニアリテハ其數壯丁ノ欄ニ掲記スルコト

一　第一表中衞生局長通牒甲一、二、三、四ハ左記ノ通リ

一　旅店、下宿屋、貸座敷、料理屋、理髮店其他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者看護婦鍼灸術業按摩藝妓娼妓酌婦其他直接客ニ接スル營業ニ從事スルモノ

一　菓子、鮨、煮染、肉乳其他ノ飲食物ノ製造又ハ販賣ニ直接從事スルモノ

一　箸楊枝移粉細工等ニ類スルモノノ製造又ハ販賣ニ直接從事スルモノ

一　貸蒲團貸本古著其他之レニ類スル物件ノ賣買授受ノ業務ニ直接從事スルモノ

●結核早期診斷所及「トラホーム」治療所調ニ關スル件

（大正十五年三月十七日　衞第一五七號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

大正十三年二月四日衞第四〇號ヲ以テ通牒ノ標記ノ件爾今左記樣式ニ變更候ニ付毎年五月末日迄ニ報告相成度此段及通牒候也

記

第一表

道府縣立結核早期診斷所調　（大正　年三月末日現在）

診斷數	經常費		大正　年度中徴收セシ診斷料總額	大正　年度中ノ診斷者數			從事醫員數	備考
	大正　年度豫算	大正　年度決算		診斷料ヲ徴收セシ人員	診斷料ヲ徴收セサリシ人員	合計		

一　經常費大正　年度豫算ノ欄ニハ翌年度豫算額ヲ記入スル事

二　經常費大正　年度決算ノ欄ニハ現年度決算額ヲ記入スル事

三　大正　年度徴收セシ診斷料總額及大正　年度中ノ診斷者數ノ欄ニハ各現年度中ニ於ケル額又ハ數ヲ記入スルコト

四　三月末日現在ニ於テハ診斷所ヲ有セサルモ現年度中ニ於テ之ヲ設置シタルモノアルトキハ左傍ニ※印ヲ付シテ各事項ヲ記載スルコト

第二表

市町村立結核早期診斷所調　（大正　年三月末日現在）

診料所數	經常費		大正　年度中徴收セシ診斷料總額	大正　年度中ノ診斷者數			從事人員	備考
	大正　年度豫算	大正　年度決算		診斷料ヲ徴收セシ人員	診斷料ヲ徴收セサリシ人員	合計		
市町								
村立								
合計								

備考

第一表ニ同シ

第三表　私立結核早期診斷所調　（大正　年三月末日現在）

診斷所數		經常費		大正年度中ノ診斷者數					
結核豫防團體設立ニノ設立ニ係ルモノ	其他斯種團體設立ニ係ルモノ	合計	大正年度豫算	大正年度決算	大正年度中徵收セシ診斷料總額	診斷料ヲ徵セシ人員	診斷料ヲ徵セサリシ人員	合計	從事醫員數	備考

（備考）

一、二、三、四第一表ニ同シ

五、「其他斯種團體設立ニ係ルモノ」ノ診斷所數ニ付テハ其ノ內譯ヲ備考欄ニ記載スルコト

第四表　道府縣立トラホーム治療所調　（大正　年三月末日現在）

治療所數		經常費		大正年度中ノ治療患者數						
大正年度豫算	大正年度決算	大正年度中徵收セシ治療料總額	自大正年度實數	施療合計				從事醫員數	備考
				延收實數	延數	實數	延數		

（備考）

一　經常費大正　年度豫算ノ欄ニハ翌年度豫算額ヲ記入スルコト

二　經常費大正　年度決算ノ欄ニハ現年度決算額ヲ記入スルコト

三　大正　年度中徵收シタル治療料總額及大正　年度ノ治療患者數ノ欄ニハ各現年度中ニ於ケル額又ハ數ヲ記入スルコト

四　三月末日現在ニ於テハ治療所ヲ有セサルモ現年度中ニ於テ之ヲ設置シタルモノアルトキハ左傍ニ※印ヲ付シ各事項ヲ記載スルコト

第五表　市町村立トラホーム治療所調　（大正　年三月末日現在）

治療所數		經常費		大正年度中ノ治療患者數					
市町村立	市町村立計	大正年度豫算	大正年度決算	大正年度中徵收セシ治療料總額	自大正年度實數	施療合計		從事醫員數	備考
						延數 實數	延數		

備考

一、二、三第四表ニ同シ

四、三月末日現在ニ於テハ之ヲ有セサルモ現年度中ニ於テ設置シタルコトアル治療所及現年度中ニ於テ設置セル治療班アルトキハ左傍ニ※印ヲ付シテ各事項ニ付其ノ合計ヲ記載スルコト

第六表　私立トラホーム治療所調　（大正　年三月末日現在）

治療所數				經常費			大正年度中ノ治療患者數						從事	備考
醫師會設立ニ係ルモノ	衛生組合設立ニ係ルモノ	其他斯種團體設立ニ係ルモノ	合計	大正年度豫算	大正年度決算	大正年度中徴收セシ治療所總額	自費		施療		合計		醫員數	
							實數	延數	實數	延數	實數	延數		

備考

一、二、三、四第四表ニ同シ

五、「其他斯種團體設立ニ係ルモノ」ノ治療所數ニ付テハ其ノ內譯ヲ備考欄ニ記載スルコト

●結核「トラホーム」檢診料ニ關スル件

（大正十三年四月二十八日衛發第一五二號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

爾今結核「トラホーム」檢診ニ當リ地方開業醫ニ囑託施行シタル場合ハ結核ニ在ツテハ一人一回金貳拾錢以內「トラホーム」ニ在ツテハ同金四錢以內ノ檢診料ヲ當部ヨリ支給スヘキニ付檢診終了ノ都度左記樣式ニ依リ請求書提出セシメラレ度此段及通牒候也

記

請求書

一金

但大正　年　月　日ヨリ　月　日マテ何郡何町村何所ニ於テ何々營業者等何名「トラホーム」檢診料（結核檢診料）一人ニ付金何錢宛）

右金員御拂渡相成度及請求候也

大正　年　月　日

縣郡市町村

囑託醫　何　某　㊞

知事宛

右ノ通リ囑託ノ上施行セシコト相違無之候也

何警察（分）　署長名㊞

●トラホーム竝結核檢診料請求書ニ關スル件

（大正十年五月二十三日衛第四五四四號通牒）

警察部長ヨリ縣下各警察官署長宛

本年二月十六日附衛第一六二六號ヲ以テ「トラホーム」竝ニ結核檢診ニ關スル件照會致置候處之カ檢診料請求書樣式中「トラホーム」ト結核トハ各別紙ヲ以テ請求ヲ要スル儀ニ付爲念及通知候也

追テ囑託醫師ヨリ直接請求スルモノ有之差支候條必ス貴署ヲ經由セシメ末尾ニ囑託證明洩ナキ樣御注意ノ上回送煩度申添候

第十三章　トラホーム豫防

●「トラホーム」豫防法

（大正八年三月二十七日　法律第二十七號）

第一條　醫師「トラホーム」患者ヲ診斷シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

當該官吏又ハ吏員ハ必要ト認ムルトキハ「トラホーム」患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

第二條　「トラホーム」患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クヘシ

第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ

「トラホーム」患者ノ保護者ハ其ノ患者ヲシテ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘシ

第三條　行政官廳ハ「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受クルノ途ナキ者ニ對シ治療ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ治療ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ患者所在地ノ市町村ノ負擔トス

第四條　行政官廳ハ「トラホーム」豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一　檢診ヲ施行スルコト

二　「トラホーム」患者ニ對シ客ニ接スル業務ニ從事スルヲ停止スルコト

三　學校、幼稚園、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルヘキ事項ヲ制限シ若ハ禁示シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ「トラホーム」豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト

第五條　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ「トラホーム」ノ豫防及治療ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

地方長官ニ於テ前項第一項ノ檢診ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第六條　北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス市町村ニ對シ其ノ費用ノ補助ヲ爲スヘシ

第七條　國庫ハ前條ノ補助ノ爲其ノ他「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ六分ノ一ヲ補助ス

第八條　官廳、公署、官立公立ノ學校製造所等ニ於テハ其ノ長ハ第四條第一項第三號ノ規定ニ準シ「トラホーム」豫防ニ關スル事項ヲ施行スヘシ

第九條　第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條　第四條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ヲ謂フ

第十一條　本法ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治産者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戸主、戸主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戸主ノ後見人

二　教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人

第十二條　本法中市町村トアレハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年八月勅令第四百十三號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

●「トラホーム」豫防法施行規則

（大正八年八月二十三日　内務省令第十三號）

第一條　「トラホーム」豫防法第一條第一項ノ規定ニ依リ醫師ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ハ左ノ各號ニ準據スヘシ

一　患者ノ手拭ハ專用トシ其ノ清潔ニ注意スルコト

二　洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別スルコト

三　患者ノ常用シタル手拭、洗面器ノ類ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシメムトスルトキハ煮沸スルカ又ハ熱湯ヲ以テ洗淨スルコト

四　眼脂ヲ拭フニハ清潔ナル專用ノ布片類ヲ用ヰルコト

五　指爪ヲ短剪シ顏面手指ノ清潔ニ注意スルコト

第二條　學校、幼稚園、製造所又ハ鐵道、電車、船舶、自動車、馬車等ノ發着待合所、劇場、寄席、活動寫眞館、旅店、下宿屋、料理店、理髮店、湯屋其ノ他地方長官ノ指定シタル多衆ノ集合スル場所又ハ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於テハ左ニ揭クル事項ヲ遵守スヘシ

一　貸手拭又ハ共用手拭ヲ備ヘサルコト但シ使用者毎ニ清潔ナルモノヲ使用セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　手洗水ハ流出裝置トナスコト

學校、幼稚園、製造所其ノ他地方長官ノ指定シタル場所ニ於テハ前項各號ノ外洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別スヘシ

第三條　「トラホーム」豫防法第六條ノ規定ニ依ル北海道地方費又ハ府縣ノ補助ヲサルコトヲ得

一　治療ニ關スル費用ハ支出額ノ四分ノ一以上

二　豫防ニ關スル費用ハ支出額ノ六分ノ一以上

前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第四條　「トラホーム」豫防法第三條行政官廳ノ職務ハ警察署長又ハ警察分署長、同法第四條行政官廳ノ職務ハ內務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ

「トラホーム」豫防法及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附　則

本令ハ「トラホーム」豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正八年九月一日ヨリ施行）

●「トラホーム」豫防法施行細則

（大正十年二月九日岐阜縣令第四號）

沿革　大正一三年五月縣令第四八號改正

第一條　「トラホーム」豫防法第一條ニ依ル醫師ノ指示ハ指示箋ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二條　前條ノ指示箋ハ警察官吏之ヲ檢閲スルコトアルヘシ此ノ場合醫師ハ速ニ之ヲ提示スヘシ

第三條　「トラホーム」豫防法第四條第一項第一號ノ檢診ヲ必要ト認ムルモ左ノ如シ

一　徴兵適齡一年前ノ者

二　産婆、看護婦、按摩術、マツサージ術、柔道整復術、灸術、鍼術營業者

三　貸座敷、旅店、下宿屋、料理店、待合茶屋、飲食店營業者及其ノ從業者

四　理髪店、湯屋、劇場、寄席、觀物場、遊技場營業者及其ノ從業者

五　藝妓、酌婦、娼妓

六　營業用自動車、乘合馬車、電車ノ乘務員

七　工場法適用工場ニ於ケル從業者

八　其ノ他病毒傳播ノ媒介トナルヘキ業態者

前項第一號該當者ハ市町、村長第二號乃至第八號該當者ハ警察官署長ノ指定シタル日時場所ニ於テ指定醫ノ檢診ヲ受クヘシ

但疾病其ノ他止ムヲ得サル事由ニ依リ前項ノ檢診ヲ受クルコト能ハサル者ハ他ノ開業醫ノ健康診斷ヲ受ケ檢診ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ診斷書ヲ提出スルコトヲ得

第四條　前條ニ依リ「トラホーム」患者ト診定セラレタル者ハ檢診ノ通知ヲ受ケタル官公署ニ於テ治療票ヲ受領シ醫師ノ治

癒ヲ受クヘシ

第五條　「トラホーム」患者前條ノ治療票ヲ滅失毀損シタトキハ速ニ其ノ事由ヲ申出テ再交付ヲ受クヘシ治療シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第六條　「トラホーム」豫防法施行規則第二條第一項ニ依ルノ外多衆集合スル場所及客ノ來集ヲ目的トスル場所ヲ指定スルコト左ノ如シ

一　教會堂

二　說教所

三　飲食店

四　貸座敷

五　待合茶屋

六　神社、佛堂、加持祈所

第七條　「トラホーム」豫防法施行規則第二條第二項ニ依ルノ外洗面器ノ區別ヲ必要トスヘキ場所ヲ指定スルコト左ノ如シ

一　旅店、下宿屋、料理店、貸座敷、理髪店

二　鐵道、電車、船舶、自動車、乘合馬車ノ發着待合所

附　則

明治四十三年六月岐阜縣令第二十二號ハ之ヲ廢止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●「トラホーム」豫防法施行手續

（大正十年二月九日　岐阜縣訓令甲第四號）

沿革　大正一三年五月訓令甲第二九號、一四年七月同第二一號、一五年六月同第三一號改正

第一條　「トラホーム」豫防法施行細則第二條ニ依ル醫師ノ指示セシ患者ハ警察官署ニ於テ之ヲ調査シ別紙第一號樣式ニ依リ毎年一月三十一日迄ニ報告スヘシ　警察署〔警察分署〕〔郡役所〕

第二條　市町村長ハ毎年二月末日迄ニ徵兵適齡一年前ノ者ヲ調査シ別紙第二號樣式ノ名簿ヲ作製スヘシ　市役所　町村役場

前項名簿ノ作製ヲ終リタルトキハ十日以內ニ受檢者員數ヲ市ハ直接知事ニ町村ハ所轄警察署長ニ報告スヘシ

所轄警察署長ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別紙第三號樣式ニ依リ報告スヘシ

第三條　市町村長ハ知事ヨリ徵兵適齡一年前ノ者ニ對シ「トラホーム」檢診施行ノ通知ヲ受ケタルトキハ（町村長ヘハ所轄警察署長經由）受驗者ヲ一定ノ場所ニ集メ豫防醫ノ檢診ヲ受ケシメ之ヲ名簿ニ登錄シ且患者ニ治療票ノ交付ヲ爲スヘシ

第四條　市役所、町村役場及警察官署ニ於テ「トラホーム」患者ニ交付スル治療票ハ別紙第四號樣式ニ依ルヘシ

第五條　市町村長ハ毎年三月三十一日迄ニ前年分ノ「トラホーム」患者ノ治療成績ヲ別紙第五號樣式ニ依リ報告スヘシ（町村長ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ）

第六條　警察官署ニ於テハ「トラホーム」豫防法第三條ニ依ル「トラホーム」患者ノ住所氏名年齡戶主ノ續柄主治醫ノ住所氏名診定年月日ヲ關係市町村長ニ通知スヘシ

治療ヲ廢止シタルトキハ別紙第六號樣式ニ依ル治療要續算書ヲ添ヘ廢止ノ理由年月日ヲ市町村長ニ通知スヘシ

第七條　「トラホーム」豫防法施行細則第三條第二號乃至第七號ニ依ル「トラホーム」檢診ニ對シテハ警察官署ハ別紙第二號樣式ノ名簿ヲ作製シ每年四、五兩月及九、十月間ニ於テ各一回日時ヲ指定シ工場主ヲシテ檢診ヲ行ハシムヘシ

前項ノ檢診ヲ終リタルトキハ警察官署ハ工場主ヲシテ其ノ成績ヲ第八號樣式ニ依リ翌月五日迄ニ屆出テシメ同樣式ニ依リ集計表ヲ添ヘ十日以內ニ進達スヘシ

第八條　警察官署ハ工場主ヲシテ患者ニ對シ第四號樣式ノ患者票ヲ調製シ治療票ヲ交付セシムヘシ

市町村ニ於テ「トラホーム」ノ檢診及ヒ治療ヲ施行シタルトキハ前年分ヲ翌年一月末日迄ニ前條第二項ニ準シ報告スヘシ（町村長ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ）

第九條　警察署長ニ於テ「トラホーム」豫防法第四條第一項第二號ニ依ル從業ノ停止同第三號ニ依ル制度、禁止若クハ「トラホーム」豫防上必要ナル施設ヲナスノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ報告スヘシ

第十條　市町村長ハ「トラホーム」豫防上其ノ市町村ニ一名乃至數名ノ豫防醫ヲ設クヘシ

但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ數町村聯合シテ之ヲ設置スルコトヲ得

第十一條　市町村長前條ニ依リ豫防醫ヲ設置シタルトキハ速ニ其住所氏名設置ノ年月日ヲ報告スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

附　則

明治四十三年六月岐阜縣訓令甲第二十七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○第一號

「トラホーム」患者表 大正　年分 何　署

醫師名	指示セシ患者數 本縣內患者	指示セシ患者數 本縣外患者	指示セシ患者數 計
計			

備考 本表ニハ縣立、(郡立)、私立各病院及各開業醫ノ診察ニ依ル「トラホーム」豫防ノ指示ヲナシタルモノノミヲ揭クルモノトス

○第二號

壯丁(營業者其他)「トラホーム」受檢者名簿

番號	檢査成績	治療着手年月日	轉歸其他年月日	住所	戸主ノ續柄	職業	氏名	生年月日

○第三號

壯丁「トラホーム」受檢者員數表 大正　年分 何　郡

市町村名	受檢者數

備考 警察官署ニ在テハ業態每ニ區別ヲナスヘシ

○第四號

第　號

患者票

住所	郡 市 長 村 戸 番 地
氏名	
職業	
病症	
檢査年月日	
備考	

大正　年　月　日生

備考欄ニハ治癒死亡轉住其他ノ異動ヲ記入スヘシ

……切……取……線……

第　號

治療證票

病症

住所	郡 市 町 村 戸 番 地
氏名	
職業	
年齡	大正　年　月生

檢診時	大正　年　月　日　檢診醫
治療開始時	大正　年　月　日　主治醫
治癒時	大正　年　月　日　主治醫
交付シタル日	大正　年　月　日　交付シタル官(公)署名

注意

一　直ニ醫療ヲ受ケ全治ニ至ルマテ繼續スルコト

一　治療ヲ開始シタルトキハ主治醫ノ署名捺印ヲ受ケ大切ニ保存スルコト

一　治療ヲ受ケタルトキハ其都度相當月日欄ニ主治醫ノ認印ヲ受クルコト

一　全治シタルトキハ主治醫ノ認印ヲ受ケ交付者ニ返納スヘシ

一　轉居セムトスルトキハ轉居前交付者ニ返納スヘシ

月/日	治療シタル日																														備考
月	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日	
月	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日	
月	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日	
月	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日	
月	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日	

○第五號

壯丁「トラホーム」治療成績表

大正　年分　何役場

市町村名	症狀別	患者數	轉歸其他ノ數	現在數
	重症			
	輕症			
	疑症			
	計			

○第六號

「トラホーム」治療費精算

一　患者住所氏名年齡　何郡市町村　何某　何年
一　主治醫　住所　氏名　何郡市町村　何某
一　治療開始年月日　大正　年　月　日
一　治療廢止年月日及事由　大正　年　月　日治癒又ハ何々
一　治療費額　金何程（別紙醫師請求書ノ通リ）
　　內譯
　　藥價何程　但內用藥何日分一日分何程

藥價何程　　但外用藥何程一度分何程

手術料何程

何々何程

右之通

年　月　日

署長名

○第七號

業態別	男女別	檢診人員 衛生技術員檢診	檢診人員 地方開業醫囑託檢診	診斷書提出人員	計	大正年前後分署名 病疾別 重症 技術員檢診	重症 囑託檢診	輕症 技術員檢診	輕症 囑託檢診	疑症 技術員檢診	疑症 囑託檢診	計 技術員檢診	計 囑託檢診

警業者其他「トラホーム」檢診成績表

備考

一　市町村ヨリ提出スル場合ハ徴兵適齢一年前ノ者ハ本表ニ合算スヘカラス

二　前年ヨリ繼續セル患者ハ左傍ニ朱書スヘシ

○第八號

大正年　月トラホーム職工檢診成績表　何工場主氏名印

區別	男女別	職工數	檢診數	不定診數	トラホーム患者數 新發見患者 重	輕	疑	計	前月ヨリ引續患者 重	輕	疑	計	合計 重	輕	疑	計
寄宿職工	男女															
通勤職工	男女															
計	男女															

●トラホーム豫防心得

（明治四十三年六月二十日岐阜縣告諭第一號）

トラホーム豫防ニ關シテハ曩ニ明治三十九年九月告諭第二號ヲ發シテ警告スル處アリ爾來漸ク公衆ノ注意ヲ喚超シ豫防方法實行ノ氣運ニ向ヒタルハ頗ル喜フヘキ現象ナリトス然レトモ本病蔓延ノ趨勢ハ尚ホ容易ニ其ノ減退ヲ見ルニ至ラス學校生徒兒童ノ體格檢査壯丁檢査其ノ他ノ事實ニ徴スルモ患者ノ各處ニ散在スルハ著シキ事實ナリトス今ニ於テ之カ豫防救治ニ一段ノ進歩ヲナスニアラスムハ個人ノ不幸國家ノ損害蓋シ測ルヘカラサルモノアルヘシ是今回新ニトラホーム豫防ニ關スル諸種ノ施設ヲナシ以テ該病撲滅ノ計畫ヲナス所以ナリ各自宜シク此意ヲ體シ明治三十九年告諭第二號ニ示セル豫防心得ハ勿論左ニ掲クル事項ヲ嚴守シ豫防救治ノ實行ヲ擧ケムコトヲ期スヘシ

豫防心得

一　家屋ハ常ニ清潔ニ掃除シ砂塵煤煙等ノ這入ラサル樣ニナシ空氣ノ疏通光線ノ射入ヲ良クスルコト

二　官衙、學校、工場、寄席、劇場、旅舍、料理店、湯屋、船舶、理髮店、貸座敷其ノ他多人數群集スル場所ハ可成手洗

水ノ容器ヲ流水裝置（手指接觸部ノ自動的ニ洗滌セラルル裝置ヲ謂フ）トシ及手拭ノ共同使用ヲ廢止スルコト

三 神社佛閣ハ奉納手拭ノ共同ヲ避クル爲其ノ手拭ハ參詣者ノ手ノ及ハサル所ニ掲ケ置クコト及拜殿本堂等ニ吊ルシアル鈴紐ハ可成撤去スル樣注意スルコト

四 トラホーム ニ罹レル兒童トノ共同遊戲ハ可成之ヲ避ケシムルコト

五 僕婢、乳母子守等ヲ雇入ルルトキハ可成檢診ノ上トラホーム患者ヲ雇入サル樣ニスルコト

六 患者ノ使用物ハ可成之ヲ消毒スルコト

七 患者入浴スルトキハ始メ浴槽外ノ湯又ハ水ニテ眼、指尖等ヲ洗滌スルコト

八 患者ハ可成保護眼鏡ヲ用ヒ他ニ傳染ノ機會ヲ少クスルコト

九 患者ノ居室ハ可成健康者ト分離シ採光、換氣、洒掃ニ注意スルコト

●トラホーム豫防費補助規則

（明治四十三年六月二十日 岐阜縣令第二十三號）

沿革 明治四四年五月縣令第一七號、大正三年二月第六號、六年二月第九號改正

第一條 市町村ニ於テトラホーム講習ノ爲知事ノ指定シタル講習會ヘ市町村醫學校醫ヲ參會セシメタルトキノ手當及旅費竝ニ一般人民ノトラホーム診療ニ對シテハ豫算ノ範圍內ニ於テ縣費ヨリ左ノ金額ヲ補助ス

一 市町村醫及學校醫ヲ講習會ヘ參會セシメタルトキハ其ノ支出額ノ二分ノ一以內

二 一般人民ノトラホーム診療ヲ爲シタルトキハ其ノ年六月三十日マテニ豫算書ヲ添付シ當廳ニ申請認可ヲ受クトラホーム診療ニ對シ縣費ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ其ノ支出額ノ三分ノ一以內

第二條 前條ノ豫防費ニシテ寄附金及補助金アリタル場合ハ之ヲ支出額ヨリ控除シ其ノ殘額ニ對シテ補助ス

第三條 補助申請書ニ記載セル支出金額適當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シテ補助スルモノトス

附 則

本規則ハ明治四十三年度ヨリ施行ス

●トラホーム豫防費補助申請手續

（大正六年十一月三十日 岐阜縣訓令甲第三十六號）

郡市役所 町村役場

第一條 市町村又ハ町村聯合トラホーム豫防組合ニ於テ支出シタルトラホーム豫防費ノ補助ハ左記各項ヲ具シ別記第一號式ニ據リ毎年七月ヨリ十二月マデノモノヲ翌年一月二十日限所轄郡長ヲ經由シ知事ニ申請スヘシ

一 支出精算證明書（第二號式）

二 支出ニ伴フ收入金調書（第三號式）

三 正當受取人ノ領收證書

但シ事實領收證書ヲ得難キモノハ其ノ仕拂證明證

四 トラホーム患者表（第四號式）

五 トラホーム檢診及治療ニ關スル日誌

但シ日誌ニハ檢診月日、場所、受檢人員、檢診醫氏名、立會公務員ノ資格及氏名、診療患者數竝ニ病症別等ヲ記載スヘシ

六 トラホーム檢診及治療ニ關スル係員以下ノ勤務簿（第五號式）

七 トラホーム檢診及治療ニ關スル需用品受拂簿（第六號式）

第二條 第一條第三號ノ證憑書ハ明治三十五年八月岐阜縣訓令第五十五號市町村傳染病豫防費補助申請手續第九條ノ規定ニ準據調製スヘシ

第三條 郡長ニ於テ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ速カニ調査ヲ遂ケ之ヲ取纏メ町村又ハ町村聯合トラホーム豫防組合ノ

差出期限後十日以内ニ意見ヲ附シ知事ニ進達スヘシ

但シ第一條第五號第六號第七號ノ簿册ハ郡長ニ於テ審査ノ上當該申請者ニ返附スヘシ

（第一號樣式）

大正六年自　月
至　月　トラホーム豫防費補助申請書

一金　　補助申請額

內譯

費目	認可又ハ指定ヲ受ケタル年月日及指令番號	認可ヲ受ケタル診療費豫算額	支出精算總額	支出ニ伴フ收入金	寄附金補助金	補助申請額
醫師講習費		圓	圓	圓	圓	圓
檢診費						
治療費						
計						

右補助相成度別紙關係書類相添ヘ此段及申請候也

年　月　日

郡（市）町（村）長　氏　名　印

郡町村聯合トラホーム豫防組合長　氏　名　印

知事宛

備考　用紙ハ半紙罫紙ヲ用ユルコト以下倣之

（第二號式）

トラホーム豫防費支出明細書

一金　　醫師講習費

一金　　檢診費

一金　　治療費

計金

內譯

內　　醫師講習手當

講習開催地名	受講指定人員	受講日數	手當額 日額單位ノ金額	同上合計金額	日額ニ依ラス一回分トシテノ給與金額	合計金額
			圓	圓	圓	圓

金 內 醫師講習旅費

種別	旅費明細							
	區分	員數	單位ノ金額	金額	區分	員數	單位ノ金額	金額
講習開催地名	鐵道賃		圓	圓	宿泊料		圓	圓
受講指定人員	船賃				日當			
受講日數	車馬賃				日額旅費			
	同上實費拂				合計金額			

金 內 檢診費

費目	氏名又ハ品目	日(月)給又ハ單價	雇入日(月)數又ハ數量	金額	所要區別
諸給		圓		圓	
醫師給料					
事務員給料					
看護婦給料					

小使給料								
人夫給料								
何々								
需用費								
備品費								
消耗品費								
藥品費								
何々								
雜費								
檢診場借上料								
何々								

金　治療費

内

費目	氏名又ハ品目	日(月)給又ハ單價	雇入日(月)數又ハ數量	金額	所用區別
諸給		圓		圓	
醫師給料					
看護婦給料					
何々					
需用費					
備品費					
消耗品費					
藥品費					
何々					
雜費					
何々					
何々					

右之通相違無之候也

年　月　日

郡（市）町（村）長　氏　名印
郡町村聯合トラホーム豫防組合長　氏　名印

知事宛

（第三號式）

大正　年度トラホーム豫防費收入金（補助金）（寄附金）調書

內

種別	金額	事由
收入金	圓	年月日　不要品何々賣却代
補助金		年月日　何々ヨリ補助
寄附金		年月日　市町村何某ヨリ何々ノ目的ニテ寄附
計		

右之通相違無之候也

年　月　日

郡（市）町（村）長　氏　名印
郡町村聯合トラホーム豫防組合長　氏　名印

知事宛

（第四號式）

大正　年自　月
至　月トラホーム患者表

病症別	初診月日	治癒月日	治療度數	住所	氏名	年齡

右之通相違無之候也

年　月　日

郡（市）町（村）長　氏　名　印
郡町村聯合トラホーム豫防組合長　氏　名　印

知事　宛

（第五號式）

勤務簿

（醫師）（事務員）（看護人）（小使）　何某

年（月）（日）手當額何程
年（月）（日）給何程

勤缺 / 月日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一
	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
月																															
月																															
月																															

備考　一　一人毎ニ各別ニ調製スヘシ
二　月日ノ欄ニハ當人認印シ上部欄外ニハ市町村ニ於テ執行スルモノハ市町村長又町村聯合トラホーム豫防組合ニ於テスルモノハ同組合長ニ於テ認印スルモノトス以下倣之
三　十五日以上雇傭スルモノハ本表ヲ用ヒ其ノ他ノ臨時雇傭ノ者ハ其ノ雇入月日解雇月日雇傭事由賃錢額被雇者ノ住所氏名ヲ適宜ノ樣式ニ依リ別ニ作製整理スヘシ

（第六號式）

需用品受拂簿

備品（藥品）（消耗品）ノ部

物品名	受入月日	摘要	高	受入	高	拂	高	殘	高	摘	要

備考　一　備品、藥品、消耗品トニ區別シ見出ヲ附スヘシ

●營業者其他トラホーム檢診成績表作成方ニ關スル件

（大正十三年九月三十日衛第四一八號通牒）

營業者其他トラホーム檢診成績ハ爾今別紙樣式ニ依リ報告相成度此段及通牒候也

營業者其他トラホーム檢診成績表

業態別	性別	檢診人員	診斷書提出人員	病症別				警察署
				重症	輕症	疑症	計	
鍼術	男							
	女							
灸術	男							
	女							
按摩術	男							
	女							
マッサージ術	男							
	女							

		柔道整腹術		鍼灸術		鍼灸按摩術		按摩マッサージ術		按摩マッサージ整腹		産婆看護婦		宿屋	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

下宿屋		木賃宿		料理屋		待合茶屋		飲食店		食肉販賣		牛乳營業	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

貸座敷		藝妓置屋		藝妓		娼妓		酌婦		仲居		雇女	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

理髪業		湯屋		劇場		寄席		遊技場		電車乘務員		自動車乘務員	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

人力車營業		乘合馬車營業		其他		合計	
男		男		男	女	男	女

第十四章　花柳病豫防

●花柳病豫防法

（昭和二年四月五日
法律第四十八號）

第一條　本法ニ於テ花柳病ト稱スルハ徽毒、淋病及軟性下疳ヲ謂フ

第二條　主務大臣ハ業態上花柳病傳播ノ虞アル者ヲ診療セシムル爲市又ハ特ニ必要ト認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シ診療所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設置スル診療所ニ於ケル診療ノ費用ノ負擔及徵收ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ前條ノ規定ニ依リ診療所ヲ設置スル市其ノ他ノ公共團體ニ對シ其ノ診療所ニ關シ市ノ一ヲ補助ス

第四條　主務大臣ハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立ノ診療所ヲ其ノ承諾ヲ得テ第二條第一項ノ規定ニ依リ設置スル診療所ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條第二項及前條ノ規定ヲ準用ス

第五條　傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レルコトヲ知リテ賣淫ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レルコトヲ知リ又ハ知ルヘクシテ賣淫ノ媒合又ハ容止ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テ傳染防止ニ付相當ノ方法ヲ講シタル者ハ其ノ刑ヲ減輕ス

第六條　醫師傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レル者ヲ診斷シタルトキハ傳染ノ危險及傳染防止ノ方法ヲ指示スヘシ

第七條　花柳病ニ關スル賣藥ハ其ノ容器又ハ被包ニ其ノ成分及分量、成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法ノ要旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ發賣スルコトヲ得

賣藥營業者前項ノ規定ニ違反シタルトキハ地方長官ハ其ノ發賣ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第八條　前條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

花柳病ニ關スル賣藥ニシテ本法公布前ヨリ發賣シ來レルモノニ關シテハ當分ノ間第七條ノ規定ヲ適用セス

第十五章　汚物掃除、下水

（明治三十三年三月七日法律第三十一號）

●汚物掃除法

第一條　市内ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第二條　市ハ本法其ノ他ノ法令ニ依リ別段ニ義務者アル場合ヲ除クノ外其ノ區域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第三條　市ハ義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ヲ負フ但シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條　市ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタル爲生スル收入ハ市ノ所得トス

第五條　地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ市ニ命スルコトヲ得

第六條　當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得

第七條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラストト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得ストト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　前條ハ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市稅ノ例ニ依リ其費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第九條　汚物ノ種類汚物掃除竝清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第十條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　地方長官ハ區町村、町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其ノ一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ

一部ヲ準用スルコトヲ得

汚物掃除法施行規則

（明治三十三年三月八日）
（内務省令第五號）

沿革　明治四三年四月内務省令第一三號、大正六年一〇月同第一一號改正

第一條　汚物掃除法ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥汚泥汚水及屎尿トス

第二條　市内ノ土地ノ占有者ハ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ
建物ノ所有者ハ其ノ建物ヲ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ
建物ナキ土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ

第三條　掃除義務者ハ覆蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル塵芥其ノ容器ニ蒐集スヘシ
汚泥ハ之ヲ適當ノ容器ニ蒐集スヘシ
土地ニ定著シタル塵芥溜ハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第四條　溝渠ノ汚水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄スヘシ
地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ拘ハラス別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ得
地方長官ハ汚水ノ性質ニ依リ公共溝渠ニ排泄セシムヘカラスト認ムルトキハ適當ノ施設ヲ爲サシムヘシ

第五條　市ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ塵芥ハ成可之ヲ焼却スヘシ
戸口稠密ナル地區ニ關シテハ市ハ毎日一回各戸ヨリ汚物ヲ搬出スヘシ

第六條　市ハ第四條ノ溝渠ノ汚水ヲ排泄スル爲必要ナル公共溝渠ニ害ヲ及ホスヘキ虞アル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ害ヲ豫防スル爲必要ナル施
公共溝渠ノ汚水ハ之ヲ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

第七條　公共溝渠ニ滑フタル土地ニ於テ公共溝渠ニ害ヲ及ホスヘキ虞アル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ害ヲ豫防スル爲必要ナル施
設ヲ爲スヘシ

第八條　市ハ公共便所ヲ築造修繕スヘシ

第九條　市ハ其ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除、掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其ノ汚物ノ處分ニ關シ方法順序ヲ定メ
地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視員ノ職務ハ左ノ如シ
一　汚物掃除法第二條及第三條ノ事項ニ關シ掃除人ヲ指揮監督ス
二　公共溝渠公共便所塵芥焼却場其ノ他掃除ニ關スル施設ヲ巡視ス
三　汚物掃除法第一條ニ依リ私人ノ履行スル掃除ノ實況及溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル私人ノ施設ヲ巡視ス
四　汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行ス

第十一條　市ハ掃除監視吏員ノ職務章程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　掃除監視吏員汚物掃除法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ルハ日出後日沒前ニ於テシ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ
携帶スヘシ

第十三條　掃除監視吏員汚物掃除法第七條ニ依リ戒告スルトキハ職務章程ニ別段ノ規程アル場合ノ外市長ノ指揮ヲ受クヘ
シ
戒告ハ附錄書式ニ依リ書面ヲ以テ義務者ノ家ニ送達スヘシ

第十四條　汚物掃除法第八條ニ依リ市ニ於テ同法第七條ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルトキハ實費ノ内譯ヲ附シタル令狀ヲ
發スヘシ
令狀ノ書式及交付ハ市稅ノ令狀ニ準スヘシ

第十五條　汚物ノ爲又ハ溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル施設ノ爲衞生上危害ヲ受クル者ハ掃除監視吏員ニ申告スルコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ掃除監視吏員ハ職務章程ニ定ムル期間ニ之ヲ臨檢スヘシ

第十六條　本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ掃除監視吏員ノ指定シタル期間ニ履行セサル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ

科料ニ處ス

第十七條　公共溝渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者又ハ屎尿ヲ注流シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾九錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十八條　下水道ヲ布設シタル地ニハ溝渠ニ關スル本則ノ規定ヲ施行セス

第十九條　公共道路ノ掃除ハ當分ノ內從前ノ成規ニ依ル但シ公共道路ヲ掃除シタル塵芥ニ關シテハ第三條第五條及第九條ヲ適用ス

第二十條　地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ第二條ノ義務ノ負擔區分ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條　地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及第五條ニ拘ハラス別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

汚物掃除法施行前廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ構造設備ヲ爲シタル塵芥溜ニシテ汚物掃除法施行ノ際現ニ存スルモノハ地方長官ニ於テ當分ノ內其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條　屎尿ニハ當分ノ內第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ市ヲシテ處分セシムヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ處分方法ヲ具シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條　地方長官ハ汚物掃除法施行後一箇年以內ヲ限リ公共便所ニ關スル市ノ義務ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條　地方長官ハ本則ニ定ムルモノノ外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其ノ他清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　東京市及八王寺市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

附　錄

●汚物掃除法施行細則

沿革　大正一五年七月縣令第一〇五號改正

第一條　土地ノ占有者ハ左ノ各號ニ依リ其ノ地域內ノ汚物ヲ掃除スヘシ

一　塵芥ハ常ニ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ

二　溝渠ハ時々浚渫シ汚水、汚泥ヲ溜滯セシムヘカラス

三　便所ノ屎尿ハ充溢セサル前之ヲ汲取リ其ノ周圍ヲ清潔ニスヘシ

四　掃除シタル塵芥及汚泥ハ直ニ塵芥容器、汚泥容器ニ蒐集スヘシ

一　履行スヘキ事項　戒告書

（記載例）

（憲所流ヨリ公共溝渠ニ通スル小溝ノ處々破壞セル部分ヲ修繕スルコト）

（井戸流ノ板ノ腐朽セルヲ改築スルコト又ハ該流ヨリ溝渠迄ノ間ニ水路ナキヲ以テ溝渠ヲ築造スルコト）

（東側ノ縁ニ沿フテ設ケタル洗面所ノ下ノ吸込ミトナリタル場所ニ排水ノ適當ノ施設ヲ爲スコト）

一　履行スヘキ期限送達ノ日（又ハ時）ヨリ何日（又ハ何時間）以內

右汚物掃除法第七條ニ依リ戒告ス

年　月　日

氏　名　殿

年　月　日時送達

職　氏　名　㊞

（明治三十三年六月二十三日岐阜縣令第三十五號）

第二條 塵芥及汚泥ノ容器ハ汚物ノ漏泄セサル桶又ハ箱ヲ用ヒ且覆蓋ヲ設クヘシ
土地ノ狀況ニヨリ數人共用ノ塵芥容器、汚泥容器ヲ用フルコトヲ得

第三條 溝渠ハ石、煉瓦「コンクリート」又ハ釉藥ヲ施シタル陶磁器若ハ鐵管又ハ「モルタール」管ヲ以テ構造シ其ノ接合部ヲ鐵管ニ係ルモノハ金屬ノ接合劑ヲ用ヒ其ノ他ノモノハ「セメントモルタール」ヲ用フヘシ其ノ暗渠ニアラサルモノハ切石、鐵板「コンクリート」又ハ厚板等ヲ以テ覆蓋ヲ設クヘシ但公共溝渠ハ場所ノ模樣ニヨリ縣廳ノ認可ヲ得テ覆蓋ヲ設ケサルコトヲ得

第四條 土地ノ狀況ニヨリ汚水ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄シ難キトキハ所轄警察署ニ願出テ許可ヲ得テ一戸又ハ數戸共用ノ汚水溜ヲ設クルコトヲ得

汚水溜ハ溝渠ノ構造法ニ據リ汚水滲透ノ廣ナカラシメ且適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ檢査濟ノ上ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

汚水溜ノ構造落成シタルトキハ所轄警察署ニ届出テ檢査ヲ受クヘシ

第五條 塵芥運搬容器、汚泥運搬容器ハ堅牢ニシテ汚物ノ散逸滲漏セサル樣構造シ且適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ

第六條 塵茶溜及汚泥溜ハ人家及飲料井戸ヲ距ル三十間以上ノ地ニ設クヘシ但土地ノ狀況ニヨリ止ムヲ得サルモノハ其ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得

塵芥溜ニハ適當ノ外圍竝屋根ヲ設クヘシ

第七條 塵芥ニシテ燒却シ得ヘキモノハ塵芥溜若クハ其ノ附近ニ於テ燒却スヘシ但他ニ延燒ノ廣ナカラシムヘシ

第八條 市ニ於テ塵芥溜、汚泥溜ヲ設ケントスルトキハ其ノ位置及圖面ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
土地ノ占有者ニシテ第六條第一項但書ニ依リ塵芥汚泥溜ヲ設ケムトスルトキハ其ノ位置及圖面ヲ具シ警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 市ニ於テ各戸ヨリ搬出シタル汚物ヲ一時蒐集スル爲メ塵芥假置場竝汚泥假置場ヲ設クルコトヲ得但假置場ノ塵芥及汚泥ハ遲滯ナク塵芥溜及汚泥溜ニ搬出スヘシ

塵芥假置場、汚泥假置場ハ人家ニ隔離シタル地ヲ擇ミ且汚物ノ散逸漏泄セサル裝置ヲナスヘシ

第十條 前條ニヨリ市ニ於テ塵芥假置場汚泥假置場ヲ設ケントスルトキハ其ノ位置及構造方法竝圖面ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 公共便所ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 外圍ハ石、煉瓦、鐵筋「コンクリート」若ハ板（ペンキ）ヲ以テ塗リタルモノ）ヲ用ヒ適宜ノ屋根ヲ設ケ入口ニ面スル場所ニハ外部ヨリ見透ササル樣裝置スヘシ

二 敷地ハ地盤ヨリ三寸以上高クシテ雨水ノ流入ヲ防クヘシ

三 屎尿壺ハ內外ニ釉藥ヲ施シタル甎ヲ地中ニ埋メ若ハ厚サ三寸以上ノ「コンクリート」ヲ以テ適當ノ勾配ヲ付シ漏斗狀ニ構造スヘシ若シ切石又ハ煉瓦ヲ以テ築造スルトキハ其ノ接合部ニ「セメントモルタール」ヲ施スヘシ

四 椅內ノ地盤ハ切石又ハ煉瓦ヲ敷キ若ハ厚サ三寸以上ノ「コンクリート」ヲ以テ構造シ洗滌ハ便ナラシメ切石又ハ煉瓦ヲ用ヒルトキハ其ノ接合部ニ「セメントモルタール」ヲ施スヘシ

五 大便所ハ高サ七尺以上間口三尺以上奥行三尺以上小便所ハ高サ六尺以上間口三尺以上奥行二尺五寸以上タルヘシ

第十二條 前條ニ依リ公共便所ヲ築造スルトキハ構造仕樣書及圖面ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ノ掃除義務者ハ其ノ汚物ヲ市設ノ塵芥溜及汚泥溜ニ搬出スヘシ但地域內ニ於テ燒却シ若ハ肥料用トシテ溜置キ又ハ埋却セントスルモノハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

一 郡村ニ接近シタル地域

二 二千坪以上ノ面積ヲ有スル地域

三 三百坪以上ノ面積ヲ有スル製造場及畜舍所在ノ構內

第十四條 前條第一號ノ掃除義務者ハ所轄警察署ノ認可ヲ得テ明治三十三年三月內務省令第五號汚物掃除法施行規則第三

條ノ規定ニ依ラス塵芥溜又ハ塵芥溜ヲ設クルコトヲ得

第十五條　第十三條第一號ノ地區ハ別ニ之ヲ指定ス

第十六條　本則第二條第一項第三條第一項第四條第五條第八項第十三條第一項ノ規定ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十六條ノ二　汚物掃除法施行細則及本則ニ依リ知事又ハ縣廳ニ提出スヘキ書類ハ警察署ヲ經由スヘシ

附　則

第十七條　從前許可ノ公共便所ハ明治三十三年十二月三十一日迄ニ撤去スヘシ

第十八條　建物ノ所有者又ハ土地ノ所有者ノ地域内ニ於ケル溝渠ニシテ本則ノ規定ニ適合セサルモノハ明治三十五年六月三十日迄ニ改造スヘシ

第十九條　公共溝渠ニシテ其ノ構造本則ノ規定ニ適合セサルモノハ明治三十七年十二月三十一日迄ニ改造スヘシ若シ期限内ニ改造シ能ハサル箇所アルトキハ事由ヲ詳記シ更ニ期限ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

●汚物掃除法施行細則取扱心得

（大正十五年七月六日）
（指示第三號）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

第一條　細則第四條又ハ第八條第二項ニ依リ汚水溜、塵汚溜、芥泥溜ノ設置ヲ願出タル者アリタルトキハ實地踏査ノ上事情止ムヲ得サルモノノ外ハ許可ヲ與フヘカラス

許可ハ書面ヲ以テスヘシ但シ其ノ修繕變更等ノ場合ハ許可證ヲ交付スルニ及ハス

第二條　細則第十三條但書及第十四條ニ依リ認可ヲ請フモノアルトキハ實地踏査ノ上人家及飲料水ハ相當ノ距離ヲ有シ衞生上無害ノ土地ニ限リ認可ヲ與フヘシ

汚水溜ノ構造落成シタル旨届出タルトキハ實地踏査シ安全ト認メタルモノハ檢査ノ證ヲ付與スヘシ

認可ハ書面ヲ以テスヘシ

第二條ノ二　規則第九條第十一條細則第三條第二項第八條第一項第十條第十二條ニ依ル申請書類ヲ受理シタルトキハ許否ニ關スル意見ヲ附シ速ニ進達スヘシ

第三條　細則第十三條ニ該當スル地區及土地ハ市役所又ハ町役場ニ協議ノ上調査報告スヘシ

第四條　第一條ノ許可證又ハ檢査證ヲ與ヘタルトキ若ハ第三條ノ認可ヲ與ヘタルトキハ即日市役所又ハ町役場ニ通知スヘシ

●掃除監視吏員組織權限

（明治三十三年三月九日）
（内務省令第六號）

沿革　大正六年一〇月内務省令第一二號改正

第一條　汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ハ左ノ如シ

一　掃除監督長　二　掃除監督　三　掃除巡視

第二條　掃除監督長ハ市參事會又ハ市長ノ命ヲ承ケ汚物掃除ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ吏員ヲ指揮監督ス

第三條　掃除監督ハ掃除監督長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ掃除巡視ヲ指揮監督ス

第四條　掃除巡視ハ掃除監督ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第五條　掃除監督長ハ一人トス

掃除監督及掃除巡視ノ定員ハ土地ノ狀況ヲ斟酌シ地方長官之ヲ定ム

第六條　掃除監督長掃除監督及掃除巡視ノ俸給額ハ地方長官之ヲ定ム

第七條　掃除巡視採用規則ハ巡査採用規則ニ準シ地方長官之ヲ定ム

第八條　掃除巡視服務規律ハ巡査ノ服務ニ關スル規律ニ準シ地方長官之ヲ定ム

第九條　東京市及八王子市ニ在リテハ地方長官ニ屬スル職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

●掃除監視吏員服制

沿革 大正七年三月内務省訓令第一號、一三年七月同第一一號改正

掃除監視吏員ノ服制ヲ定ムルトキハ左ニ準據セシムヘシ

掃除監督長	帽	地質	黒又ハ濃紺絨
		製式	鍔形ニシテ黒色ノ眼庇及頤紐ヲ附シ頤紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ各一箇ノ鈕釦ヲ以テ留ムル形狀圖ノ如シ
		徽章	前章ハ市ノ徽章ヲ附ス帽ノ周圍ニ幅五分ノ黒蛇腹組綸二條ヲ纏フ各線ノ間一分五厘形狀圖ノ如シ
		鈕釦	金色圓形艶消ヲ附ス
	上衣	地質	黒又ハ濃紺絨
		製式	長「ジヤケツト」製形狀圖ノ如シ
		袖章	幅五分ノ黒蛇腹組綸三條ヲ附ス各線ノ間一分五厘形狀圖ノ如シ
掃除監督	帽	地質	同上
		製式	同上
		徽章	同帽ノ周圍ニ幅一寸三分ノ黒蛇腹組綸一條ヲ纏フ形狀圖ノ如シ
		鈕釦	同上
	上衣	地質	同上
		製式	同上
		袖章	同上幅五分ノ黒蛇腹組綸二條ヲ附ス各線ノ間一分五厘形狀圖ノ如シ
掃除巡視	帽	地質	同上
		製式	同上
		徽章	同帽ノ周圍ニ幅六分ノ黒蛇腹組綸一條ヲ纏フ形狀圖ノ如シ
		鈕釦	同上
	上衣	地質	同上
		製式	同上
		袖章	同上幅五分ノ黒蛇腹組綸一條ヲ附ス形狀圖ノ如シ

（明治三十三年三月三十一日内務省訓令第三號）

廳府縣

袴		地質	同上	同上	
		製式	同上	同上	
		鈕釦	胸五箇一行金色圓形艶消ヲ附ス	同上	
外套	甲種	地質	黒又ハ濃紺絨	同上	
		製式	折襞胸二重後面ノ裾ヲ割キ又後面腰面ニ帶緒ヲ附シ裏黒色左右腰部ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	
		袖章	金色圓形艶消二箇ヲ附ス	同上	
		鈕釦	胸六箇二行後面腰部ニ八箇ヲ附シ金色圓形艶消トス形狀圖ノ如シ	同上	
		雨覆	黒又ハ濃紺絨形狀圖ノ如シ	同上	
	乙種	地質	甲種ニ同シ	同上	
		製式	通常「マント」形長サ手甲隱ルル程度形狀圖ノ如シ	同上	
		雨覆	地質ハ黒又ハ濃紺絨ヲ用フ形狀圖ノ如シ	同上	
夏服	上衣	地質ハ黒又ハ濃紺「セル」ヲ用ヒ製式絨服ニ同シ		同上	
	袴	地質ハ黒又ハ濃紺「セル」ヲ用フ		同上	

一土地ノ狀況ニ依リ特殊ノ製帽ヲ必要ト認ムル場合ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ定ム（服制圖略ス）

●掃除巡視採用規則

（明治三十三年三月三十一日告示第八十八號）

第一條　掃除巡視ハ試驗ノ上採用スヘキモノトス但左ニ記載シタルモノハ此限リニアラス

一　判任官以上ノ職ニ在リタル者及文官任用令第三條ニ依リ判任官タルノ資格ヲ有スル者

二　巡査看守ノ職ニ在リタル者

三　陸軍兵卒ニシテ現役滿期トナリ又ハ戰時召集ヲ解除セラレ下士適任證書ヲ有スル者

四　府縣ノ雇員ニシテ一箇年以上勤續シ衞生事務ニ從事シタル者

五　〔郡役所雇員又ハ〕市區役所町村役場書記其ノ他附屬員以上ニシテ一箇年以上衞生事務ニ從事シタル者

第二條　掃除巡視ハ品行方正、體力強健年齡二十一年以上四十五年未滿ニシテ左ノ諸項ニ抵觸セサル者タルヘシ

一　重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ付セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサル者但シ舊法ニ依リ施體ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ本文ノ標衡ニ準ス

二　賭博犯處分規則ニ據リ懲罰ニ處セラレタル者

三　文官懲戒令、官吏懲戒例、巡査看守懲罰令ニ據リ免職セラレ又ハ市町村吏員ニシテ懲戒處分ニ據リ解職セラレ二箇年ヲ經過セサル者

四　身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ從前身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

五　酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者

第三條　掃除巡視ノ試驗ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一　衞生ニ關スル法律規則ノ大要ニ通スル者

二　本邦歷史及地理ノ大要ニ通スル者

三　假名交リノ論文及普通往復文ヲ作リ得ル者

四　加減乘除ヲ爲シ得ル者

五　普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者

附　則

第四條　本則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

●汚物掃除監視吏員定員及俸給額

（明治三十三年三月三十一日岐阜縣令第二十八號）

沿革　大正元年七月縣令第二號、七年三月同第一〇號改正

明治三十三年三月內務省令第六號第五條第六條ニ基キ岐阜市大垣市ニ汚物掃除法第五條及同年三月法律第三十一號汚物掃除法第五條及同年三月內務省令第六號第五條第六條ニ基キ岐阜市大垣市ニ汚物掃除監督吏員ヲ設置セシメ其ノ定員及俸給額ヲ左ノ通定ム

本令ハ來ル四月一日ヨリ施行ス

掃除監督長	一人	月俸參拾五圓以上
掃除監督	一人	同　貳拾圓以上參拾五圓以下
掃除巡視	五人	同　拾貳圓以上貳拾圓以下

（明治三十三年三月三十一日岐阜縣訓令第三十四號）

岐阜市役所

第一條 掃除巡視ハ汚物掃除法其ノ他衛生ニ關スル法規ヲ服膺シ常ニ市街清潔ノ保持ニ注意スヘシ
第二條 掃除巡視ハ監督吏員ノ指揮命令ヲ遵奉シ職務ニ勤勉スヘシ
第三條 掃除巡視ハ清廉公平ヲ旨トシ苟モ偏頗貪汚ノ所爲アルヘカラス
第四條 掃除巡視職務ニ服スルトキハ制服ヲ著シ嚴正ニ執行スルヲ要ス然レトモ人ニ接スルニハ懇切叮嚀ヲ旨トスヘシ
第五條 掃除巡視ハ監督吏員ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ職務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルモ總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
第六條 掃除巡視ハ職務上機密ヲ漏洩スヘカラス
第七條 本規則ニ揭クルノ外服務上ニ關シテハ一般市吏員ノ規律ニ從フヘシ

●汚物掃除法施行ニ關スル件

（明治三十三年六月二十三日岐阜縣訓令第六十二號）

岐阜市役所・

掃除監視吏員ハ他ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得ス但シ監督長ニ限リ專任者ヲ置ク能ハサル事情アルトキハ當分ノ内認可ヲ得テ助役ニ其事務ヲ處辨セシムルコトヲ得
掃除監督吏員ヲ採用シタルトキハ其氏名及俸給額ヲ三日以内ニ縣廳ニ報告スヘシ報告事項ニ異動アルトキ亦同シ
掃除監督吏員ノ制服ヲ定ムルトキハ其製式ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
掃除監督吏員ノ證票ヲ定ムルトキハ其雛形ヲ縣廳ニ報告スヘシ
市ニ於テ常雇掃除人夫ヲ置キ難キ事情アリテ特ニ掃除人夫ノ受負人ヲ定メタルトキハ其受負ノ方法及順序等ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
市ハ公共溝渠及私設溝渠ノ圖面ヲ調製スヘシ

●汚物掃除實施成績表ニ關スル件

（大正十五年七月一日岐阜縣訓令甲第八十六號）

市役所 町村役場

明治三十八年四月岐阜縣訓令第三十五號汚物掃除實施成績表ニ關スル件左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

汚物掃除實施成績表ニ關スル件

汚物掃除法ニ依リ前年中施行シタル汚物掃除ノ成績ヲ左表ニ依リ警察署ヲ經テ毎年一月三十一日迄ニ縣廳ニ報告スヘシ

大正何年中汚物掃除實施成績表

市町名	掃除監督吏員		掃除區類	塵芥假置場汚泥假置場數	塵芥汚泥容器數	運搬用荷車數	塵芥處分
	監督長	監督巡視					

一日平均塵芥汚泥搬出量	人夫賃金		市町直營受負別	經費		
	人夫延數	一人一日平均賃金		監視員	掃除費	其他

監視吏員ノ私人ニ與ヘタル注意件數	私人ニ戒告セシ件數	同上履行セシ件數	公共海渠			公共便所			
			築造	修繕	浚渫	總數	築造	修繕	廢止

●汚物掃除法準用地

（大正十五年五月五日　岐阜縣令第二十八號）

明治三十三年三月法律第三十一號汚物掃除法第十一條ニ依リ同法第五條ヲ除クノ外左ノ區域内ハ同法ノ全部ヲ準用ス但シ掃除監督吏員ノ職務ハ其ノ役場吏員ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

本令ハ大正十五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

汚物掃除法準用地

稻葉郡加納町
羽島郡笠松町、竹ヶ鼻町
武儀郡關町、美濃町
郡上郡八幡町
可兒郡御嵩町
土岐郡多治見町
惠那郡中津町、大井町、長島町
大野郡高山町、大名田町
吉城郡船津町、古川町

●清潔法施行順序

（明治三十八年三月三十日　岐阜縣訓令第十五號）

清潔法施行順序左ノ通相定ム

但當該吏員ノ認定ニ依リ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

〔郡〕市役所　警察署〔警察分署〕　町村役場

清潔法施行順序

一　傳染病アリタルト否トヲ問ハス家屋内ハ戸障子ヲ取外ツシ疊敷物等ハ日光ニ曝露シ床板ヲ取外ツシ塵芥ヲ掃除シ必要ナル部分ニハ消毒藥ヲ散布スルコト

二　飲用井戸ヲ浚渫シ井戸側、井戸流、臺所流等ノ破損シ居ルモノハ速ニ修理ヲ加ヘシムルコト

三　飲用水、使用水等ノ近傍ハ特ニ注意ヲ加ヘ汚水ノ滲透、汚物混入等ノ虞ナカラシムルコト

四　溝渠、下水、汚水溜等ハ浚渫掃除ヲ爲シ其ノ疏通ヲ良クシ若シ破損ノ箇所アルトキハ修繕ヲ加ヘシムルコト

五　溝渠、下水等ノ必要アリテ未タ之カ設ケナキ場所ハ速ニ之ヲ設ケシムルコト

●秋季清潔法施行成績報告ノ件

（明治三十九年十月十二日　岐阜縣訓令第六十七號）

沿革　大正一五年六月訓令甲第三二號改正

〔郡役所〕　警察署〔警察分署〕　市役所

傳染病豫防ノ爲メ明治三十八年三月岐阜縣訓令第十五號清潔法施行順序ニ基キ秋季清潔法ヲ施行シ其ノ成績ハ左表ニ據リ警察官署ヨリ報告スヘシ

警察署長及市長ハ施行期日ヲ定メ著手前報告スヘシ

市町村名	著手終了月日	施行戸數 普通清潔法	施行戸數 消毒的清潔法	床下マテ掃除セシメタル戸數	井戸浚ヲ爲サシメタル戸數	井戸側、流場、下水、汚物溜又ハ便所ノ改造若クハ修繕ヲ爲サシメタル戸數	再施行セシメタル戸數

●屎尿汲取運搬ニ關スル件

（明治四十四年三月四日　岐阜縣令第十三號）

沿革　大正七年三月縣令第九號改正

市街地ニ於テ屎尿ヲ汲取リ若ハ運搬セムトスルトキハ樽製ノ容器ヲ用ヒ左ノ時間内ニ於テ之ヲ爲スヘシ

一　自十月一日至三月三十一日間ハ日沒後ヨリ翌日午前十時前

一　自四月一日至九月三十日間ハ日沒後ヨリ翌日午前九時前

本令ニ違反シタル者ハ十日未滿ノ拘留又ハ拾圓未滿ノ科料ニ處ス

本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幇助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

本令ハ岐阜市及大垣市ニ適用ス

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ施行ス

但シ本令ニ規定シタル樽製容器ハ來ル明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●下水道法

（明治三十三年三月七日　法律第三十二號）

第一條　本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル措水管其ノ他ノ排水線路及其ノ附屬裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築及增築ヲ包含ス

第二條　市ニ於テ下水道ヲ築造セムトスルトキハ其ノ設計工費ノ收支豫算及起工竝竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ增築工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條　下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若ハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疎通スル爲必要ナル施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ土地ノ所有者例用者又ハ占有者ヨリ徵收スルコトヲ得

第四條　前條ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疏通スル爲必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムル爲設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條　下水道ヲ築造シ若ハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ若ハ之ヲ管理スル爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之カ爲他人ノ受ケタル損害ニ對シ償金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條　當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條　下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市稅ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第十條　市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其ノ下水道ヲ築造スルコトヲ得

第十一條　内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得

附　則

第十二條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

第十四條　本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

●下水道法施行規則

（明治三十四年七月十日内務省令第二十一號）

沿革　大正六年一〇月内務省令第一三號改正

第一條　土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ左ノ區分ニ依リ下水道法第三條ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ但シ本則第二條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一　建物アル土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其ノ建物ノ所有者

一　建物ナキ土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其ノ土地ノ所有者

三　建物ノ有無ニ拘ハラス之カ掃除及浚渫ハ土地ノ占有者

第二條　市ハ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ヲ築造シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ハ土地ノ狀況ニ依リ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道以外ニ屬スル部分ヲ築造シ又ハ之ヲ管理スルコトヲ得

第三條　市ハ下水道ノ改築又ハ增築工事ニシテ工費壹萬圓未滿ノモノニ關シテハ下水道法第二條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第四條　當該吏員下水道法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ル場合ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條　下水道法第八條第二項ノ戒告及第九條ノ費用徵收ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條　下水道ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第四條第三項及第七條ノ規程ヲ準用ス

下水道及下水道法第三條ノ施設ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七條　東京市及八王寺市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

●下水道築造認可申請方

（明治三十四年七月十日内務省訓令第十一號）

下水道法第二條ニ依リ下水道築造ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ左ノ規定ニ從ヒ圖面及書類ヲ調製添付セシムヘシ

第一條　申請書ニ添付スヘキ圖面及書類ハ左ノ如シ

一　實測平面圖縮尺二十五百分一以上

二　實測縱斷面圖縮尺長二千五百分一以上高百分一以上

三　排水管及排水渠ノ斷面圖縮尺五十分一以上

四　人孔、燈孔、通風器、防臭瓣裝置、排水喞筒、沈澱池、濾過池ノ構造ニ關スル圖面其ノ他必要ナル細分圖縮尺五十分一以上

五　一位代價表

六　工費計算書

七　計畫說明書

八　下水道管理ニ關スル規程

九　歳入出豫算書

十　起工及竣工年月日

第二條　實測平面圖ニハ市町村界、市町村名、街路、河川、視形線其ノ他地形ヲ顯ハスニ必要ナルモノ、排水區劃、沈澱池、濾過池、排出地、排水管、排水渠、人孔、燈孔等ヲ詳記スヘシ但シ排水管排水渠ノ管徑幅員ノ異ナルモノハ適宜ノ符號ヲ以テ區別スヘシ

第三條　實測縱斷面圖ニハ計畫線ノ高低、排水管排水渠ノ勾配、水平距離、河川ノ水位、海面ノ干滿潮面等總テ必要ナルモノヲ詳記スヘシ

第四條　人孔、燈孔等ノ構造圖ハ平面、斷面其ノ他構造ヲ顯ハスニ必要ナルモノヲ調製スヘシ

第五條　一位代價表ニハ切取、埋立、石垣、「コンクリート」、(モルタール)等各種共其ノ一位トナスヘキモノヲ選ミ一位ニ付テ必要ナル材料、人夫等ノ員數及代價賃金ヲ算シ摘要欄ヲ設ケ單價ノ基ク理由ヲ詳記スヘシ

第六條　工費計算書ニハ各種工事共各部分毎ニ計算ヲ記スヘシ

第七條　計畫說明書ニハ下水道築造ノ必要ナル理由、地形(接壤地ヲモ含ム)地質、排水スヘキ地域及各排水區劃ノ面積、其ノ地域及各區劃ノ現在人口及將來增殖スヘキ豫定人口、雨水又汚水ノ量、排除方法、幹線撰定ノ理由、排水管及排水渠ノ斷面計算、洗滌及通風ノ裝置、汚水最後ノ處分法、河川ニ放流スルトキハ下流飲用者ノ有無其ノ他苟クモ設計ニ關スルモノハ其ノ算式及事項ヲ詳記スヘシ

第八條　下水道管理ニ關スル規程ニハ下水道ノ修繕、拂除及下水道又ハ市ノ義務ニ屬スル下水道法第三條ノ施設ト土地ノ所有者使用者ノ義務ニ屬スル施設トノ連結等ニ關スル必要ノ事項ヲ規定スヘシ

第九條　圖面ハ總テ蠟布ヲ用ヒ計畫線路、構造等ヲ識別スルニ容易ナラシムル爲メ彩色ヲ施シ設計者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第十六章　飲食物

●飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件（明治三十三年二月二十四日法律第十五號）

第一條　販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若クハ營業上ニ使用スル飲食器、割烹具及其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ法令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ於テ其ノ製造、採取、販賣、授與若クハ使用ヲ禁止シ又ハ其ノ營業ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ物品ノ所有者若クハ所持者ヲシテ其ノ物品ヲ廢棄セシメ又ハ行政廳ニ於テ直接ニ之ヲ廢棄シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者若クハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二條　行政廳ハ吏員ヲシテ前條ノ物品ヲ檢査セシメ試驗ノ爲必要ナル分量ニ限リ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ吏員ヲシテ普通營業時間又ハ營業ノ爲開カルル間ニ限リ物品ヲ製造シ採取シ陳列シ貯藏シ若クハ携帶スル場所ニ立入ラシムルコトヲ得

第三條　本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏ノ命ヲ受ケテ指定ノ期間內ニ之ヲ履行セサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ノ執行ニ關シ官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ニ抗拒シタル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條　官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十四條ノ例ニ照シテ處斷ス

附　則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●飲食其他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件

（明治三十三年三月二十七日　内務省令第十號）

第一條　警視總監北海道廳長官府縣知事（東京府知事ヲ除ク以下之ニ倣フ）ハ法令ニ明文アル場合ニ於テ營業者ニ對シ明治三十三年二月法律第十五號第二條ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ營業者ニ證票ヲ交付スル件ニ依リ行政廳ニ屬スル職權ヲ行フ

前項ノ職權ハ其ノ輕易ナルモノニ限リ廳府縣令ヲ以テ警察官署ニ委任スルコトヲ得

第二條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ官吏又ハ衛生技術員ヲシテ明治三十三年二月法律第十五號ノ職權ヲ行ハシムルトキハ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帶セシムヘシ

證票ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ

二寸二分

表

飲食物監視員之證

裏

廳府縣名　廳府縣印

第三條　官吏又ハ衛生技術員ハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ營業者ニ證票ヲ交付スヘシ若シ營業者ノ求メアルトキハ事實ノ許ササル場合ヲ除ク外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交付スヘシ

●飲食物其ノ他物品取締ニ關スル職權ノ件

（明治三十七年十月二十六日　岐阜縣令第三十七號）

明治三十三年（二月）法律第十五號飲食物其ノ他物品取締ニ關スル職權行使委任ノ次第第一條第二項ニ依リ警察官署ヲシテ之ヲ施行セシム

一　物品ヲ檢査スルコト

二　試驗ノ爲必要ナル分量ニ限リ物品ヲ收去スルコト

三　小賣店行商又ハ配達中ニアル價格拾圓以下ノ物品ノ販賣授與使用ヲ禁シ又ハ其ノ物品ヲ廢棄セシメ若ハ直接之ヲ廢棄スルコト

四　衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依ル處置ヲ許可スルコト

●飲食物其ノ他物品取締ニ關スル取扱方ノ件

（明治三十八年六月一日　指示第一八號）

沿革　明治四〇年六月指示第一〇號改正

昨年十月本縣訓令第三十七號ヲ以テ飲食物其他ノ物品取締ニ關スル職權行使委任ノ次第モ有之候處尚其ノ取扱ニ就テハ左記ノ通心得ラルヘシ

一　警察官署ニ於テ危害ヲ生スルノ虞アル物品ノ販賣、授與若クハ使用ヲ禁止シタルトキ又ハ廢棄シ廢棄セシメタルトキ若ハ物品ヲ試驗ニ供スル爲メ收去シタルトキハ左表ニ據リ前月分ヲ翌月十日迄ニ當部ニ報告スヘシ

二　物品ノ販賣、授與若クハ使用ヲ禁止シタルトキハ其ノ狀況ニ依リ廢棄セシムルカ又ハ封印ヲ施シ販賣授與、使用ヲ防止スルノ方法ヲ講スヘシ

三　廢棄ヲ命シタル物品ニシテ衛生上危害ヲ生スル虞ナキ方法ニ據リ處置センコトヲ請フモノハ其ノ有害ト認メタル部

分ヲ除去スルカ又ハ密カニ販賣、授與若クハ使用ヲ爲スノ虞ナキモノト認メ得ヘキトキニ限リ之ヲ許スヘシ

四 收去シタル物品ニシテ試驗不能ニ屬スルモノハ現品ヲ當部ヘ廻送スヘシ

五 前各項ノ外販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若ハ營業上ニ使用スル飲食器具割烹具其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリ其ノ製造、採取ヲ禁止又ハ其ノ營業ヲ禁停スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ旨當部ヘ報告スヘシ

左表

（一）物品收去處分結果表

明治　年　月報　何々警察（分）署

種別	物品名	試驗ノ目的	收去試驗 有害 件數	收去試驗 有害 數量	收去試驗 無害 件數	收去試驗 無害 數量	收去試驗 計 件數	收去試驗 計 數量	有害品處分別 (一)製造販賣授與使用ヲ禁停止シタルモノ 件數	數量	(二)廢棄ヲ命シタルモノ 件數	數量	(三)衛生上危害ナキ方法ニヨリ措置シタル者 件數	數量	(四)處分ヲナササルモノ 件數	營業禁停止ノ件數 禁止	停止	告發シタル件數 有罪	無罪又ハ不起訴

備考

記載例

一 種別ハ乳及乳製品類、氷雪類、清涼飲料水類、酒類、菓子類、罐詰類、獸肉類、其他ノ飲食物類、飲食物用器具類、玩具類、化粧品類、着色料類、防腐劑類、雜類ニ分ケ記入スヘシ

一 物品名ハ假令ヘハ乳及乳製品類ニ於テハ牛乳（全乳、脫脂乳）山羊乳、煉乳、粉乳等氷雪類ニ於テハ天然氷、人造氷雪ノ如ク成ルヘク細別シテ記入スヘシ（但シ品名ヲ現ハスニハ方言ヲ以テスル場合ニハ一般ニ通スヘキ註釋ヲ記入スヘシ）又飲食物用器具ノ如キ同一品名ニシテ其ノ質ヲ異ニスルモノニ於テハ其ノ物質名（假令ヘハ銅、鐵、陶磁土等ニ區別シ及琺瑯引鍍錫等ノ別）ヲ記入スヘシ

一 試驗ノ目的ハ人工甘味質含有、防腐劑使用、有害性着色料使用、飲食用ノ適否等各其ノ試驗ヲ行ヒタル目的ヲ記入スヘシ又同一物品ニシテ試驗ノ目的ヲ異ニシタル場合ハ各其目的毎ニ一項ヲ設クヘシ

一 處分別ノ欄（一）ニハ飲食物又ハ飲食物用器具等ニシテ有害ト認メ其ノ製造、販賣、授與、使用ヲ禁止又ハ停止シタルモノヲ記入スルモノトス但禁停止ノ後其ノ物品ノ廢棄又ハ衛生上危害ナキ方法ニ據リ措置シタルモノノ數ハ此項ニ記入ヲ要セス

一 處分別ノ欄（二）ニハ飲食物及飲食物用器具ノ廢棄ヲ命シタルモノノ數ヲ記入スルモノトス

一 處分別ノ欄（三）ニハ衛生上危害ナキ方法ニ依リ措置シタル飲食物及飲食物用器具ノ數ヲ記入スルモノトス

一 處分別ノ欄（四）ニハ試驗ノ結果有害ナリト確定シタルモ其ノ確定時ニ物品現存セサル爲メ處分シ能ワサルカ又ハ他ノ事故ニ依リテ廢棄ヲ要セストナシタルモノノ數ヲ記入スルモノトス

一 處分欄內ノ數量ハ其ノ單位ヲ一定スル爲メ氷、雪、肉類ハ斤ヲ乳、酒、醬油、酢類ハ合ヲ其他ノ液体ハ瓶數ヲ其他ノ物品ハ個數ヲ記入スルモノトス若シ特別ノ單位ヲ以テ表章スル場合ニ於テハ其ノ單位ヲ記入シ成ルヘク計算シ易キ樣注意スヘシ又斤量ニ於テハ百六十匁一斤ヲ用ヒサル場合及瓶數ハ容量ヲ分リ易キ樣備考ニ揭記スヘシ

一 本表ニハ當部技術員ノ行ヒタルモノ及技術員ト同行シテ行ヒタルモノヲ記入セサルコト

一 有害品處分別中（一）ハ製造ノ禁停止及營業ノ禁停止ハ警察官署ノ權限ニ屬セサルヲ以テ取扱心得第五ニ依リ報告ノ結果ヲ得テ記入スルコト

一 收去シタル物品ニシテ試驗不能ノ爲メ第四部ヘ回送シタル分ハ其結果ノ通知ヲ朱書スルコト

●飲食物用器具取締規則

（明治三十三年十二月十七日　内務省令第五十號）

沿革　明治三九年六月內令第一一號、四二年一二月第二四號改正

第一條　本則ニ於テ飲食物用器具ト稱スルハ飲食器、割烹具其ノ他飲食物ノ調製器、容器、貯藏器又ハ量器ヲ謂フ

第二條　營業者ハ飲食物用器具ヲ鉛又ハ百分中鉛十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕スルコトヲ得ス

第三條　營業者ハ飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ヲ百分中鉛二十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ鑞著シ又ハ百分中鉛五分以上ヲ含ム錫合金ヲ以テ鍍布スルコトヲ得ス

鏨詰用ノ鑞ニ在テハ營業者ハ外部ノ鑞著及鑞受ノ鑞著ニ百分中鉛五十分以上ヲ含ム合金ヲ使用スルコトヲ得ス

第四條　營業者ハ琺瑯又ハ釉藥ヲ施シタル飲食物用器具ニシテ之ニ百分中醋酸四分ヲ含ム水ヲ容レ三十分時間煮沸スルニ其ノ液中ニ砒素又ハ鉛ヲ溶出スルモノヲ製造スルコトヲ得ス修繕ニ關シテ亦同シ

第五條　營業者ハ哺乳器具ヲ鉛又ハ亞鉛ヲ含ム譯謨ヲ以テ製造スルコトヲ得ス

第五條ノ二　營業者ハ其ノ製造又ハ輸入スル金屬性飲食物用器具ニ極印其ノ他容易ニ剝落セサル方法ヲ以テ自己ノ製造又ハ輸入ニ係ルコトヲ證スルニ足ルヘキ商號其ノ他ノ符號ヲ附スヘシ

輸入業者ニ在リテハ當分ノ內自己ノ輸入ニ係ルコトヲ證スルニ足ルヘキ商號其ノ他ノ符號ヲ記載シタル票紙ヲ貼付シテ前項ノ符號ニ代ルヘキコトヲ得

第六條　第二條乃至第五條ニ違背シテ製造若ハ修繕シタル飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏若ハ陳列シ又ハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第五條ノ二ニ定ムル符號ナキ金屬性飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏若ハ陳列スルコトヲ得ス

第七條　銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕シタル飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ニシテ鍍金屬ノ剝脫シタルモノ又ハ固有ノ光澤ヲ有セサルモノハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第八條　地方長官ハ第二條乃至第五條ニ違背シテ製造又ハ修繕シタル飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物又ハ第七條ノ飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第九條　地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年二月法律第二十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十條　第二條乃至第七條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附　則

第十二條　本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●飲食物防腐劑取締規則

（明治三十六年九月二十八日　內務省令第十號）

沿革　明治三七年一二月內務省令第一六號、三九年六月同第一三號、大正四年一〇月同第一五號改正

第一條　本則ニ於テ防腐劑ト稱スルハ左ニ揭クル物質其ノ化合物及之ヲ含有スルモノヲ謂フ

安息香酸、硼酸、「クロール」酸、「フルオール」水素、「フオルムアルデヒツド」、昇汞、亞硫酸、次亞硫酸「サリチール」

酸、「ナモール」、「ナフトール」、「レゾルチン」、「ヒノゾール」、蟻酸、亞硝酸

第二條　販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ製造又ハ貯藏ニ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

防腐劑ヲ使用シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第三條　第一條ニ揭クルモノハ飲食物ノ防腐用ト稱シテ販賣シ又ハ其ノ目的ヲ以テ製造シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第四條　第二條第三條ノ物品ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年二法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第五條　地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年二法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第六條　第二條第三條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附　則

第八條　本則ハ明治三十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條　左ノ各號ノ場合ニハ本則施行ノ日ヨリ七箇年間本則ノ規定ヲ適用セス

一　清酒ノ製造又ハ貯藏ノ爲別ニ定ムル試驗法ニ適合スル限度マテ「サリチール」酸ヲ使用スルトキ

二　魚介獸肉ニ硼酸又ハ其ノ鹽類ヲ使用スルトキ

三　魚介ノ貯藏又ハ運搬ノ爲「サリチール」酸又ハ其ノ化合物ヲ使用スルトキ

四　前各號ニ依リ防腐劑ヲ使用シタル清酒、魚介若ハ獸肉ヲ販賣シ又ハ陳列シ若ハ貯藏スルトキ

硼酸、硼酸鹽類及「サリチール」酸ニ限リ前項ノ期間第三條ヲ適用セス

第十條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●醬油防腐劑取締ニ關スル件

（大正十四年五月十五日衛第三六四六號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

標記ニ關シ內務省衛生局長ヨリ通知有之候條此段及通牒候也

（新潟縣知事ヨリ衛生局長宛）

左　記

內桂酸ナトリウム配合セル醬油防腐劑賣買許否ニ關シ廣島縣照會ニ對シ大正十年六月衛廣第七七九號ヲ以テ御回答ノ次第モ有之當業者ニ對シ之カ使用セシメサル樣取締居候處今回縣下中蒲原郡小須戶町井須合名會社ニ於テ醬油一石六斗ニ左記該當製劑ヲ混入發賣セルヲ發見シ直チニ混入ヲ差止候得共飲食物防腐劑取締規則第一條規定ノ品目ニ該當セサルタメ混入醬油ノ處分ニ關シ聊カ疑義ヲ生シ候條何分ノ御指示相仰度此段及照會候也

記

名稱モールダン

京都市下京區本町通リ十五丁目東福寺北門內三一　化學研究所製造

大阪市西區靱上通リ二丁目　今野商店發賣

仝上回答

標記ノ件ニ關シ八月廿二日衛發第六六一九號ヲ以テ御照會ノ趣了承右現品ニ付テハ現在處分スヘキ法規無之ノミナラス防腐劑取締規則トノ關係モ有之之カ販賣ノ禁止ハ穩當ナラサル嫌有之候條本件取締ニ關シ追テ何分ノ決定ナス迄ハ大正十

年六月衛第三二九七號廣島縣知事ニ對スル回答ノ趣旨ニ鑑ミ注意其他適當ノ方法ニ依リ當業者ニ於テ該製劑ヲ使用セサル樣御取計相成候樣致度

●有害性著色料取締規則

（明治三十三年四月十七日）
（内務省令第十七號）

沿革　明治三七年七月内令第一二號、三九年六月第八號、四二年一月第一號、大正二年七月第一二號改正

第一條　有害性著色料ヲ分テ左ノ二種トス

第一種　左ニ揭クル物質其ノ化合物及之ヲ含有スルモノ砒素、拔倫謨、嘉度密烏謨、格羅謨、銅、水銀、鉛、錫、安知母紐謨、烏拉紐謨、亞鉛、藤黃、必倜林酸、「ダニトロクレゾール」、「コラルリン」

第二種　左ニ揭クル物質及之ヲ含有スルモノ　硫酸拔倫謨、硫化嘉度密烏謨、酸化格羅謨、朱、酸化錫、「ムツシーフ」金、酸化亞鉛、硫化亞鉛、銅、錫、亞鉛及其ノ合金屬ニシテ固有ノ光澤ヲ有スルモノ

第二條　有害性著色料ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス但野菜果實類ノ貯藏品ニ在リテハ其ノ一「キログラム」中銅百五十「ミリグラム」迄布ニ在リテハ其ノ無水物一「キログラム」中銅百「ミリグラム」昆布ニ在リテハ其ノ無水物一「キログラム」中銅二百「ミリグラム」ヲ含有スル限度マテ銅、銅化合物又ハ之ヲ含有スル著色料ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第三條　有害性著色料ヲ以テ著色シタルモノハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ容器又ハ被包ニシテ飲食物ノ容器又ハ被包トシテ使用スルコトヲ得ス但シ左ニ揭クルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　漆、硝子、釉藥又ハ琺瑯質ニ有害性著色料ヲ融和シタルモノ

二　第一條第二種ノ著色料ヲ以テ著色シタル容器又ハ被包ニシテ飲食物ニ其著色紙混入ノ虞ナキモノ

第四條　第一條第一種ノ著色料ハ販賣ノ用ニ供スル化粧品、齒磨、小兒玩弄品（繪雙紙、錦繪、色紙ヲ含ムノ）ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ左ニ揭クルモノハ此限ニ在ラス

一　漆、硝子、釉藥又ハ琺瑯質ニ有害性著色料ヲ融和シタルモノ

二　護謨質ニ融和シタル金硫黃

三　乾燥油又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布シタル酸化鉛（鉛丹ヲ含ムノ）又ハ格羅謨酸鉛（硫酸鉛ト併用セルモノヲ含ム）但シ剝離シ易キモノハ此ノ限ニ在ラス

四　水ニ不溶性ノ亞鉛化合物ニシテ護謨質又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布スル場合ノ外販賣ノ用ニ供スル護謨製玩弄品

酸化亞鉛又ハ硫化亞鉛ハ護謨質又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布シタル酸化鉛（鉛丹ヲ含ムノ）又ハ格羅謨酸鉛（硫酸鉛ト併用セルモノヲ含ム）ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス

第五條　砒素ヲ含有スル著色料ハ販賣ノ用ニ供スル衣服其ノ他身ノ圍リニ用ユル物品又ハ其ノ材料ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ布片百平方「センチメートル」中二「ミリグラム」以下ノ砒素ヲ含有スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　第二條ニ違背シテ著色シタル飲食物第三條ノ容器被包及ヒ之ヲ使用シタル飲食物又ハ第四條若ハ第五條ニ違背シテ製造シ著色シタル物品若ハ材料ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第七條　前條ノ物品ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年（二月）法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

タル營業者ニ關シテ亦同シ

第八條　地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年（二月）法律第十五號第二條乃至第六條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　第二條乃至第六條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法

人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十一條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 鉛白ハ當分ノ內第四條ノ規定ニ拘ハラス化粧品トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●人工甘味質取締規則

沿革 明治三九年六月內務省令第一二號改正

（明治三十四年十月十六日 內務省令第三十一號）

第一條 人工甘味質トハ「サツカリン」（甘精）其ノ他之ニ類スル化學的製品ニシテ含水炭素ニ非サルモノヲ謂フ

第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ニハ人工甘味質ヲ加味スルコトヲ得ス

人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

本條ノ規定ハ第三條第一項第二項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第三條 地方長官ハ治療上ノ目的ニ供スヘキ飲食物ノ調味ニ人口甘味質ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ飲食物ハ醫師ノ證明アル者ニ限リ之ヲ販賣授與スルコトヲ得

本條第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ飲食物ヲ他人ニ代理販賣又ハ請賣セシムルトキハ其ノ氏名及營業所ヲ地方長官ニ届出ヘシ

本條第一項ノ許可ハ地方長官ニ於テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第四條 前條ノ飲食物ヲ販賣授與スルトキハ容器又ハ被包ヲ用ヰ其ノ容器又ハ被包ニハ「人工甘味質製」ノ六字ヲ記スヘシ

第五條 地方長官ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケシテ人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ニ關シテ明治三十三年二法律第十五

號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年二法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第七條 第二條第一項第二項第三條第三項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第九條 本則ハ明治三十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●清涼飲料水營業取締規則

（明治三十三年六月五日 內務省令第三十號）

沿革 明治三九年六月內令第九號、四三年七月第二六號、大正一二年三月第七號改正

第一條 本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラムネ」、「リモナーデ」（果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム）曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水竝果實汁、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノヲ謂フ

清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造（清涼飲料水ニ供スル鑛泉ノ採取ヲ含ム以下倣之）販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衞生技術員ヲシテ製造場ノ構造、設備及用水ヲ檢査セシムヘシ

第三條　清涼飮料水營業者ハ飮料水ニ接觸スル部分ヲ銅、鉛又ハ其ノ合金ニテ製シタル調製器、容器又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ス但シ鍍錫其ノ他衞生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　清涼飮料水營業者ハ清涼飮料水ノ製造又ハ貯藏ニ有害性「テール」色素、「サツカリン」其ノ他人工甘味質、有害性芳香質又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

「テール」色素ハ前項以外ノモノト雖モ製造地地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　清涼飮料水營業者ハ左ノ清涼飮料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一　濁濁又ハ變敗シタルモノ

二　沈澱物又ハ固形ノ夾雜物アルモノ

三　鹽酸、硝酸及硫酸其ノ他遊離鑛酸ヲ含有スルモノ

四　砒素、安知母紐謨、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ

五　有害性其ノ他製造地又ハ輸入地地方長官ノ許可ヲ受ケサル「テール」色素ヲ含有スルモノ

六　「サツカリン」其ノ他人工甘味ヲ含有スルモノ

七　有害性芳香質ヲ含有スルモノ

八　防腐劑ヲ含有スルモノ

果實汁、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飮用ニ供スルモノノ中原料トシテ使用スル果實ノ類、砂糖及水ノ外他物ヲ混和セサル製品ニ就テハ前項第一號及第二號ノ規定ハ原料植物ノ組織及成分ニ基因スル場合ニ限リ之ヲ適用セス但シ變敗シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　清涼飮料水製造者ハ其ノ氏名、社名、營業所ノ所在竝製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飮料水ヲ販賣スル容器ヲ封緘スヘシ但シ製造地地方長官ニ於テ許可シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラス

「テール」色素ヲ含有スル清涼飮料水ニハ製造者又ハ輸入者ハ其ノ容器ニ人工著色ノ文字ヲ明記スヘシ

第七條　清涼飮料水營業者ハ清涼飮料水ノ調製器、容器、量器及製造場其ノ他清涼飮料水ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第八條　清涼飮料水營業者ハ結核、癩病、徽毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ清涼飮料水ノ調製若ハ小分ヲ爲サシメ又ハ其ノ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス清涼飮料水營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第九條　地方長官ハ第三條ノ器具第五條ノ清涼飮料水ニ關シテハ明治三十三年二法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十條　地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十一條　清涼飮料水營業者虛僞ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用シ若ハ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虛僞ノ改竄ヲ爲シ若ハ爲サシメタル者ハ二十五日以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第十二條　左ニ揭ケル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一　認可ヲ受ケスシテ第二條ノ營業ヲ爲シタル者

二　第三條乃至第九條ニ違背シタル者

第十三條　第六條乃至第八條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　清涼飮料水營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

清涼飮料水營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附　則

第十五條　本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　地方長官ハ清涼飲料水ノ製造場ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●清涼飲料水營業取締規則施行細則

（明治三十三年六月三十日岐阜縣令第三十八號）

沿革　明治三八年三月縣令第九號、四〇年三月同第一五號、四五年七月同第三九號改正

第一條　清涼飲料水製造ノ營業ヲナサムトスル者ハ住所、族稱、氏名（法人ナルトキハ代表者ノ住所、族稱、氏名）及左ノ各號ヲ具シ原料水竝ニ原料品ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其届出事項ヲ變更シタルトキハ本文ノ手續ニ依リ三日以内ニ届ヘシ

一　清涼飲料水ノ種類及其ノ製造法

二　原料ノ品名及其ノ配合ノ分量

三　調製品、容器及量器ノ種類

四　營業所ノ所在（糸號アルモノハ其ノ商號トモ）

五　製造所ノ所在及其ノ構造方法竝圖面

六　原料水汲取場ノ所在及其ノ構造方法竝圖面但シ鑛泉ヲ用ユルトキハ其ノ分析成績書

第二條　清涼飲料水製造場ヲ借受ケ若クハ讓受營業ヲ爲サントスルモノハ貸與人若クハ讓渡人ト連署シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第三條　製造場ノ位置及構造ハ左ノ各號ニ依リ工事落成シタルトキハ製品見本ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

一　地盤ハ漆喰敲又ハ石、煉瓦石ヲ用フルコト

但シ石、煉瓦石ヲ用フルトキハ其ノ接合部ニ漆喰、セメントノ類ヲ施スヘシ

二　空氣ノ流通、光線ノ射入ヲ眞クスルコト

三　便所、塵芥溜、汚水溜ヲ距ル五間以上タルヘキコト

四　炊事場、浴場等ト近接セサルコト

第四條　（削除）

第五條　清涼飲料水ノ容器ノ種類又ハ製造販賣ノ方法ニヨリ封緘ヲ爲シ難キモノハ其ノ清涼飲料水及ヒ容器ノ種類、形狀又ハ製造販賣ノ方法ヲ詳具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第六條　廢業、轉居、改氏名、代替ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但シ其ノ死亡ニ係ルモノハ戸籍法第百二十六條ノ届出義務者ニ於テ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　本則第二條第五條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第八條　本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條　從前「ラムネ」製造販賣營業ノ許可ヲ受ケタルモノハ更ニ届出ヲ要セス引續キ營業スルコトヲ得但製造場ノ構造及位置本則第二條ノ規定ニ適合セサルモノハ明治三十三年八月三十日迄ニ移轉又ハ改造、修補ヲナスヘシ

第十條　明治二十七年四月岐阜縣令第十六號ラムネ製造販賣取締規則ハ明治三十三年六月三十日限リ廢止ス

●清涼飲料水製造場構造方法ノ件

（明治四十一年三月十八日指示衛第五號）

清涼飲料水製造場ノ不完全ナルモノニアリテハ左記方法ニ基キ此際改築修繕セシムルハ勿論將來新規築造ノ場合ニ於テモ同方法ニ基キ築造セシムル樣取扱フヘシ

清涼飲料水製造場構造方法

一 炭酸含有及其他ノ清涼飲料水ノ製造場ハ調製詰場及器具洗濯場ノ二室以上トスルコト

一 炭酸含有ノ清涼飲料水製造場ニアリテハ調製詰所ヲ二坪以上器具洗濯場ヲ二坪以上トシ其他ノ清涼飲料水製造場ニアリテハ調製詰場ヲ二坪以上器具洗濯場ヲ一坪以上トスルコト

調製詰場ト器具洗濯場トハ同一棟内ニテ區隔スルコト

一 室ノ高サハ地盤ヨリ天井マテ八尺以上トスルコト

一 製造場ノ内側ハ地盤ヨリ四尺以上六分板ヲ以テ腰張トシ該腰張板ハ全部ペンキ塗トナスコト

腰板ハ縦張トスルコト

一 室ニハ二方面以上腰板ノ上部ニ三尺以上ノ硝子戸ヲ設ケ尚ホ必要ニ應シ天井窓ヲ設クルコト

一 室内ノ炭酸瓦斯及汚染空氣ヲ排除スルタメ適當ノ換氣裝置ヲ設クルコト

一 室ノ地盤ハ可成煉瓦敷若ハセメント、コンクリートニテ築造スルコト

一 舍利別調製ニ使用スル竈ハ製造場外ニ設クルコト

●清涼飲料水製造營業ノ認可其他ニ關スル件

（大正十五年四月十四日）
（衞第三五一〇號通牒）

標記ノ件ニ關シ所轄稅務署ヨリ通知（通牒）有之候場合ハ直チニ當部ニ報告相成度

記

一 稅務署長ニ於テ清涼飲料水製造ノ免許申請ヲ受ケタルトキハ左ノ通リ取扱フコト

（イ） 免許スヘキモノト認メタルトキハ所轄警察署ヲ經由シ地方長官ヘ協議ノ上疑議ナキコトヲ確メタル後免許スルコト

（ロ） 免許スヘキニアラスト認メタルトキハ申請人ニ不免許ノ指令ヲ爲スト仝時ニ其旨之ヲ所轄警察署ヲ經由シ地方長官ヘ通報スヘシ

●清涼飲料水ノ製造其ノ他ニ關スル取扱方ノ件

（大正十五年六月二十五日）
（衞第六三一二號通牒）

清涼飲料水製造營業ノ認可其他ニ關シテハ本年四月十二日衞第三五一〇號ヲ以テ通牒致置候處尚左記事項名古屋稅務監督局長ヨリ協議ノ次第モ有之候條爾今清涼飲料水取締ニ關シテハ左記ノ通リ御取扱相成度此段及通牒候也

左記

一 明治三十三年法律第十五號ニ依リ收去又ハ廢棄ヲ命シ（任意申告廢棄申出ノ場合共）タル清涼飲料及原料品ノ取扱ニ付テハ

（イ） 製造場又ハ販賣場ニ於テ收去又ハ廢棄ヲ命シ（任意廢棄申出ノ場合共）タルトキハ營業者ノ帳簿ニ其ノ品名數量及事由ヲ記載セシメ收去又ハ廢棄命令官吏ヲシテ之ニ認印セシメラレタキ事

（ロ） 前號ノ廢棄又ハ倉庫其ノ他ニ於テハ封緘處分ニ付セラレタルトキハ其ノ時々所轄稅務署ニ通報セラレタキ事

二 製造機械不完全ノ爲メ修理ヲ命セラレタル等ノ爲メ事實營業休止トナリ其七日以上ニ及フ場合ハ營業停止命令ノ場合ニ準シ所轄稅務署ニ通報セラレタキ事

追而名古屋稅務監督局管内ノ製造者ノ設備スヘキ通帳ノ樣式ハ大体別冩ノ通リニ有之爲參考及添付候

製品受拂

ラムネ

月日	受入			拂出			差引現在高	
	個數	石數	摘要	個數	石數	摘要	個數	石數
1.7	1.000	.700	第一分界受入	.800	.560	移出	.200	.140
				10	.007	破損	.190	.133
1.8	.200	.140	何藥ヨリ戻入	.200	.140	原料ヲ使用	.190	.133

1. 各種目毎ニ別口座ニ整理スルモノトス
2. 石數ハ月計ノ外省略スルモノトス

原料品拂出

砂糖　（何々）

月日	數量	摘要
1.1	6.000	

通帳

月日	品名	數量	單價	價格
				圓

一 汚品ハ朱記ノコト

二 賣渡ノ時々賣渡人ニ於テ記載ノコト

●清涼飲料水ニ關スル件

必要有之候條每年自四月一日至三月三十一日一ヶ年間其ノ署ニ於テ廢棄セシメラレタル左記清涼飲料水數量別表ノ樣式ニ依リ四月末日迄ニ報告セラルヘシ

（昭和二年一月十日衛生第八號通牒）

左記（報告ヲ要スヘキ清涼飲料水）

法律第十六號清涼飲料稅法第二條ノ左記三種

第一種 玉ラムネ壜詰ノモノ

（炭酸瓦斯含有ノラムネ類）

第二種 其他壜詰ノモノ

（炭酸瓦斯含有ノサイダー類）

第三種 壜詰以外ノモノ

（右三種以外ノ炭酸瓦斯含有ノ壜詰ニアラサルソーダ水ノ如キヲ云フ）

報告書式

自 年 月 日
至 年 月 日 清涼飲料水廢棄數量報告

種別	廢棄數量	備考
第一種	石斗升合	
第二種		
第三種		
備考		

一 廢棄トハ本人ヲシテ任意廢棄ヲ命セラレタル場合モ含ム

二 廢棄數量ハ何石何斗何升ヲ以テ報告ノ事

●氷雪營業取締規則

（明治三十三年七月三日　内務省令第三十七號）

沿革　明治三九年六月内令第一〇號、大正元年一一月第一四號改正

第一條　本則ニ於テ氷雪ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル氷及雪ヲ謂フ
氷雪營業者ト稱スルハ氷雪ヲ採收製造シテ販賣シ又ハ其ノ卸賣若ハ請賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條　氷雪ヲ採收製造シテ販賣セントスル者ハ地方長官、其ノ卸賣ヲ爲サントスル者ハ警察官署ノ認可ヲ受クヘシ
地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ採取製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備竝ニ材料ノ檢査ヲ爲サシムヘシ

第三條　氷雪ノ融解水ハ無色透明ニシテ臭味ナク又夾雜物アルモ僅微ヲ過クヘカラス
氷雪融解水ノ百萬分中格魯兒量ハ二分硝酸量ハ一分安母尼亞量ハ〇・〇五分過滿俺酸加留謨、消費量ハ三分亞硝酸ハ痕跡ヲ過クヘカラス

第四條　氷雪營業者ハ第三條ノ規定ニ適合スル氷雪ニ非サレハ飲食用ノ目的ヲ以テ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第五條　飲食用ノ氷雪ヲ請賣スル營業者ハ飲食用ノ目的ヲ以テスルト否トニ拘ハラス第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ヲ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第六條　地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ
一　氷雪營業者飲食用ノ目的ヲ以テ販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ
二　第五條ノ營業者販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

第七條　地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第八條　第二條第一項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　氷雪營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
氷雪營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ義務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附　則

第十一條　本則ハ明治三十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　地方長官ハ氷雪ノ採取、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●氷雪營業取締規則施行細則

（明治三十三年七月三十一日　岐阜縣令第四十一號）

沿革　明治三四年二月縣令第七號、三八年一〇月同第四五號、四〇年三月同第一六號、大正元年七月同第三號、同年一一月同第一三號、一〇年一〇月同第二號改正

第一條　氷ノ製造販賣營業ヲナサムトスル者ハ住所、族稱、氏名ヲ記シ左ノ各號ヲ具シ原料水ヲ添ヘ毎年十一月十五日マテニ（人造氷ニアリテハ營業開始前）所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ但前年認可ヲ受ケタル製造場ヲ使用シ引續キ營業ヲナサムトスルトキハ原料ヲ添フルニ及ハス
一　製造場ノ位置、地目、面積及周圍六十間以内ノ地圖
二　製造場ノ構造方法及圖面（人造氷ニアリテハ平面圖、斷面圖、小屋伏トモ）

三 原料水ノ種類河水、井水等ノ別竝汲取所ノ構造及圖面
四 貯藏場ノ位置、構造、圖面及貯藏ノ方法
五 人造氷ニアリテハ製造ニ要スル器具器械ノ種類名稱
六 工事落成期限

第二條 雪ノ採取販賣營業ヲナサムトスル者ハ住所、族稱、氏名及其ノ採取地ノ位置、面積及周圍六十間以內ノ圖面ヲ前條ノ手續ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第三條 氷雪ノ卸賣營業ヲナサムトスル者ハ貯藏場ノ位置、構造竝ニ貯藏ノ方法ヲ記シ所轄警察官署ニ屆出許可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル後氷雪ノ貯藏ヲナサムトスルトキハ採取若ハ製造者ノ住所氏名竝斤量ヲ記シ合格證書ヲ添ヘ前項ノ手續ニ依リ屆出ヘシ

第四條 氷雪請賣營業ヲ爲サントスルモノハ毎年營業開始前ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

卸賣人又ハ請賣人支店ヲ設ケムトスルトキ亦同シ

第五條 氷製造場竝ニ貯藏場ノ構造ハ左ノ各號ニ據ルヘシ但シ二百貫目以內ノ氷塊ヲ一時貯藏スルモノハ簡易ノ構造ニテ特ニ認可スルコトアルヘシ

製造場ノ構造

一 天然氷ニアリテハ製造場ノ周圍ハ地盤ヨリ高クシ側面及底部ハ石、煉瓦石、「コンクリート」類又ハ六分以上ノ板ヲ用フルコト

二 適當ノ排水溝ヲ設クルコト

三 導水管ハ石、煉瓦石、鐵管、陶器若ハ木竹ヲ用フルコト

四 貯藏場ハ石又ハ煉瓦石造トナスコト

五 普通土藏ヲ使用スルトキハ其ノ內側ノ周圍ニ厚板ヲ張リ底部ハ小石 尺以上ヲ敷クコト

六 前二號ノ外ノ場所模樣ニ依リテハ尙適當ノ排水溝ヲ設クルコト

第六條 製造場、貯藏場ノ工事落成シタルトキハ製造採取營業者ハ所轄警察官署ニ屆出檢查ヲ受クヘシ

第七條 氷雪ヲ貯藏場ニ貯藏スルトキハ所轄警察官署ニ屆出立會封印ヲ受ケ其ノ解除ヲ要スルトキハ所轄警察官署ニ屆出テ立會ヲ受クヘシ但シ第五條但書ノ場合ハ此ノ限ニアラス

貯藏ノ場所ヲ變更スルトキハ其ノ都度前項ノ手續ニ據ルヘシ

第八條 製造場、採取場ヲ異ニスル氷雪ヲ同一ノ貯藏場ニ貯藏スルトキハ其ノ製造場、採取場毎ニ置場ヲ區劃スヘシ

第九條 氷雪ノ採取製造販賣營業ノ認可ヲ受ケタル者氷雪營業取締規則第四條ニ據リ其ノ氷雪ヲ販賣又ハ貯藏セムトスルトキハ製造場、斤量、貯藏場(天然氷ニアリテハ壹番氷貳番氷等ノ區別ヲ記シ)氷雪十斤ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ屆出檢查ヲ受クヘシ檢查ノ上氷雪營業取締規則第三條ニ適合シタルモノニハ合格證ヲ授與ス

第十條 本則第一條及第九條ノ場合ニ於テ檢查ニ要スル原料水汲取竝氷雪採取ノ際ハ警察官吏ノ立會ヲ受クヘシ

原料氷ハ五合以上トシ無色清潔ナル場ニ容レ密栓ヲ施シ氷雪ハ箱若ハ蓆、菰ノ類ヲ以テ包裝シ共ニ其ノ要部ニ封印ヲ受ケ差出スヘシ其ノ汲取竝採取ノ部分ハ警察官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第十一條 氷雪ヲ行商シ又ハ家族雇人ヲシテ行商セシメムトスル者ハ所轄警察官署ニ屆出一人毎ニ別記樣式ノ木札ニ烙印ヲ受ケ行商中之ヲ携帶スルコトヲ要ス

四寸

明治 年 月 日

氷行商 烙印

縣國郡市町村番戸
販賣人
卸賣人 何某弟
請賣人 長男 又ハ雇人
氏名

二寸五分

本質適宜

第十二條 氷雪採取製造販賣者又ハ其ノ卸賣營業者ニシテ氷雪營業取締規則第三條ニ適合セサル氷雪ヲ醫療用其ノ他外用ノ爲メ販賣セムトスルトキハ其ノ製造場、斤量、貯藏場及賣渡先竝外用ニ使スル事由ヲ詳記シ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第十三條 天然ノ結氷ヲ採取貯藏シ竝販賣セムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ氷十斤ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ屆出認可ヲ受クヘシ但檢査ニ要スル氷採取ニ就テハ本則第十條ノ手續ニ據ルヘシ

一 採取場ノ位置、面積及周圍六十間以內ノ地圖

二 貯藏場ノ位置、構造、圖面及貯藏ノ方法

第十四條 氷雪營業取締規則第三條ニ適合セサル氷雪ハ第九條第二項ノ合格證ヲ受ケタル氷雪及檢査ヲ受ケサル氷雪ト同一ノ貯藏場ニ貯藏スルコトヲ得ス

第十四條ノ二 氷雪ノ飲用器具ハ常ニ塵埃等ヲ防止スルノ裝置アル容器ニ納メ且一人每ニ淨水ヲ以テ洗滌スルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第十五條 廢業、轉居、改氏名、代替ヲナシタルトキハ五日以內ニ採取製造販賣營業者ハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ卸賣請賣營業者ハ所轄警察官署ニ屆出ヘシ但其ノ死亡ニ係ルモノハ戸籍法第百二十六條ノ屆出義務者ヨリ本文ノ手續ヲナスヘシ

行商者前項ノ場合ニ於テハ三日以內ニ屆出轉居改氏名ニ付テハ更ニ木札ニ烙印ヲ受ケ廢業死亡ニ付テハ其ノ削除ヲ乞フヘシ

第十六條 本則第四條第七條ノ各項第八條第十一條第十二條第十四條第十四條ノ二第十五條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第十七條 本則ハ明治三十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但雪ニ關シテハ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 明治三十一年四月岐阜縣令第四十一號氷雪營業取締規則中氷ニ關スル規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●牛乳營業取締規則

（明治三十三年四月七日 內務省令第十五號）

沿革 明治三九年六月內務省令第七號、四三年五月同第一七號、大正六年一二月同第一七號改正

第一條 本則ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脫脂乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル煉乳脫脂煉乳及紛乳ヲ謂フ

牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ搾取、製造、販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳ニ在リテハ一・〇二八乃至一・〇三四トシ脫脂乳ニ在リテハ一・〇三二乃至一・〇三八トス

全乳ノ脂肪量ハ百分中三・〇分以上トス

脱脂乳ノ乾燥物質量ハ百分中八・五分以上トス

第三條　煉乳ノ脂肪量ハ百分中八・〇分以上トス

煉乳又ハ脱脂煉乳中ニ混和スル蔗糖量ハ乳糖ヲ合算シテ百分中五五・〇分以下トス

第四條　牛乳ノ搾取又ハ乳製品製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ノ構造設備ヲ檢査セシムヘシ

第五條　牛乳營業者ハ左ノ牛ヨリ牛乳ヲ搾取スルコトヲ得ス

一　牛疫、炭疽、傳染性胸膜肺炎、流行性口蹄、狂犬病、結核、痘瘡、黴毒、乳腺病、膿毒症、尿毒症、敗血症、中毒、亞布答、腐敗性子宮炎、其ノ他熱性諸病ニ罹レル牛

二　牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥服用中ノ牛

三　分娩後七日以內ノ牛

第六條　牛乳營業者ハ亞鉛、銅、黃銅、燒附不瓦ニシテ具有害ノ釉藥ヲ施シタル陶器又ハ含鉛珐瑯ヲ塗布シアル鐵材料ニテ製シタルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器又ハ量器トシテ使用スルコトヲ得ス

第七條　牛乳營業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一　腐敗シタルモノ

二　粘稠若ハ苦味ナルモノ又ハ藍色赤色其ノ他異常ノ色ヲ呈スルモノ

三　他物ノ混合シタルモノ

四　第五條ノ牛ヨリ搾取シタルモノ

五　第二條ノ規定ニ適合セサルモノ

第八條　牛乳營業者ハ前條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ乳製品ノ原料ト爲スコトヲ得ス

第九條　牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若クハ貯藏スルコトヲ得ス

一　腐敗シタルモノ

二　他物ノ混合シタルモノ

三　第六條ノ容器ニ用キタルモノ

四　第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ

五　第三條ノ規定ニ適合セサル煉乳又ハ脱脂煉乳

第十條　牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニ全乳又ハ脱脂乳タルコトヲ明記スヘシ

脱脂煉乳タルコトヲ明記シ煉乳ノ容器ニハ煉乳、脱脂煉乳ノ容器ニハ

牛乳營業者ハ全乳ト記シタル容器ニ脱脂乳、煉乳ト記シタル容器ニ脱脂煉乳ヲ容ルルコトヲ得ス

第十一條　牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ容器、量器及牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第十二條　牛乳營業者ハ結核病、癩病、梅毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品若クハ其容器、量器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス牛乳營業者ニシテ其疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第十三條　牛乳營業者ハ傳染性ノ疾病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ行フヘシ

第十四條　地方長官ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ檢診セシメ一定ノ疾病ニ罹レル牛ニハ其ノ角ニ番號若クハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其ノ耳朶ニ番號若クハ符號ヲ記セル耳環ヲ付セシムルコトヲ得

前項ノ番號符號又ハ耳環ハ官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消除シ又ハ除去スルコトヲ得ス

第十五條　地方長官ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用キタル牛乳乳製品第七條各號ノ牛乳第九條各號ノ乳製品ニ關シテハ明治三十三年（二月）法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十六條　地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年（一月）法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十七條　第十四條第二項ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

第十八條　左ニ揭クル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 認可ヲ受クシテ第四條ノ營業ヲ爲シタル者
二 第五條乃至第九條ニ違背シタル者

第十九條 第十條乃至第十三條ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 牛乳營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

牛乳營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第二十一條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 乳牛ノ牛舍及牛乳搾取若クハ乳製品製造ニ用ユル場所ノ構造設備及管理方法ハ地方長官之ヲ定ム

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

第二十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

●牛乳營業取締規則施行細則

（明治三十三年六月三十日 岐阜縣令第三十七號）

沿革 明治三四年六月縣令第二四號、三八年七月第三六號、三九年九月第三八號、四〇年六月第二一號、四四年一月第三號、四五年七月第四五號、大正七年三月第五號、一三年三月第一一號改正

第一條 牛乳搾取營業ヲナサントスル者ハ住所、族稱、氏名及左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ但自ラ販賣ヲナサントスルトキハ届書ニ其旨ヲ附記スヘシ

一 （削除）

二 （削除）

三 營業所ノ所在（商號アルモノハ其商號トモ）

四 搾取所ノ所在坪數及四隣ヲ見ルニ足ルヘキ圖面竝構造仕樣書

五 牛乳ヲ取扱フ場所ノ位置、坪數及其構造仕樣書

六 搾取所設置ノ場所借地ナルトキハ持主承諾書寫

搾取所ヲ移轉又ハ改造、修補スルカ若ハ其一部ヲ變更セントスルトキハ其ノ部分ニ屬スル圖面及構造仕樣書ヲ添ヘ前項ノ手續ニヨリ認可ヲ受クヘシ

第二條 搾取所ヲ買受又ハ讓受其ノ營業ヲ繼續セントスル者ハ買主、讓主連署ヲ以テ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第三條 乳製品ノ製造營業ヲナサントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ現品ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

一 乳製品ノ名稱
二 製造ノ方法
三 製造場ノ所在及其ノ坪數竝構造仕樣書
四 原料ニ供スル牛乳ノ搾取營業者ノ氏名

製造場ヲ變更セムトスルトキハ更ニ前項ノ手續ニヨリ認可ヲ受クヘシ

乳製品ノ種類ヲ減シタルトキハ其ノ名稱ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第四條 牛乳又ハ乳製品ノ販賣請賣營業ヲナサムトスル者ハ搾取營業者、製造營業者ノ連署ヲ以テ所轄警察官署ニ届出ヘシ但乳製品ハ其名稱ヲ記載スヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第五條 營業者ハ門戸ニ牛乳又ハ乳製品ノ搾取製造、販賣請賣ノ別ヲ記シタル標札ヲ掲クヘシ

第六條 搾取所ハ隣地境界、人家、園道、縣道又ハ諸製造場等ヨリ五間以上、病院人畜埋火葬場、化製場、屠獸場等ヨリ六十間以上傳染病院、隔離病舍ヨリ百五十間以上ノ距離ヲ有シ且高燥ニシテ適當ノ飲料水ヲ有スル地ヲ撰ミ左ノ各號ニ

依リ構造スヘシ其ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

一 隣地トノ境界ニハ適宜圍ヲ設ケ其標内ハ牛舍及運動場ニ區別シ其ノ運動場ニ當ル部分ハ堅固ナル欄柵トナスコト

二 牛舍ハ平屋造二重屋根トシ内壁ハ高ハ六尺以上ノ板張ヲナシ且ツ適當ノ場所ニ空氣拔キ若クハ無雙窓ヲ附スルコト

三 牛房ハ單列トナシ一頭毎ニ幅四尺五寸以上奥行八尺以上トナシ前面ニ四尺以上後面ニ二尺以上ノ餘地ヲ存スルコト
但止ヲ得サル場合ニ於テ複列トナストキハ其中間ニハ六尺以上ノ通路ヲ設クルコト

四 牛房ノ床ハ適當ノ勾配ヲ付シ一寸以上ノ厚板ヲ以テ之ヲ張ルコト

五 牛舍ノ外部ニ糞尿溜ヲ設ケ適當ノ勾配ヲ付シタル尿樋ヲ牛舍ヨリ之ニ通スルコト
糞尿溜竝尿樋ハ石、煉瓦石、若ハ釉藥ヲ施シタル陶器ヲ以テ築造シ又ハ厚サ三寸以上ノ漆喰敲トナスコト
但土地ノ狀況ニ依リ糞尿溜桶尿桶ハ一寸以上ノ厚板ヲ用フルコトヲ得

六 糞尿溜ハ雨水ノ流入セサル裝置ヲナシ且適當ノ覆蓋ヲ設クルコト
石、煉化石、若ハ陶器ヲ用フルトキハ其ノ接合部ニハ漆喰セメントノ類ヲ施スコト

七 牛舍ハ飲料水ヲ距ル五間以上タルヘキコト

第六條ノ二 前條ニ據リ構造シタル搾取所ト雖モ地況ノ變遷其ノ他ノ事由ニ依リ構造制限ニ適合セサルニ至リタルトキハ改築、修補又ハ移轉ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 搾取所ノ構内ハ常ニ清潔ニ掃除シ牛房ハ時々洗滌スヘシ

第八條 乳牛ハ毎日適宜ノ運動ヲナサシメ皮膚ヲ清潔ニ梳拭シ炎熱ノ時ニアリテハ淨水ヲ以テ時々洗滌スヘシ

第九條 搾取所ニ別記樣式ノ牛籍簿ヲ備ヘ異動ノ都度登錄スヘシ
牛房ニハ各房見易キ所ニ牛籍簿記載ノ名稱ヲ記シタル木札ヲ掲ケ置クヘシ

第九條ノ二 搾取所内ニハ左ノ牛ノ外繫留スルヲ得ス但シ止ムヲ得サル事由ニヨリ警察官署ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

一 牛籍簿記載ノ乳牛及其ノ犢

一 檢查濟ノ種牡牛

第十條 乳牛ヲ搾取用ニ供セントスルトキハ其種類、毛色、特徵、産地、年齡、名稱及父母牛ノ血統ヲ詳記シ獸醫ノ健康證明書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出ヘシ

賣渡、讓渡ノ事由ニ依リ乳牛ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ其名稱ト事由トヲ具シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十一條 分娩シタルトキハ其日時及乳牛ノ名稱ヲ直ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十二條 疾病ニ罹リタル牛ハ直ニ獸醫ヲシテ診斷セシメ其診斷書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出ヘシ
治癒及斃死シタルトキ亦同シ

第十三條 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥、劇藥ヲ服用セシムルトキハ直ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十四條 傳染性ノ疾病ニ罹リタル牛ハ搾取所ノ構外ニ隔離病舍ヲ設ケ之ニ收容スヘシ其獸疫ニ係ルモノハ獸疫豫防法ノ規定ニ從フヘシ

隔離病舍ノ設置ニ付テハ本則第六條ノ規定ヲ適用ス

第十五條 牛乳ヲ取扱フ場所、乳製品製造場ノ位置及構造方法ハ左ノ各號ニ依リ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

一 地盤ハ漆喰敲トシ又ハ石、煉瓦石ヲ敷クヘシ其石、煉瓦石ヲ用フルトキハ接合部ニ漆喰、セメントノ類ヲ施スコト

二 空氣ノ流通及光線ノ射入ヲ良クスルコト

三 便所、塵芥溜、汚水溜ヲ距ル五間以上タルコト

四 炊事場、浴場等ト近接セサルコト

第十六條 牛乳又ハ乳製品ノ容器、量器、配達用器ノ類ハ他ノ器具ト混同シ若ハ他ニ共用セサル樣一定ノ場所ニ備ヘ置クヘシ

第十七條　乳汁ヲ搾取スルトキハ清潔ナル白衣ヲ著シ其下膊ヲ淨水又石鹸ヲ以テ洗滌シ乳房竝其周邊ハ微溫湯又ハ淨水ニテ洗滌シ清潔ナル白衣ヲ以テ之ヲ擦拭スヘシ

第十八條　乳汁ハ搾取ノ後清潔ナル綿布ノ類ヲ以テ濾過シタル後ニアラサレハ販賣スヘカラス其配達容器ハ有蓋又ハ有栓ノモノヲ用フヘシ

第十九條　（削除）

第二十條　牛乳營業取締規則第五條第一號ノ諸病ニ罹レル乳牛アリタルトキハ當該吏員ヲシテ其ノ角（無角牛ニアリテハ其ノ跡）ニ符號（病）字ヲ烙記セシム

第二十一條　前條ノ符號ヲ除去セントスルトキハ其事由ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二十二條　廢業、死亡、轉居、改氏名、代替ヲナシタルトキハ牛乳搾取及乳製品營業者ニ在テハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ請實營業者ニ在テハ所轄警察官署ニ五日以內ニ屆出ヘシ其死亡ニ係ルトキハ戶籍法第百二十六條ノ屆出義務者ヨリ本文ノ手續ヲナスヘシ

第二十三條　牛乳搾取營業者、乳製品製造營業者牛乳又ハ乳製品小賣營業者ハ牛乳搾取高、乳製品製造高又ハ其ノ小賣高ヲ（毎年一月ヨリ六月迄ノ分ヲ七月五日、七月ヨリ十二月迄ノ分ヲ翌年一月五日迄ニ）所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第二十四條　本則第四條第五條第九條第九條ノ二第十條第十一條第十二條第十三條第十七條第十八條第二十一條第二十二條第二十三條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第二十五條　從前許可ヲ受ケタル營業者ニシテ搾取所ノ構造本則ノ規定ニ適合セサルモノハ來ル明治三十九年五月三十一日迄ニ改造修補又ハ移轉ヲナスヘシ

第二十六條　搾取所ハ認可ノ後ト雖モ衞生上危害アリト認メタルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十七條　明治二十八年十一月岐阜縣令第四十七號牛乳營業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

別記樣式

乳牛ノ名稱	號	出生地	
種類		血統	父
毛色			母
特徵		健康證番號	
出生年月日	年　月　日生	輕症又ハ疑症結核ノ別	
入籍年月日及事由		屆出年月日	年　月　日
出籍年月日及事由			
備考	備考欄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ 一　分娩年月日及產犢ノ牝牡別 一　犢牛死亡シタルトキハ其ノ事由及年月日 一　交尾年月日及其種牡牛ノ名稱 一　其ノ他參考トナルヘキ事項		

●牛乳ノ比重及脂肪量ノ檢定方法

（明治三十三年五月二十一日 内務省令二十號）

沿革 明治四三年五月内務省令第一八號改正

一 比重

攝氏十五度ニ於テクウエンヌ、ミユルレル氏ノ乳稠計ヲ用ヒ計測ス若シ他ノ溫度ニ於ケルトキハ矯正表ニ依リ攝氏十五度ニ於ケル比重ニ換算ス

一 脂肪

硫酸（攝氏十五度ニ於テ比重一・八二〇乃至一・八二五ニシテ九十乃至九十一「プロセント」ノモノ）十立方「センチメートル」ヲ「ピペツト」ヲ用ヰテゲルベル氏「プチロメートル」ニ注入シ次ニ注意シテ純「アミールアルコホル」（攝氏十五度ニ於テ約比重〇・八一五ニシテ沸騰點百二十八乃至百三十度ノモノ）一立方「センチメートル」ヲ層積シ（前兩試藥ハ測取前ニ約十五度トナスヘシ）然ル後攝氏十五度ノ牛乳十一立方「センチメートル」ヲ「ピペツト」ヲ用ヰテ「プチロメートル」ノ腹部ニ接シ徐々ニ流下セシメテ「アルコホル」上ニ層積シ龜裂ナキ乾燥ゴム栓ヲ以テ善ク栓塞シ指ヲ以テ栓ヲ壓シツツ急ニ振盪シ牛乳ノ溶解シタル後更ニ數回彼方此方ヘ動カシ十五分時間六十乃至七十度ノ溫湯中ニ挿入シ次ニ二乃至三分時間遠心力器（一分時間廻轉數七百回以上ノモノ）ニ掛ケ更ニ六十乃至七十度ノ溫湯中ニ數分間挿入シ茲ニ折出セル脂肪層ノ度數ヲ讀取スヘシ而シテ其ノ度數ニ十分ノ一ヲ乘スルトキハ直ニ牛乳百分中ノ脂肪量ヲ得ヘシ

●牛乳中移行スヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件

（明治三十三年十月二十日 内務省令第四十七號）

第一條 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥品目左ノ如シ

石炭酸
安知母紐謨鹽類
砒素及其ノ化合物
銅鹽類
越攝利涅、斯篤利幾尼涅其ノ他
水銀鹽類
沃度加爾謨
阿片
鉛鹽類
藜蘆根
「アルカロイド」及其ノ鹽類
菲沃斯草
別刺敦那草
番木鼈子
亞鉛鹽類

以上ノ藥品ヲ含有スル諸製劑

第二條 獸醫前條ノ毒藥劇藥ヲ處方シタルトキハ其ノ旨ヲ牛乳營業者ニ告知スヘシ

第三條 獸醫前條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●牛乳營業取締規則第五條ノ適用方

（明治三十六年六月 内務大臣訓第三八三號）

明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則第五條ノ適用方左ノ通心得ラルヘシ

結核ニ付第五條ヲ適用スルハ檢診上左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一乳房結核 一重症肺結核 一汎發結核

前各號ノ外著シク榮養ヲ損害セル結核諸症

明治三十三年五月訓令第四百七十一號ハ之ヲ廢止ス

●牛乳竝獸肉檢査心得ノ件

（明治三十九年十一月九日 指示衛第七九八三號）

牛乳竝獸肉ノ檢査ハ左ノ心得ニ依リ施行スヘシ

牛乳檢査心得

牛乳ハ市乳卽チ一頭以上ノ乳牛ヨリ搾取シタル乳汁ヲ混合シテ配達セル途中ノモノヲ臨時收去シテ檢査スルヲ要ス

其著良ナル乳汁ノ白色(或ハ帶黃白色)不透明ノ濁稠液ニシテ絮狀又ハ粒狀等ノ沈澱物ヲ有セス甘味ヲ有シ不快ノ臭氣ナク左ノ各鑑定法ニ適合セルモノトス

濾過法ノ鑑定法

乳汁壜ヲ取リ徐々傾斜シ其底面ヲ望メハ汚物(汚垢、毛子其他ノ異物)沈澱シテ移動セルヲ見ルノミニシテ濾過法ノ不良(濾過布ノ非滑、粗造又ダ濾過後取扱上不注意ノ爲汚物ノ侵入シタルニ由ル)ナル結果ナリトス濾過法及取扱共ニ充分ナル純乳ニハ決シテ一點ノ異物ヲ認ムルコトナシ

反應ノ鑑定法

清水ヲ以テ浸潤シタル羅傅謨斯試驗紙(藍色又ハ赤色)ノ一端ニ硝子棒ヲ以テ一滴ノ乳汁ヲ滴シ其藍色紙赤變セルトキハ之ヲ酸性トシ赤色紙ヲ藍變セハ之ヲ亞爾加里性トス(但新鮮ノ牛乳ハ兩性若クハ微酸性ニ止マリ決シテ強酸性ヲ徵スヘカラス稍ヤ強酸性ヲ呈スルハ既ニ變敗ニ傾キシ徵ニシテ飲用ニ不適合ノモノトス

比重鑑定法

牛乳ノ約四〇〇cc(二合餘)ヲ圓筒ニ入レ檢溫器ヲ挿入シテ其溫度ヲ定メ置キ後チ比重計ヲ圓筒ノ周壁ニ觸レサル樣三十度ノ處迄沈入セシメ手ヲ放ツヘシ而シテ其液面比重計ノ度目二九ヨリ三四ノ間ニアルモノハ純乳即チ加水セサル乳汁ト判定シ後チ左ノ純乳比重矯正表ニ照ラシ其比重ヲ矯正スヘシ

脂肪量ノ鑑定法

硝子棒ニテ乳汁ヲ能ク攪拌シヒペツト(吸入管)ニテ吸取リ脂肪計ノ管壁ニ付著セラル樣(M—10ノ割度迄)注入シ之ニ三滴ノ加里油液(滴瓶ニテ)ヲ點加シ更ニ依的兒一〇cc(A—20ノ割度迄)ヲ加ヘ密栓ヲ施シ強ク振盪スルコト五分時間ノ後チ其乳汁能ク依的兒ト均等ニ混和シテ油狀ノ液トナルニ至レハ又更ニ亞爾個保兒一〇cc(A—30ノ割度迄)ヲ加ヘ再ヒ密栓シ振盪混和シタル後チ之ヲ其儘攝氏四十度(冬期ニ於テハ四十五六度ノモノ)ノ溫湯ヲ盛リタル硝子圓筒內ニ沈メ靜置スルトキハ暫時ノ後チ其所含ノ脂肪ハ油滴トナリテ拆出浮集シ透明黃色或ハ殆ンド無色ノ一層ヲ形成ス茲ニ於テ更ニ二十度ノ微溫湯中ニ移シ放置スルコト十五分間ニシテ之ヲ檢スレハ脂肪計ノ上部ニ於ケル度目〇ヨリ五迄ノ間ニ一ノ油層ヲ見ルヘシ此油層ノ度ヲ計リ左ノ「シュミット」氏表ニ對照シ二、八以上ニ相當スルモノハ佳良ノ乳汁ト判定スヘシ

混合物ノ有無鑑定法

可檢乳汁適宜ヲ試驗管ニ盛リ之ニ沃度丁幾二三滴ヲ點加シ能ク振盪スヘシ然ルトキハ若シ澱粉質(米汁又ハ蕨類等)ヲ混シタルモノハ直チニ藍色ニ變ス然ラサルモノハ單ニ多少黃色ニ變スルノミ

牛乳檢查ノ際ハ其附近ニ於テ決シテ火ヲ取扱フヘカラス亞爾個保兒、依的兒共ニ導火性非常ニ強キヲ以テ危險ノ度アリ

獸肉鑑別法心得

第一　本心得ノ親程ハ牛、馬、豚肉ノ三種ヲ檢查鑑別スルニ適用スルモノトス

第二　牛、馬、豚ノ何レヲ問ハス屠殺後直チニ檢查ヲ爲シタル場合ニ於テ左ノ各項ニ適合シタルモノハ佳良ナル肉種ト判定スヘシ

一　肉ノ一小片ヲ摘ミ其感觸ノ度ヲ檢スルニ強固ニシテ彈力ヲ有スルモノ

二　肉色深紫色ヲ帶ヒサルモノ

三　肉ノ一小片ヲ取リ硝子棒ノ一端ヲ鹽酸(稀鹽酸ヨリモヤヤ強キモノ)ニ濕シタルモノヲ觸接セシメ白霧ヲ生セサルモノ

第三　營業者ノ店舖又ハ途中行商者ニ就テ檢查ヲ行ヒタル場合ニ於テハ本心得第二ノ(三)ニ於ケル檢查法ニヨリ白霧ヲ生シタリトスルモ必スシモ不良ノ肉種ト斷定セス(一)(二)ノ性狀ヲ具備シ且ツ本心得第五ノ各項ニ適合シタルモノハ可良ナル肉種ト判定スヘシ

第四　反應ヲ檢スルニハ清水ニテ濕潤シタル羅傅謨斯試驗紙(藍色、赤色)ノ二種ヲ肉類ノ乾燥シタル上皮ヲ剝除シ之ニ貼接スヘシ而シテ僅々三四分間ニシテ何レモ變色セサレハ中性、藍色紙カ强ク赤變スレハ强酸性ニシテ既ニ變敗ニ陷イリシ徵ナレハ食用ニ不適合ノモノト判定スヘシ

但シ試驗紙ヲ取扱フ際ハ決シテ手指ヲ觸ルヘカラス必ラス清潔ナル鑷子ニテ取扱フヘシ

新鮮ナル獣肉ハ固性若クハ弱酸性ノ反應ヲ呈ス

第五　肉種ノ性狀ヲ各別ニ鑑別檢査スルニハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一　肉ヲ小片ニ細切シ試驗管ニ入レ適度ノ水ヲ加ヘ之ヲ煮沸シ脂肪分ヲ遊離セシメ之ヲ檢スルニ左表ニ適スルモノハ佳眞ナル肉種ト判定スヘシ

二　肉ヲ小片ニ細切シ試驗管ニ入レ稀硫酸ヲ加ヘ之ヲ煮沸スレハ馬肉ハ一種特異ノ馬尿臭ヲ放散シ牛肉ハ之ヲ放散セス

三　肉ヲ細切シ試驗管ニ入レ其容積ノ四倍ノ水ヲ注加シ能ク熟煮シタル後硝酸二三滴ヲ加ヘ更ニ沃度液二三滴乃至四五滴ヲ漢次注加スルニ其液色深赤色ヲ呈スルモノハ馬肉ニシテ淡黄色ヲ呈スルモノハ牛肉ト鑑別スヘシ

肉類ノ性狀左ノ如シ

種別	牛肉		馬肉	豚肉
筋	束細小ニシテ緻密		粗大ニシテ判明シ容易ニ分離シ易シ	牛肉ニ比シ尚ホ緻密ニシテ柔軟ナリ
脂肪色類	白	淡黄色	白色	
脂肪ノ溶融點	攝氏檢溫器 四十三乃至四十五度	同 二十一乃至二十三度	同 四十八度	
脂肪ノ凝固點	同 三十八乃至四十度	同 十八乃至二十度	同 四十二度	

第六　牛肉混合肉ナルヤ否ヤヲ鑑定スルニハ左ノ法ニ據ルヘシ

檢肉ヲ細切シ多量ノ水ヲ加ヘテ煮沸シ細目ノ金網ヲ以テ析出セル泡沫ヲ除去シ更ニ數分間煮沸スレハ牛馬雜肉ヲ混スルモ其分離シ來タル脂肪決シテ相混和スルコトナク（水少量ナレハ混和スルノ憂アリ）球狀トナリテ浮游ス今之ヲ徐ロニ冷却スルトキハ牛脂球ハ先ツ凝結シ白色半球形ノ固塊トナレトモ馬脂ハ尚ホ黄色ノ油液トナリテ存シ之ヲ凝結セシメンニハ更ニ數分時ノ放冷ヲ要スルヲ以テ其識別容易ナリ又此法ヲ以テ檢スルニ際シ純粹馬肉ノ疑アルモノハ故ラニ牛肉又ハ牛脂若干ヲ加ヘ

●牛乳檢查心得ノ件

（明治四十一年十月十二日　衛第一〇〇四一號）

明治三十九年十一月　指示衛第七九八三號ヲ以テ牛乳竝ニ獸肉檢查心得ノ件指示致置候處右ハ一般巡查ヲシテ乳肉ノ取締上簡單ナル豫備試驗法ヲ示シタルニ過キス之ニ由リテ直ヲニ牛乳ノ真否ヲ確定シ檢擧ノ方針ニ出テシムルノ主旨ニ無之比重及脂肪ノ測定法ハ內務省令ノ規定ニ依ルヘキハ固ヨリ論ヲ俟タサル義ニ有之候條不良乳ノ販賣者ニ對シ牛乳營業取締規則違犯ヲ告發スル場合ニハ必ス技術者ノ檢查成績書ヲ添付スル樣御措置相成度此段及通達候也

●警察官署ニ於テ牛乳檢查ヲ爲シタルトキ其都度報告方ノ件

（明治四十一年七月二日　通達衛第五六六一號）

警察官署ニ於テ牛乳ノ檢查ヲ爲シタルトキハ其都度左記樣式ニ依リ報告スヘシ

追而明治四十年三月十五日附通達衛第一七〇四號ハ之ヲ取消ス

（樣式）

牛乳檢查成績報告書

檢查月日時	色澤	濾過法ノ良否	臭味	反應	混合物ノ有無	溫度	改算脂肪量	換算脂肪量	適否

備考

（注意）不適乳汁投棄ノ數量其他參考トナルヘキ事項ハ備考欄ニ記載スヘシ

●搾取場建物ノ配置構造仕様ニ關スル件

（明治三十九年十二月八日　通達衛第八七五三號）

明治三十三年六月三十日岐阜縣令第三七號ニ依リ此後牛乳營業ヲ新規又ハ改築移轉ヲ願出ル者アルトキハ同令ニ據ルノ外尙其建物ノ配置廣狹等ハ左ノ圖面及仕樣方法ヲ標準トシ出願候樣取計フヘシ

追テ新規出願ニ對シテハ其新設地ニ於ケル牛乳ノ需用見込高及警察署河分署巡査部長派出所最近市街地迄ノ距離及兼テ取締上ノ便否等ニ付キ意見ヲ付スヘシ

構造仕樣方法

一　牛舍ハ土臺上ヨリ軒先ノ高サ八尺以上トシ屋棟ニ高サ一尺五寸幅五尺以上ニシテ約全長ニ亙ル鎧窓（又ハ無双窓）附ノ二重屋根ヲ設クルコト

二　牛舍ノ前面ハ全部高サ六尺ノ自在戸ヲ用ヒ其上部ハ壁トナシ後、側壁ハ圖面ニヨリ構造スルコト、但後、側壁ニ於テ適當ノ戸ヲ設クルハ妨ケナシ

三　種牡牛室及隔離舍ノ構造法ハ前項ニ準スルコト但種牡牛ヲ有セサルモノハ之ヲ構造セサルモ妨ケナシ

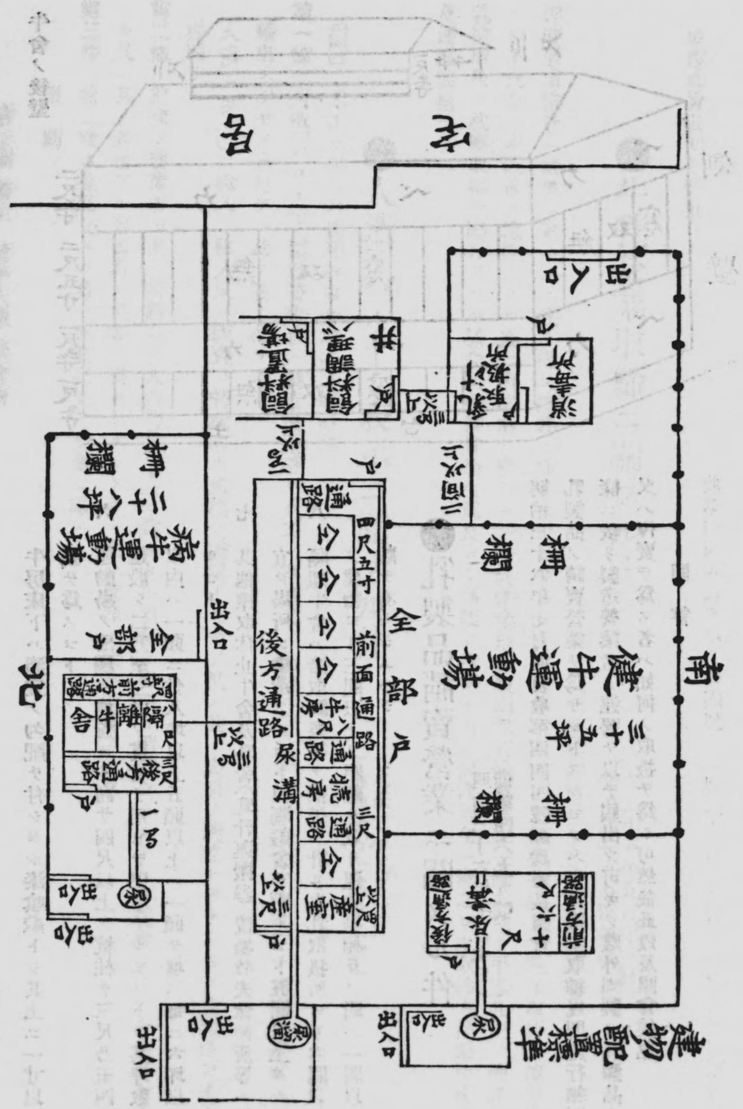
四　牛乳取扱所竝消毒所ハ軒先ノ高サ八尺以上トシ各別ニ區劃シ出入口及隔壁ヲ除ク外土臺ヨリ高サ三尺ヲ壁トシ其上高サ三尺ノ硝子戸（又ハ無双窓）ヲ付シ內部ニ白布ノ日覆ヲ天井ニ張ルコト

但取扱所ハ乳牛五頭以內ハ二坪半以上

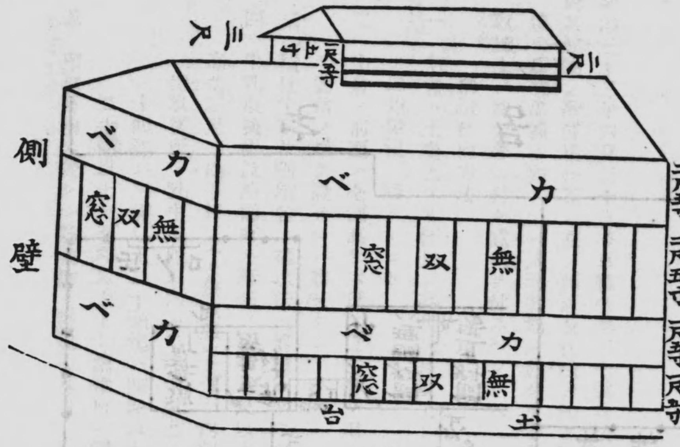
十頭迄ハ三坪以上二十頭迄ハ四坪以上

二十頭以上ハ五坪以上トシ消毒所ハ適宜之ニ準スルコト

五　搾取所內ニ於ケル各建物ノ屋根ハ瓦（又ハ板葺トシ其內壁、隔木、隔壁及柱材等ハ總テ高サ六尺以上ヲ白ペンキ塗リトスルコト



牛舍ノ後壁



牛房床下ハ適宜ノ勾配ヲ付シタル漆喰敲トシ其上ニ一寸以上ノ板張ヲ爲スコト

六 運動場ノ柵欄ハ地盤ヨリ高サ四尺以上ノ杭柱ヲ三尺乃至四尺毎ニ建設シ二乃至三段ノ貫材ヲ用ヒテ堅牢ナルモノトシ其坪數ハ五頭以内ハ一頭ニ付八坪以上五頭以上ハ一頭ヲ増ス毎ニ六坪以上トスルコト

七 其他搾取休止牛舍及乳舍(乳汁運搬器 置場牧夫休憩所等ハ構内適宜ノ場所ニ構造スルコト但隔離舍ヲ距ルコト五間以上タルヘシ

八 隔離牛舍ハ搾取飼與等ノ便否ヲ計リ牛乳取扱所ヨリ六間以上其他ノ建物ヨリ三間以上ノ距離ヲ取リ運動場相互ノ間ハ一間以上ノ距離ヲ有セシムヘシ

●乳製品請賣營業ニ關スル件

(明治三十六年七月七日 衛第四六九九號)

明治三十六年七月四日收第四四四號御嵩署長照會

乳製品ノ請賣營業ヲ爲サントスルモノハ牛乳營業取締規則施行細則第四條ニ依リ製造營業者ノ連署ヲ以テ屆出ツ可キノ處外國製ノ乳製品ヲ請賣又ハ復賣ヲ爲ス者ハ如何ノ取扱ヲ爲シ可然哉此段及照會候也

同 答

收第四四四號ヲ以テ外國製ノ乳製品請賣者ニ對スル取扱方御照會之趣了承右ハ請賣者ヨリ乳製品製造者ノ國名地名氏名又ハ社名ヲ記載セシメ若ハ商號商標ノ類ヲ添付シ屆出シムル樣御取扱相成度此旨及回答候也

●牛乳營業取締ニ關スル件

(大正十五年五月十三日 衛第四一九五號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

近時屠畜檢査ノ結果ニ徴スルニ往々現ニ搾乳ニ供セラルル牛ニシテ結核病アルモノ不尠樣被認又牛乳搾取所ノ清潔保持概シテ不充分ナルハ甚タ遺憾トスル處ニ有之右ニ關シテハ牛乳營業取締規則第五條及第十一條ニ依リ平素乳牛ノ檢診竝ニ牛乳搾取所ノ視察取締ヲ勵行スヘキ樣今回内務省衛生局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條爾今一層之レカ取締方督勵相成度此段及通牒候也

●人造「バター」表示ニ關スル件

(大正三年五月二日 農商務省令第十二號)

沿革 大正三年九月農商務省令第二三號改正

第一條 人造「バター」ノ製造營業者ハ製造後遲滯ナク其ノ容器又ハ包裝ニ「人造「バター」」ナル文字ヲ明瞭ニ表示スヘシ但輸出スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

人造「バター」ノ輸入、移入又ハ販賣ノ營業者カ前項ノ表示ナキモノ又ハ其ノ表示ノ明瞭ナラサルモノヲ取得シタルトキ亦同シ

第二條 前條ノ營業者ハ其ノ所持スル人造「バター」ニ爲シタル前條ノ表示カ消滅シタルトキ、明瞭ナラサルニ至リタルトキ又ハ其ノ表示アル容器若ハ包裝ヲ變更シタルトキハ更ニ前條ノ表示ヲ爲スヘシ

第三條 前二條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際第一條ノ營業者カ所持スル人造「バター」ハ之ヲ本令施行ノ日ニ製造、輸入、移入又ハ取得シタルモノト看做ス

●人造「バター」表示ニ關シ注意ノ件

（大正三年九月二十一日 農第八二〇〇號農商務省農務局長通牒）

大正三年農商務省令第十二號人造「バター」表示ニ關スル件ハ來ル十月一日ヨリ施行可相成義ニ有之候處人造「バター」即チ「オレオ、マルガリン」ハ乳脂（クリーム）以外ノ脂肪ヲ以テ又ハ其等脂肪ニ牛乳若ハ乳脂ヲ加ヘ製造シタルモノニテ其ノ外觀頗ル乳油ニ類似シ往々乳油トノ識別容易ナラサルモノ有之候而シテ人造「バター」ハ純粹乳油ノ高價ナル爲專ラ其代用品トシテ供給セラルルモノニシテ公衆衛生上別段排難スヘキ義ニ無之候得共其ノ生產費就品質ハ純粹乳油ニ比シ遙カニ劣レルニ拘ハラス世人ノ識別能力乏シキニ乘シ人造「バター」營業者ハ動モスレハ暴利ヲ貪リ且延テ純粹乳油生產者ノ受クル打擊尠カラサルハ誠ニ遺憾ノ次第ニ有之候依テ人造「バター」ト粹純乳油トヲ一見シテ直ニ區別セシムル爲人造「バター」ノ表示ヲ爲サシムルハ極メテ必要ノ措置ト認メ該省令ヲ發布シタル義ニ有之該令實施ニ際シテハ右趣旨ヲ體シ徒ラニ嚴勵ナル取締ニ失スルコトナク寬嚴其宜シキヲ得テ漸次右趣旨ノ普及ヲ期スル樣可然御取計相成度依命此段及通牒候也

●清酒中「サリチール」酸ノ試驗法

（明治三十六年九月二十八日 內務省令第十一號）

清酒二立方「センチメートル」ニ蒸餾水ヲ和シテ百立方「センチメートル」トヲ爲シ其ノ五立方「センチメートル」ヲ內容約五十立方「センチメートル」ノ分液漏斗ニ取リ之ニ稀硫酸（十「プロセント」）三滴及揮發石油（攝氏六十乃至百二十度ニ於テ蒸餾スルモノ）十五立方「センチメートル」ヲ注加シ五分間強ク振盪シテ靜置シ下層ノ水溶液ヲ除去シ殘留シタル揮發石油ヲ蒸餾水十立方「センチメートル」ト共ニ強ク振盪シテ靜置シ茲ニ分離析出スル下層ノ水溶液ヲ內徑約一、五「センチメートル」ノ無色試驗管ニ取リ之ニ過「クロール」鐵液（約一「プロセント」）一滴ヲ和シ直ニ白紙上ニ於テ上面ヨリ透視スルニ呈色スヘカラス

●清酒ノ製造又ハ貯藏ニ關スル件

（大正三年十二月二十四日 內務省令第二十九號）

清酒ノ製造又ハ貯藏ニ關シ別ニ定ムル所ノ清酒中「サリチール」酸試驗法ニ適合スル程度以內ニ於テ「サリチール」酸ヲ使用スル場合及之ヲ使用シタル清酒ヲ販賣陳列又ハ貯藏スル場合ニ付テハ當分ノ內明治三十六年九月內務省令第十號飲食物防腐劑取締規則第三條ヲ適用セス

「サリチール」酸ニ限リ當分ノ內明治三十六年九月內務省令第十號飲食物防腐劑取締規則第三條ヲ適用セス

●酒、醬油等ノ國稅ヲ課セラレタル物品ニ對シ分ヲ爲シタル場合報告方ノ件

（明治四十三年十月二十日 衛第八九八三號通牒）

酒醬油等ノ國稅ヲ課セラレタル物品ニ對シ明治三十三年二月法律第十五號第一條ノ處分ヲ執行シタル場合ニ於テ所轄稅務署ヘ通知方ノ件明治三十七年十月十五日衛第九二一八號ヲ以テ及通牒置候處爾今該通知ニ關スル事務ハ當部ニ於テ取扱フヘク候ニ付貴署ニ於テ之カ處分ヲ執行セラレタルトキハ左表ニ據リ即報相成度此段及通牒候也

處分執行年月日	物品ノ種類	處分ノ區別	處分ノ數量	處分シタル事由	製造者住所氏名	被處分者住所氏名

●メチールアルコホル（木精）取締規則

（明治四十五年五月二十八日　内務省令第八號）

第一條　メチールアルコホル（木精）ヲ含有スル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ製造、陳列若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第二條　メチールアルコホル（木精）又ハメチールアルコホル（木精）ヲ混和シタル物品ニハ其ノ容器ニ「メチールアルコホル（木精）」又ハ「メチ！ルアルコホル（木精）混和」ノ文字ヲ明記スルニアラサレハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第三條　メチールアルコホル（木精）ノ製造者、輸入者又ハ販賣者ハ帳簿ヲ作製シ其ノ製造高、受入高、讓渡高、使用高、受入先、讓渡先其ノ年月日及讓渡先使用ノ目的ヲ記入スヘシ

第四條　地方長官ハ當該吏員ヲシテ前項ノ帳簿ヲ檢閱セシムルコトヲ得

第五條　前項ノ帳簿ハ十年間之ヲ保存スヘシ

第六條　メチールアルコホル（木精）ヲ含有スル飲食物及其ノ營業者ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得

第七條　第二條又ハ第三條第二項ノ檢閱ヲ拒ミタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　第三條第一項又ハ第四條ニ違背シタル者若ハ第三條第二項又ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第九條　營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附　則

東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●水道條例

（明治二十三年二月十三日　法律第九號）

沿革　明治四四年三月法律第四三號、大正二年四月第一五號、一〇年七月第五六號改正

第一條　水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水源地、貯水地、濾水場、喞水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條　水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス但當該市町村ニ於テ其資力ニ堪ヘサルトキハ市町村以外ノ企業者ニ水道ノ布設ヲ許可スルコトアルヘシ

第三條　市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一　水道事務所ノ所在地

第二　水源ノ位置ノ河川池湖又ハ堀井及其水量ノ概算但圖面及水質ノ試驗表ヲ添フヘシ

第三　水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水池、濾水場、喞水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ

第四　給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

第五　人口增殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量增加ノ見込